

I 25年度自己点検評価報告書 総括表

I 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためのべき措置

1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

(1) 収蔵品の収集

【中期目標】国の文化財保護政策との整合性、一体性を保ちつつ機関の設置する博物館各館の役割・任務に沿って収集方針を定め、これに基づき、計画的かつ適時適切な購入と寄贈・寄託の受け入れを進め、体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の充実と保全を図ること。

【中期計画】

(1)-1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。

(東京国立博物館)

日本を中心にして広くアジア諸地域にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

(京都国立博物館)

京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

(奈良国立博物館)

仏教美術及び奈良を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

(九州国立博物館)

日本とアジア諸地域との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

(1)-2 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。

【主な計画上の評価指標】

○購入、寄贈・寄託の受け入れにより、各館の特色に沿った体系的・通史的にバランスのとれたコレクションを形成すること。

【24年度評価における主な指摘事項】

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 | |
|------|---|---|------|-----|
| | | | 年度 | 中期 |
| 1111 | (1)-1 適時適切な収集 各館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ確かな情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していく。 (東京国立博物館) 日本を中心として広くアジア諸地域の文化の体系的陳列を目指し、絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料の中から重点的に購入する。 | (1)-1 適時適切な収集 【東京国立博物館】 ・購入件数 5件。内訳：絵画1件、彫刻1件、金工1件、東洋染織2件。 ・決算額 123,950,000円 25年度は、絵画1件(伝靈彩筆文殊菩薩像)、彫刻1件(如意輪觀音菩薩坐像)、金工1件(重要美術品 線刻千手觀音鏡像)、染織2件(帯 銀地花卉段文様モール錦、帯 銀地花卉鱗文様モール錦)の計5件を購入した。 | A | 順調 |
| 1112 | (京都国立博物館) 京都文化を中心とした絵画、彫刻、書跡、陶磁器、染織品、漆工芸品、金工品、考古資料、歴史資料の中から重点的に購入する。 | 【京都国立博物館】 ・購入件数 0件 今年度は、購入がなかった。 | F | 要注意 |

| | | | | |
|------|--|--|---|----|
| 1113 | (奈良国立博物館) 仏教美術及び奈良を中心とした絵画、彫刻、書跡、陶磁器、染織品、漆工芸品、金工品、考古資料、歴史資料等の中から重点的に購入する。 | 【奈良国立博物館】 ・購入件数 3件 内訳：絵画1件、書跡1件、金工1件 ・決算額 40,350,000円 購入により3件の文化財が新たな収蔵品として加わった。 ・絵画 紌本著色弥勒菩薩來迎図 1幅 南北朝時代(14世紀) ・書跡 延長四年二月十三日民部省符 1幅 平安時代延長4年(926) ・金工 柄香炉 1柄 平安時代(9~12世紀) | A | 順調 |
| 1114 | (九州国立博物館) 日本とアジア諸国との文化交流を中心とした美術、考古及び歴史・民族資料等の中から重点的に購入する。 | 【九州国立博物館】 ・購入件数15件 内訳：絵画4件、書跡1件、彫刻1件、陶磁1件、漆工1件、染織3件、考古1件、歴史資料3件 ・決算額 724,756,100円 当館のテーマである日本とアジア諸国との文化交流の足跡を示す作品を收集する一方で、日本の王朝文化を象徴する作品として、優れた文化財を15件購入した。 | A | 順調 |
| 1121 | (1)-2 寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用 (4館共通) 1) 寄贈品及び寄託品の受け入れについて、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかけるとともに、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。 | 【東京国立博物館】 1)○寄贈 ・新規寄贈品件数 471件 内訳：絵画5件、書跡11件、彫刻1件、金工414件、刀剣2件、染織4件、歴史資料1件、東洋金工29件、東洋彫刻1件、東洋染織1件、黒田記念館収蔵品2件。 ○寄託 ・新規寄託品件数 20件 内訳：絵画2件、書跡2件、彫刻10件、漆工3件、東洋絵画3件。 ・寄託品は新規に20件を受け入れ、64件を返却した。 ・寄贈者については、平成館の寄贈者顕彰版コーナーをリニューアルし、多くの来館者の方々にこれまでの寄贈者の方々のお名前をご覧いただけるようにした。 【京都国立博物館】 1)○寄贈 ・新規寄贈品件数 13件 内訳：絵画5件、書跡1件、金工3件、漆工3件、染織1件 ・今年度寄贈品13件のうち、書跡1件は寄託品からの寄贈である。金工3件のうち、「刀」無銘(名物島津正宗)は近代以降に所在が不明であった名物刀剣であり、当館の刀剣コレクションが質・量ともに充実した。絵画では、海北友松、谷文晁、田能村竹田をはじめとする著名な近世の画家たちの優品を相次いで受贈した。 ○寄託 ・新規寄託品件数 70件 内訳：絵画25件、書跡2件、彫刻2件、金工12件、陶磁20件、染織8件、考古1件 | A | 順調 |
| 1122 | | | A | 順調 |

| | | | |
|------|---|---|----|
| 1123 | <p>・件数では昨年度より若干減少したが、来年度からの平常展示の再開に向けて、京都周辺の寺院から展示の目玉となる国宝・重文クラスの寄託を受けることができた。また、「狩野山楽・山雪展」や「魅惑の清朝陶磁展」など特別展開催を契機に、数多くの展示作品を寄託いただいた。</p> <p>【奈良国立博物館】</p> <p>1) ○寄贈 ・新規寄贈品件数 25件</p> <p>○寄託 ・新規寄託品件数 49件 内訳：絵画7件、彫刻24件、書跡11件、工芸7件</p> <p>・寄託については、新規に20人の所蔵者から49件の作品の文化財を受け入れた。 絵画7件(絹本着色行基菩薩像 1幅／絹本着色春日若宮祭礼図、鷹狩図屏風 6 曲1双／絹本着色春日社寺曼荼羅 1幅／絹本着色春日宮曼荼羅 1 幅／重要文化財旧慈門院障壁画 41面／絹本着色當麻曼荼羅 1幅 ／奈良市指定文化財 當麻練供養圖 1幅)</p> <p>彫刻24件 (重要文化財 木造天神坐像 1軸／銅造阿弥陀如來坐像 1軸／銅造光背 1面／木造阿弥陀如來立像 1軸／木造毘沙門天立像 1軸／ 木造藏王権現立像 1軸／木造南無仏太子立像 1軸／木造善導大 師坐像 1軸／三重県指定文化財 木造薬師如來坐像 1軸／桜井市 指定文化財 木造天神坐像 1軸／桜井市指定文化財 木造神像 (そ の一) 1軸／桜井市指定文化財 木造神像 (その二) 1軸／桜井市 指定文化財 木造神像 (その三) 1軸／桜井市指定文化財 木造神像 (その四) 1軸／桜井市指定文化財 木造神像 (その五) 1軸／桜 井市指定文化財 木造神像 (その六) 1軸／木造狛犬 1軸／銅造如 來坐像 1軸／銅造力士立像 1軸／銅造菩薩立像 1軸／銅造菩薩 立像 1軸／銅造十一面觀音菩薩立像 1軸／銅造天部坐像 1軸／ 銅造獅子 1軸)</p> <p>書跡 11 件(紙本墨書き大中臣親泰和歌懐紙 1幅／紙本墨書き公慶上人書状 1幅／ 紙本墨書き柳里恭日記 2帖／彩箋墨書詠歌大概 1帖／紙本着色大 乘院殿境内図 1鋪／称讃淨土仏撰受經 1巻／称讃淨土仏撰受經 1巻／紺紙金字大般若経卷第五百五十二 1巻／紺紙金字華嚴経卷 第三十七・卷第三十八 2帖／重要文化財紙本墨書法華經(久能寺 経) 4巻／写経断簡(五月一日経願文) 1幅</p> | A | 順調 |
| 1124 | <p>【九州国立博物館】</p> <p>1) ○寄贈 ・新規寄贈品件数 4件 内訳：絵画1件、陶磁1件、漆工1件、考古1件</p> <p>○寄託 ・新規寄託品件数 15 件 内訳：絵画 11 件、金工 1 件、刀剣 1 件、陶磁 2 件</p> | A | 順調 |

(2) 適切な管理保存

【中期目標】 収蔵品全体を常時、適切な保存及び管理環境下に置くこと。特に、施設の老朽化、耐震対策に計画的かつ速やかに取り組み、収蔵品と人の安全を守る施設・設備の整備を図ること。

【中期計画】

- (2)-1 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるため、収蔵品の保存・管理を徹底する。
現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。
- (2)-2 展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境整備を行う。

【主な計画上の評価指標】

- 収蔵品を適切に保存・管理するための、写真・管理データを蓄積すること。
○展示場、収蔵庫の老朽化対策や温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施すること。
【24年度評価における主要な指摘事項】
○X線CTスキャナ・3Dデジタルizerなどの三次元データの取得による保存状況や構造の把握は、収蔵品の保存・管理にとって有効と思慮され、機器類の一層の充実と、それらを扱う専門人材の確保も検討していく必要がある。

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 | |
|------|--|---|------|----|
| | | | 年度 | 中期 |
| 1211 | <p>(2) - 1 収蔵品の管理・保存</p> <p>収蔵品の保存・管理を徹底するとともに、現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。 (4館共通)</p> <p>1) 収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。</p> <p>(東京国立博物館)</p> <p>1) 列品存在確認作業（棚卸）を継続して計画的に実施する。</p> | <p>(2) - 1 収蔵品の管理・保存</p> <p>(東京国立博物館) (4館共通)</p> <p>1) 本格修理のための列品調査、対症修理の実施、列品貸与の点検として1,492件の保存カルテを作成し、蓄積した。 (東京国立博物館)</p> <p>1) 平成20年度末から実施している、収蔵品の所在と現状を悉皆的に調査する列品情報整備事業を継続して実施した。</p> <p>2) 旧資料部関係品を整理し、列品として編入するための作業を進めた。</p> | A | 順調 |
| 1212 | <p>2) 歴史資料・和書・古写真・ガラス乾板・館史資料等の旧資料部関係品を整理し、列品として編入活用・公開するための作業を進める。</p> <p>(京都国立博物館)</p> <p>1) 定期的に寄託品の所在確認作業を行う。</p> | <p>(京都国立博物館) (4館共通)</p> <p>1) 貸与に伴う点検時を主体として作成を行っている館蔵品の保存カルテの作成を継続して行い、253件作成した。</p> <p>・収蔵品の貸与記録及び館内の展示記録を継続して行った。 (京都国立博物館)</p> <p>1) 年に2回定期的に実施している寄託品の期間継続に伴う点検を実施した。</p> <p>・24年度に作成した寄託者向けリーフレットを新規寄託受け入れ時に寄託者に手渡</p> | A | 順調 |

| | | | | |
|------|---|--|---|----|
| 1213 | (奈良国立博物館) 1) 文化財保存修理所を円滑に運用して、文化財の積極的保存を図る。 | しし、引き続き制度への理解を深めてもらうように努めた。 ・新規寄贈品・寄託品を中心に、収蔵庫搬入前に燻蒸作業を積極的に実施した。 【奈良国立博物館】 (4館共通) 1) 保存カルテの作成 ・保存カルテについては、文化財の個別写真が添付されたフォームに統一し、保存修理指導室で作成・保管するシステムの運用が軌道に乗ったことで、120件を順調に作成した。 ・保存カルテのコンディション評価欄に記入されたA～Eの5段階評価についてデータを集計し、館蔵・寄託品データベースに統合するための準備を進めた。 (奈良国立博物館) 1) 文化財保存修理所の運用 ・学芸部と文化財保存修理所において、修理に従事する公益財団法人美術院、株式会社文化財保存、北村工房の3工房代表者との懇談会である今年度第1回目の文化財保存修理所協議会を25年9月24日及び26年2月20日に開催し、各工房の修理事業実施状況、修理所施設の維持・管理、工房内の温湿度をはじめとする保存環境改善に関する課題などを討議した。 ・館長以下博物館職員が定期的に文化財保存修理所各工房の修理実施状況を視察する修理所巡回を、4回実施した。 | A | 順調 |
| 1214 | (九州国立博物館) 1) 博物館科学・保存修復諸室を計画的に運用し、文化財の積極的保存・活用を図る。 | 【九州国立博物館】 (4館共通) 1) 収蔵品及び修理完了資料を中心とした保存カルテを94件作成した。 (九州国立博物館) 1) 収蔵品・展示品を中心としてX線CTスキャナ・3Dデジタイザ・三次元プリンタを用いて非接触で三次元データを取得し、保存状況と構造調査を実施した。測定結果をデータ化するとともに、3Dプリンタで出力した。このデジタルデータは文化財の保存に役立てると共に展示に反映した。また、保存修復施設1～6を運用し、計画的な保存修理事業を進めた。 | A | 順調 |
| 1221 | (2) - 2 施設の環境整備 展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境を整備する。 (4館共通) 1) 収蔵品の生物被害を防止するため、IPM(総合的有害生物管理)の徹底を図る。 | (2) - 2 施設の環境整備 | | |
| 1222 | (東京国立博物館) 1) 本館収蔵庫の整備計画を作成しつつ、既存収蔵庫のセキュリティ強化、環境改善の工事を実施する。 2) 収蔵品の保存と展示に関する環境について全館的視野にたって調査研究を進め、環境データの解析・蓄積を行う。 3) 展示場及び収蔵庫における地震対策の再検討と改善を図る。 4) 収蔵庫、展示室の温湿度、汚染ガスなど保存環境に関する年次報告を整備する。 5) 輸送中の文化財に生じる振動及び衝撃に関する計測と調査を実施する。 | 【東京国立博物館】 (4館共通) 1) 収蔵庫など551地点における生物生息状況を夏季に調査した。また、ゴキブリなど | A | 順調 |
| 1222 | (京都国立博物館) 1) 新平常展示館の建物引渡後に必要な各種整備を実施し、開館準備を進める。 2) 新平常展示館の開館までに、空調による調整開始前の空気環境、粉塵等の環境調査を行い、開館後の効率的な展示収蔵環境の維持管理に役立てる。 3) 特別展示館(重要文化財 旧帝国京都博物館本館)の震災補強ほかの改修計画を具体的に検討する。 4) 特別展示館の温湿度など、展示・保存環境に関する調査研究を行う。 | の生活害虫を防除するため、夏季に防虫薬剤を全館に設置した。 (東京国立博物館) 1) 本館収蔵庫に使用する整理箱を設計し、殺虫処理を行い、収蔵環境を総合的に整備した。 2) 収蔵庫及び展示室など302地点の温湿度を計測し、環境の評価及び処置を実施した。空気環境に関しては、収蔵庫及び外気など34地点におけるアルデヒド類及び有機酸類などを計測し、蓄積した。これらのデータの解析・評価に基づき、平成館特別展示室の温湿度環境を改善するための空調時間延長等の実験を実施し、効果を検証した。 3) 本館1階展示室改修工事に伴い、展示資料の展示支持具を設計し、地震対策を強化した。 4) 収蔵庫、展示室など232カ所の温湿度に關し、3段階に環境を分類(クラスI、II、要注意)した平成25年次報告書を作成した。 5) クリーブランド美術館への国際輸送中に梱包箱内で発生する振動・衝撃の計測を実施した。また、特別展「キトラ古墳壁画」出品作品について梱包・輸送及び陳列方法についての事前調査を行い、輸送を含めた環境管理の精度を高めた。 【京都国立博物館】 (4館共通) 1) 年間を通じて、収蔵庫での網羅的な昆虫類生息調査を行った。また、温湿度モニタリングを拡大した。日常清掃のための備品を拡充した。 (京都国立博物館) 1) 24年度に本体工事が完了した平成新館(新平常展示館)において25年8月に展示ケース工事などが完了、引渡を受けた。 2) 平成新館(新平常展示館)では、空気環境を調査し、東文研基準の展示収蔵環境を整えるための枯らし運転を行った。 3) 明治古都館(特別展示館)震災補強ほかの準備として、委託業者を決定し、詳細な建物調査を実施した。また、保存活用計画報告書の原案を作成した。 4) 明治古都館(特別展示館)、東収蔵庫等では、展示ケース内の温湿度モニタリングや昆虫類生息調査等、環境監視体制を強化し、状況に応じて、環境の維持・改善を図った。 | A | 順調 |
| 1223 | | 【奈良国立博物館】 (4館共通) 1) 館内の文化財害虫生息状況を把握するため、文化財の保管及び展示にかかる箇所を中心に、昆虫調査用トラップを2ヶ月に1回設置・回収し、調査結果の蓄積、分析を行った。 ・文化財害虫の生息が確認された展示室・展示ケースを中心に防虫シートを設置し、併せて展示施設の周囲に害虫忌避剤を散布した。 | A | 順調 |

| | | | | |
|------|--|--|---|----|
| 1224 | (奈良国立博物館) 1) 展示室及び展示ケースの温湿度管理について、無線LANによるデータ管理システムを更に充実させる。 2) 展示ケース内の温湿度・粉塵量などを継続的に計測し、ケースの調湿性能や気密性能の向上を図る。 3) 収蔵庫及び展示室の適正な温湿度管理の徹底を図る。 | ・収蔵庫周辺や展示室内、調査室内の衛生環境保持のため、掃除と防塵マット交換を定期的に実施した。 (奈良国立博物館) 1) 展示室及び展示ケース内の温湿度の管理をすることができる無線LANによるリアルタイムの温湿度管理システムにより、正倉院展のような多数の観覧者がもたらす展示室内的温湿度環境の変化に、科学的データを以て即時に対応した。 2)・展覧会ごとに展示レイアウトに応じて無線LAN温湿度センサーを設置し、期間中に得られたデータを展示終了後に分析して報告書を作成した。 ・正倉院展終了直後の25年11月12日に、毎年継続的に実施している展示ケース内の粉塵調査を宮内庁正倉院事務所研究員とともに実行した。 3) 展示室内的温湿度については無線LAN温湿度管理システムにより24時間リアルタイムで状況を把握した。収蔵庫及び文化財保存修理所各工房内については、ロガータイプの温湿度センサーを各5ヶ所程度設置し、定期的にデータの回収、分析を行うことによって温湿度の変化を把握した。 【九州国立博物館】 (4館共通) 1) 収蔵品の生物被害を防止するため、IPMの徹底を図った。文化財搬入に際し、IPMメンテナンスに基づく収蔵準備作業を実施すると共に、必要に応じて殺虫殺菌処理を実施した。 (九州国立博物館) 1) 常設展示室70、特別展示室約40、収蔵庫30ヶ所に温湿度計を設置し、環境データを解析した。また、トラップ、ダストを調査して収蔵環境の改善を行った。 2)・新たな温湿度モニタリング装置を導入し、早期対策に努めた。 ・環境データを解析することで、安定した収蔵庫・展示環境を維持することができた。 | A | 順調 |
| | | | | |

(3) 計画的な修理

【中期目標】収蔵品の保存技術の向上に努めること。

【中期計画】

- (3)-1 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。
- (3)-2 国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める。
- (3)-3 収蔵品、寄託品の増加に伴う収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査・研究並びに修理に伴う調査・研究のための基本設備の充実を図る。

【主な計画上の評価指標】

- 緊急性の高い収蔵品等から計画的に修理を実施すること。
- 文化財保存修理所の整備・充実のための取組を行うこと。
- 計画的な収蔵スペースの確保及び調査研究のための基本設備充実に向けた取り組みを行うこと。

【24年度評価における主な指摘事項】

| 処理 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 |
|----|------|------|------|
|----|------|------|------|

| 番号 | | | 年度 | 中期 |
|--------|---|---|----|----|
| 1311-1 | (3) - 1 収蔵品の修理 ① 計画的な修理及びデータの蓄積 修理、保存処理を要する収蔵品等については、外部の専門家等との連携の下、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。 (4館共通) 1) 文化財の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努め、緊急性の高いものから74件程度（東京：40、京都：10、奈良：9、九州15）の本格修理を実施する。 | (3) - 1 収蔵品の修理 【東京国立博物館】 (4館共通) 1) 紙本などの修理技術者として保存修復課に3名のアソシエイトフェローを配置し、館内で実施する館蔵品の本格修理、応急（対症）修理を本格化させた。作品の劣化予防のために408件の応急修理を実施し、緊急性の高いものから93件の本格修理を実施した。うち国宝2件、重要文化財3件、未指定品2件は寄附金による本格修理である。 (東京国立博物館) 1) 修理計画立案に向け、国宝・重要文化財を含む298件の作品に関して修理仕様の検討を行い、中長期修理計画策定を進めた。 2) データベース構築のために24年度に本格修理を実施した95件の内、修理が完了した84件の修理内容についてデジタル化を実施した。東京国立博物館文化財修理報告書XIVを刊行した。 【京都国立博物館】 (4館共通) 1) ・館費による修理に加えて、外部資金として財団の修理助成による修理を2件、昨年度より継続して実施した。 ・修理中に修理請負候補者選定委員による工程検査を行い、修理が適正に実施されているかを現場確認した。 ・本格修理実績 15件 内訳は絵画3件、彫刻1件、金工5件、漆工1件、染織4件、考古1件 (京都国立博物館) 1) 中長期的修理計画の策定に向けて、各分野の作品担当との調整に入った。 2) 収蔵品データベースの更新計画において、修理情報の集積を盛り込むことを念頭に、必要項目の洗い出しとデータ状況の確認を開始した。 【奈良国立博物館】 (4館共通) 1) ・館蔵品修理8件のうち、新規4件、前年度からの継続事業4件を実施した。 内訳 絵画4件 （※うち重要文化財 絹本着色十王図1件は3ヵ年継続事業の最 | A | 順調 |
| 1312-1 | (東京国立博物館) 1) 引き続き国宝・重要文化財の中長期修理計画を策定する。 2) 保存修復関係資料（前年度修理実施分）のデータベース化を図る。（70件程度） | | A | 順調 |
| 1313-1 | (京都国立博物館) 1) 中長期的修理計画の策定を検討する。 2) 収蔵品修理資料のデータベース化に向けた調査を開始する。 | | A | 順調 |

| | | | | |
|--------|---|---|---|----|
| | | 終年度。重要文化財 紬本著色普賢延命像1件は2ヵ年継続事業の最終年度。絹本著色六字経曼茶羅1件は2ヵ年継続事業の1年目。) 書跡1件 工芸1件 (※国宝 刺繍釈迦如來說法図1件は4ヵ年継続事業の2年目) 考古資料2件 (※うち陶棺 (奈良市西大寺出土) 1件は2ヵ年事業の最終年度。鉄製品 (二塚古墳出土) 1件は2ヵ年事業の1年目。) • 年度内に5件が完了した。 (奈良国立博物館) 1) 引き続き修理の中長期的計画に基づき修理を実施する。 2) 修理資料のデータベース化を図る。 3) 寄託の継続を図る必要性の高い寄託品について修理を実施する。 | | |
| 1314-1 | | 【九州国立博物館】 (4館共通) 1) 館所蔵品を中心に、展示や損傷の程度を勘案して、緊急性の高い文化財36件 (本格修理17件、応急修理19件) を修理した。 (九州国立博物館) 1) 九州をはじめとする館外所蔵者負担による文化財修理29件のために、当館の保存修復諸施設を積極的に活用した。館費による修理とあわせて65件の修理を実施した。(施設内修理62件、施設外修理3件 合計65件)。 2) 修理報告書及び修理経過を示す画像データを整理して、データベース化に備えた。 | A | 順調 |
| | ② 科学的な技術を取り入れた修理 伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。 (4館共通) | ② 科学的な技術を取り入れた修理 | | |
| 1311-2 | 1) 紙本文化財について、纖維同定を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 2) 修理前あるいは修理中に、蛍光X線分析、X線透過撮影などの光学的調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 | 【東京国立博物館】 (4館共通) 1) 絵画、書跡などの本紙あるいは敷き紙などについて、植物纖維の同定を34件 (A-1069 檜岡屏風など) 実施し、本紙の保存に関して検討を行った。 2) 修理前あるいは修理中に、蛍光X線分析66件 (J-16231黒曜石など) 、X線透過撮影 | A | 順調 |
| 1312-2 | (東京国立博物館) 1) X線CTスキャナーの導入に向けて取り組む。 | 19件 (TJ-2209鉄鍔戔など) 、高精細デジタルスキャナーによる可視・赤外域の撮影3件 (A-9972 鷹見泉石像など) の科学的調査を実施した。これらの結果を構造調査と修理設計に役立てた。 (東京国立博物館) 1) 大型垂直式X線CTスキャナー、大型水平式X線CTスキャナー、微小部X線CTスキャナーなど3機種を導入し、試験運用を開始した。 | A | 順調 |
| 1313-2 | (京都国立博物館) 1) 文化財材質分析システム等を整備する。 | 【京都国立博物館】 (4館共通) 1)・2) 「病草子」(紙本着色/平安時代後期/国宝)の修理に伴って、各種の光学調査と紙質分析を実施し、修理指針の検討に役立てた。(詳細は処理番号4562-2を参照) (京都国立博物館) 1)・成知新館(新平常展示館)に科学調査室及びX線撮影室を設けた。 ・文化財用マイクロフォーカスX線CTシステム、非接触3次元デジタイザ等の機器を調達した。 | A | 順調 |
| 1314-2 | (奈良国立博物館) 1) 木造文化財について、木材樹種同定の調査を行い、文化財の材料の解明及び修理指針の検討に役立てる。 2) 古墳出土の甲冑片、武具等鉄製品、木造彫刻などのX線撮影及び実測図作成を順次進め、材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 | 【奈良国立博物館】 (4館共通) 1) 館蔵紙本墨書き立川流儀軌航残巻の修理に際して料紙の纖維分析を実施し、補紙として用いる紙の仕様を決定した。(実施計1回) 2)・館蔵絹本著色普賢延命像の修理に際し、当館光学調査室の機器を用いて肌裏に残る顔料の蛍光X線分析を実施した。(実施計1回) ・館蔵刺繡釈迦如來說法図及び海住山寺所蔵阿弥陀浄土曼茶羅の修理に際し、ボーライトを用いて画面の蛍光画像調査を実施し、これに基づいて詳細な損傷図を作成した。(実施各1回、計2回) ・館蔵絹本著色六字経曼茶羅及び館蔵絹本著色安東円惠像の修理に際し、当館写真室において高精細デジタルカメラによる近赤外線撮影を実施し、補綴・補彩・損傷状態の観察を行った。(実施各1回、計2回) ・寄託品黒漆厨子(温泉寺蔵)の修理に際して当館研究員が透過X線画像を撮影し、木工の構造把握につとめた。(実施計1回) (奈良国立博物館) 1) 当館文化財保存修理所で修理施工された木造彫刻作品3件について、京都大学生存圏研究所に委託して樹種同定調査を実施し、その成果を当館研究紀要『鹿園雑集』に掲載した。 2) 古墳出土の鉄器を中心とする館蔵考古資料1件の修理に際し、X線撮影及び蛍光X線による材料分析を実施し、修理方針の決定に役立てた。(実施計2回) | A | 順調 |
| | | 【九州国立博物館】 (4館共通) 1) 当館所蔵国宝栄花物語及び重要文化財対馬宗家関係資料等の紙本作品7件について | A | 順調 |

| | | | | |
|------|--|---|---|----|
| | | <p>て繊維同定を行った。</p> <p>2) 東京国立博物館所蔵唐人物図屏風のオゼ部分に隠れていたオリジナルに近い彩色について、高精細画像で記録した。</p> <p>・当館所蔵仏涅槃団扇筆の裏彩色について顕微鏡による観察と写真撮影を行った後、ポータブル蛍光X線分析装置を用いて絵の具の材質分析も行い、使用されていた絵の具の調査を行った。</p> | | |
| 1320 | (3) - 2 国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める。 (京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館) 1) 文化財保存修理所等の整備・充実に向けた検討を行う。 | <p>(3) - 2 国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める。 【京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館】</p> <p>1) 京都国立博物館の文化財保存修理所の空調機を点検し、空調機内の中性能フィルターを一部の空調機で交換した。</p> <p>・奈良国立博物館の文化財保存修理所の消火設備を現状のスプリンクラー設備に換えて、火災時に収蔵品を毀損する恐れの少ないガス消火設備（ハロンガス）を設置した。</p> <p>・奈良国立博物館の文化財保存修理所の防犯センサーを更新するとともに監視カメラを新たに設置した。</p> <p>・九州国立博物館の保存修復施設について、室内温湿度環境の改善の検討を行った。</p> <p>(京都国立博物館)</p> <p>1) 文化財保存修理所改修工事（一期工事）に着手した。</p> | A | 順調 |
| 1330 | (3) - 3 収蔵品、寄託品の増加に伴う収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査研究並びに修理に伴う調査研究のための基本設備の充実に向けた検討を行う。 | <p>(3) - 3 収蔵品、寄託品の増加に伴う収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査研究並びに修理に伴う調査研究のための基本設備の充実に向けた検討を行う。</p> <p>【東京・京都・奈良・九州国立博物館】</p> <p>(東京国立博物館)</p> <p>・東洋館の各収蔵庫について適切な配置を検討し、より効率的に収納が可能となるように収蔵品を移動した。</p> <p>・東洋館3階の収蔵庫の断熱を強化し、温湿度環境の向上を図った。</p> <p>・資料館3階の収蔵庫に棚を追加し、収納の効率化を図った。</p> <p>・平成館地下考古収蔵庫の扉を修理し、より円滑に作品を搬出入できるようにした。</p> <p>(京都国立博物館)</p> <p>・温湿度などの計測情報を常時監視でき、同時にサーバーにて一元的に管理・蓄積できる「環境モニタリングシステム」の、平成知新館（新平常展示館）での運用について精査し、設計変更や運用方法に反映させ、導入した。</p> <p>・平常展示館内のフィルム保管室の温湿度環境について、設定温湿度、空調時間、運用方法等の検討を行った。</p> <p>・デジタルカメラ等撮影機材の導入、及びサーバーの構築を行い、デジタル撮影への移行を進めている。</p> <p>(奈良国立博物館)</p> | A | 順調 |

| | <ul style="list-style-type: none"> ・火災時に収蔵品を毀損する恐れの少ないガス消火設備（ハロンガス）を収蔵庫・一時保管庫に設置した。 ・既存の収蔵棚を改造し、より効率的な収納を図った。 ・収蔵庫内壁の断熱を強化し、温湿度環境の向上を図った。 <p>(九州国立博物館)</p> <p>・図書閲覧室に書棚（40台程度）を設置し、寄贈書受け入れスペースを増やした。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------|------|------|-----|----|-------------|--|--|--|--|---------|----|----|----|---|---------|----|----|----|---|---------|---|---|---|---|---------|----|----|----|---|------------------|--|--|--|--|---------|----|----|----|---|---------|-----|----|---|---|---------|----|----|---|---|--|--|
| | <table border="1"> <thead> <tr> <th>定量評価項目</th> <th>25年度</th> <th>24年度</th> <th>目標値</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文化財の本格修理(件)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>　　東京国立博物館</td> <td>93</td> <td>95</td> <td>40</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>　　京都国立博物館</td> <td>15</td> <td>13</td> <td>10</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>　　奈良国立博物館</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>　　九州国立博物館</td> <td>17</td> <td>20</td> <td>15</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>文化財修理のデータベース化(件)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>　　東京国立博物館</td> <td>84</td> <td>83</td> <td>70</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>　　京都国立博物館</td> <td>101</td> <td>93</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>　　奈良国立博物館</td> <td>73</td> <td>70</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> | 定量評価項目 | 25年度 | 24年度 | 目標値 | 評価 | 文化財の本格修理(件) | | | | | 東京国立博物館 | 93 | 95 | 40 | S | 京都国立博物館 | 15 | 13 | 10 | S | 奈良国立博物館 | 8 | 9 | 9 | B | 九州国立博物館 | 17 | 20 | 15 | A | 文化財修理のデータベース化(件) | | | | | 東京国立博物館 | 84 | 83 | 70 | A | 京都国立博物館 | 101 | 93 | — | — | 奈良国立博物館 | 73 | 70 | — | — | | |
| 定量評価項目 | 25年度 | 24年度 | 目標値 | 評価 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 文化財の本格修理(件) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 東京国立博物館 | 93 | 95 | 40 | S | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 京都国立博物館 | 15 | 13 | 10 | S | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 奈良国立博物館 | 8 | 9 | 9 | B | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 九州国立博物館 | 17 | 20 | 15 | A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 文化財修理のデータベース化(件) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 東京国立博物館 | 84 | 83 | 70 | A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 京都国立博物館 | 101 | 93 | — | — | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 奈良国立博物館 | 73 | 70 | — | — | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

(1) 展示の充実

【中期目標】 文化財を活用して日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外へ発信するため、展示、教育活動、広報の充実を図ること。

(1) 展覧事業の充実

我が国の中核的拠点として、展覧事業については常に点検・評価を行うなど改善への取組みを進め、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外へ発信し、これらについての理解促進に寄与するものとなるよう努めること。

①展覧事業の中核である平常展は、歴史・伝統文化についての理解に資するよう、体系的・通史的な展示に努めるとともに、各館の収蔵品を法人全体として有効活用した魅力ある展示を行うこと。また、より多くの方々に我が国の歴史・文化財の理解を深めてもらうため、来館者の増加に努めること。さらに海外からの来訪者が必ず訪れる博物館を目指し、魅力ある展示と展示に関する説明を一層充実させること。

②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行うこと。また、展示方法、解説などについて機構の人的資源を最大限に生かした魅力あるものを提供すること。また、展示内容・展覧環境を踏まえた適切な来館者数の確保に努めること。

③海外に向けても機構の各博物館の収蔵する日本の優れた文化財と優れた人材を活用して、我が国の歴史と伝統文化を紹介する機会の拡充に努めること。

【中期計画】

文化財を活用して日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外へ発信するため、展示、教育活動、広報の充実を図るとともに、政府の観光政策と連動した観光資源としても活用を図る。

(1) 展覧事業の充実

我が国の中核的拠点として、展覧事業については、常に点検・評価を行い国民のニーズ、学術的動向等を踏まえた質の高いものを実施するとともに、展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、国際文化交流に配慮するなど魅力あるものとする。

また、見やすさ分かりやすさに配慮した展示及び解説や音声ガイド等の導入を行うことにより、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化についての理解を深めるものとなるよう工夫する。

①-1 平常展は、展覧事業の中核と位置づけ、各国立博物館の特色を十分に發揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。

なお、京都国立博物館においては、耐震化を図るために平常展示館建て替え終了後、国際文化観光都市・京都において京都文化発信の核となる博物館を目指した平常展を平成26年度までに開催する。

①-2 展示に関する説明を一層充実させることに努め、作品キャプションについては全てに英語訳を付すとともに、展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を80%以上設置する。

②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。

特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。

| | |
|-----------|---------|
| (東京国立博物館) | 年3～4回程度 |
| (京都国立博物館) | 年2～3回程度 |
| (奈良国立博物館) | 年2～3回程度 |
| (九州国立博物館) | 年2～3回程度 |

【主な計画上の評価指標】

○国民のニーズや学術的動向等を踏まえた質の高いものとすること。
○観覧者の理解が深まるよう展示・解説を工夫すること。

(平常展)

○平展覧事業の中核として、各館の特色を十分に發揮した体系的・通史的な展示とすること。

○作品のキャプションについては、すべてに英語訳を付すこと。

○海外からの来館者向けに、展示テーマごとに外国語の解説パネル等を80%以上設置すること。

(特別展)

○我が国博物館の中核的拠点にふさわしい質の高い展示とすること。

○各館ごとに以下の回数程度の特別展を実施すること。

東京国立博物館 3～4回

京都国立博物館 奈良国立博物館 九州国立博物館 2～3回

○個々の展覧会ごとに、展示内容・観覧環境を踏まえた目標入館者数を定め、それを達成すること。

○展覧会来館者の満足度を把握し、改善を図ること。

○海外において展覧会を開催し、日本の歴史と伝統文化を紹介すること。

【24年度評価における主な指摘事項】

○外国語（特に英語）での情報発信についてもさらなる充実が望まれる。

③海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 | |
|--------|--|--|------|----|
| | | | 年度 | 中期 |
| 2111-1 | <p>(1) 展覧事業の充実</p> <p>東京、京都、奈良、九州4館それぞれの特色を活かし、国内はもとより、海外からも国立博物館を訪れたくなるような魅力ある平常展や特別展を実施する。</p> <p>①-1 平常展</p> <p>展覧事業の中核と位置づけ、各国立博物館の特色を十分發揮した特集陳列等を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。</p> <p>(4館共通)</p> <p>平常展来館者数について、前中期計画期間の年度平均の確保を目指す。</p> <p>(東京国立博物館)</p> <p>ア 定期的な陳列替の実施（年5,800件程度）</p> <p>イ 陳列総件数 約7,500件</p> <p>ウ 本館「日本美術の流れ」を始めとする日本美術関係の展示、平成館の日本考古展示の更なる充実を図る。</p> <p>エ 特集陳列</p> <p>特別展「和様の書」の開催に合わせた特集陳列「和様の書－近現代編」を開催する。東洋館の開館を記念した特集陳列「上海博物館所蔵中国絵画精品展(仮称)」を開催する。また、館史に関連する特集を年間を通じて開催する。すでに恒例となった「博物館に初詣」関連企画、上野動物園・科学博物館との動物を取り上げた連携企画、台東区立書道博物館との連携企画などを実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「花生」（3月19日～6月2日） ・「うつす・つくる・のこす－日本近代における考古資料の | <p>【東京国立博物館】</p> <p>(4館共通)</p> <p>総合文化展(平常展)は、平成25年度においては、本館1階は26年4月のリニューアルオープンに向け、26年1月～26年3月まで本館15～19室を工事のため閉室したが、平常展来館者数の目標値である全中期計画期間の年度平均を上回った。</p> <p>(東京国立博物館)</p> <p>ア 定期的な陳列替を実施し、5,708件の展示替を行った。</p> <p>イ 陳列総件数 8,824件</p> <p>ウ 展示ケースの修理点検、低反射フィルムの貼替、清掃などで保存環境及び観覧環境の向上を図った。本館2階の展示ケースの補修を行った。また、26年1月より本館1階15～19室を閉室し、展示環境の改善のための工事を開始した（26年4月15日公開予定）。</p> <p>エ 33件の特集陳列を実施した。</p> | A | 順調 |

| | | | | |
|----------|--|--|---|------|
| | | | | |
| 2112-1 | <p>記録一」(9月10日～10月20日) •「江戸時代が見た中国絵画（仮称）」(5月13日～6月19日) 等 オ 文化庁関係企画 •「平成25年 新指定 国宝・重要文化財」(仮称) (4月16日～5月6日) 平成25年に新たに国宝・重要文化財に指定される文化財を展示する。</p> <p>(京都国立博物館) 平成25年度末の新平常展示館開館までの間、平常展は休止する。これに替えて、香川県立ミュージアムにて「いとうるわし。日本の美 京都国立博物館名品展」を開催する。(特別協力、4月20日～5月26日)」また、博物館・美術館への収蔵品の貸与を積極的に進め、ウェブサイトで情報を公開する。</p> | <p>オ 「平成25年 新指定国宝・重要文化財」を実施した(25年4月16日～5月6日)。また、新指定の重要文化財となった彫刻の一部を、同時期の本館11室においても展示した。</p> <p>【京都国立博物館】 (京都国立博物館) 平成知新館（新平常展示館）建替工事に伴い、平常展示を休止した。そのため次のように、館外での収蔵品の公開に努めるとともに、貸出作品の情報をウェブサイトで公開した。 •特別展「いとうるわし。日本の美 京都国立博物館名品展」(香川県立ミュージアム、4月20日～5月26日)」へ企画協力をした。(特別協力) •国内外の博物館・美術館への収蔵品の貸与を積極的に進めた。 (中期計画記載事項) 平成知新館(新平常展示館)建替後の平常展再開については、平成26年9月13日リニューアルオープン予定とし、その準備を進めた。</p> <p>【奈良国立博物館】 (4館共通) 平常展来館者数は、今年度の目標値となっていた前中期計画期間の年度平均を上回った。 (奈良国立博物館) ア 名品展においては、24時間空調運転による展示室の快適な保存環境のもとで、多数の優れた作品を展示し、その美を伝えることができた。 •西新館 絵画・書跡・工芸・考古部門の名品展 収蔵庫の工事(処理番号1330を参照)期間中、東新館を仮収蔵庫としたため、例年東新館で開催していた特別陳列を25年度は西新館で行い、西新館の名品展を休止した。 •なら仏像館 彫刻部門の名品展 所蔵者である寺院において仏堂の改修、建替等を行う際、堂内に安置されている仏像を当館で保管する機会を利用し、以下のようにこれを特別公開した。また、25年8月5日の大雨による雨漏り被害の補修工事期間中は、なら仏像館の一部の展示室を閉室した。 特別公開「金剛寺 降三世明王坐像」(23年10月24日～26年3月31日) 特別公開「定朝様の丈六阿弥陀像」(24年6月26日～26年3月31日)※ただし夏期特別展期間中を除く) •青銅器館 中国青銅器の名品展</p> | A | 順調 |
| 2113-1-1 | <p>(奈良国立博物館) ア 活発な収集と新しい資料の発掘により名品展（平常展）の充実を図る。 •西新館 絵画・書跡・工芸・考古部門の名品展 充実した展示ケースや照明設備を最大限活用し、より快適な鑑賞環境を提供する。 •なら仏像館 彫刻部門の名品展 5メートルに近い大きな仏像や等身大の仏像を中心に、できるだけケース外での展示を増やし、より見やすい環境で、優れた仏像等彫刻の美をアピールしていく。</p> <p>・青銅器館 中国青銅器の名品展</p> | <p>ア 名品展においては、24時間空調運転による展示室の快適な保存環境のもとで、多数の優れた作品を展示し、その美を伝えることができた。 •西新館 絵画・書跡・工芸・考古部門の名品展 収蔵庫の工事(処理番号1330を参照)期間中、東新館を仮収蔵庫としたため、例年東新館で開催していた特別陳列を25年度は西新館で行い、西新館の名品展を休止した。 •なら仏像館 彫刻部門の名品展 所蔵者である寺院において仏堂の改修、建替等を行う際、堂内に安置されている仏像を当館で保管する機会を利用し、以下のようにこれを特別公開した。また、25年8月5日の大雨による雨漏り被害の補修工事期間中は、なら仏像館の一部の展示室を閉室した。 特別公開「金剛寺 降三世明王坐像」(23年10月24日～26年3月31日) 特別公開「定朝様の丈六阿弥陀像」(24年6月26日～26年3月31日)※ただし夏期特別展期間中を除く) •青銅器館 中国青銅器の名品展</p> | A | 順調 |
| 2113-1-2 | <p>国内における屈指の青銅器コレクションの魅力をアピールしていく。 •特集展示コーナー等を設け、観覧者の関心を喚起する。</p> <p>イ 定期的な陳列替の実施（年70件程度） ウ 陳列総件数 約500件</p> <p>エ 特別陳列により名品展の充実を図る。 独創的な研究テーマ及び地域に密着した研究テーマによる特別陳列の充実 •「おん祭と春日信仰の美術」(12月7日～平成26年1月19日) •「お水取り」(平成26年2月8日～3月16日)</p> | <p>館が所蔵する中国・商（殷）～漢時代までの青銅器の逸品を展示した。</p> <p>・西新館で特集展示「新たに修理された文化財」(25年12月25日～26年1月19日)を開催した。 イ 定期的な陳列替を実施し、130件の陳列替を行った。 ウ 陳列総件数 632件（特別陳列・特集展示を含む） (改修工事の影響で西新館での名品展（珠玉の仏教美術）を休止したため、昨年度より陳列総件数減) エ 下記特別陳列を開催し、名品展の充実を図った。</p> <p>・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」(25年12月7日～26年1月19日) 陳列件数63件（陳列替3件） ・特別陳列「お水取り」(26年2月8日～3月16日) 陳列件数62件（陳列替22件） ○特集展示「新たに修理された文化財」(25年12月25日～26年1月19日)を開催し、保存修理事業の成果を公開した。陳列件数8件 ○特集展示「いにしえの東北～豊岡遺跡と平泉～」(26年2月8日～3月16日)を開催し、岩手県立博物館と平泉町（平泉文化遺産センター）の所蔵品を展示した。陳列件数31件 ○特別展示「正倉院宝庫の瓦」(10月26日～11月11日、12月25日～26年1月19日、26年2月8日～3月16日)を開催し、正倉院正倉整備工事に伴い、正倉院宝庫に葺かれていた瓦を展示了。陳列件数18件</p> <p>【九州国立博物館】 (4館共通) 平常展来館者数は、前中期計画期間の年度平均の9割を確保した。</p> | A | 順調 |
| 2114-1 | <p>(九州国立博物館) ア 定期的な陳列替の実施（年1,100件程度） イ 陳列総件数 約1,700件 ウ 文化交流展（平常展）のリニューアルに向けて引き続き検討する。</p> <p>エ トピック展示により、独創的なテーマ及び地域に密着したテーマを掘り下げる（日程はいずれも予定）。 •「江戸のサイエンス－武雄錦島家の西洋科学遺品（仮）」(関連11室、4月16日～7月7日) •「山の神々（仮）」(関連9室、10月22日～12月1日) •「アイヌ資料（仮）」(関連9、10、11室、12月10日～平成26年2月16日)</p> <p>①-2 展示説明の充実</p> | <p>(九州国立博物館) ア 定期的かつ計画的に陳列替を実施し、1,157件の陳列替を行った。 イ 陳列総件数 2,750件（うち国宝29件 重要文化財27件） ウ 文化交流展示室の広報に努め、来館促進のためのさまざまな企画を行なった。 関連展示第1室の映像機器老朽化のため、通常の展示室へ改修した。 エ 独創的な着想に基づいたトピック展示・特別公開を14回開催し、新鮮な展示を提供することができた。</p> <p>①-2 展示説明の充実</p> | B | ほぼ順調 |

| | | | | |
|--------|---|--|---|----|
| 2110-2 | (4館共通) 1) 作品キャプションについては全てに英語訳を付す。 2) 展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を80%以上設置する。 | 【東京・京都・奈良・九州国立博物館】 1) 東京国立博物館、奈良国立博物館及び九州国立博物館の展示説明において作品キャプション全てに英語訳を付した。 2) 展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を各館とも80%以上設置した。 (東京国立博物館) 展示テーマ数132件のうち、132件(100%)について外国語パネルを設置した。また、69件(52%)については中国語、韓国語での解説も付している。 (奈良国立博物館) 展示テーマ数47件のうち、43件(91%)について外国語パネルを設置した。 (九州国立博物館) 展示テーマ数47件のうち、40件(85%)について外国語パネルを設置した。また、33件(70%)については中国語、韓国語での解説も付している。 | A | 順調 |
| 2120 | ② 特別展 (共同企画) ・「国宝 大神社展」 (平成25年度 東京国立博物館、九州国立博物館) (東京国立博物館) 平成25年度は神道に関わる美術や、書跡など日本美術を紹介する展覧会を中心に実施する。 ア 「国宝 大神社展」(平成25年4月9日～6月2日) 祀りのはじまりから、神社をとりあげて、日本各地に伝来する神宝を一堂に展観する。(目標来館者数25万人) | ② 特別展 【東京・京都・奈良・九州国立博物館】 (東京国立博物館)特別展を8回開催した。 内訳：当館開催7回、海外展1回 (京都国立博物館)特別展を3回開催した。 (奈良国立博物館)特別展を3回開催した。 (九州国立博物館)特別展を5回開催した。 内訳：当館開催4回、海外展1回 ・「国宝 大神社展」 東京国立博物館での開催については、処理番号 2121-1 を参照。 九州国立博物館での開催については、処理番号 2124-4 を参照。 【東京国立博物館】 ア ・展覧会名 「国宝 大神社展」 ・会 期 平成25年4月9日（火）～6月2日（日）（49日間） ・会 場 平成館特別展示室第1～4室 ・主 催 東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション ・特別協力 神社本庁 ・協 力 千年の森フォーラム ・協 賛 あいおいニッセイ同和損保、大日本印刷、トヨタ自動車、三菱商事 ・作品件数 215件（うち、国宝77件、重要文化財90件） ・来館者数 193,990人（目標250,000人・達成率77.6%） ・入場料金 一般1,500円(1,300円／1,200円)、大学生1,200円(1,000円／900円)、高校生900円(700円／600円) 中学生以下無料 *（ ）内は前売り／20名以上の団体料金 | A | 順調 |
| 2121-1 | | ア ・展覧会名 「国宝 大神社展」 ・会 期 平成25年4月9日（火）～6月2日（日）（49日間） ・会 場 平成館特別展示室第1～4室 ・主 催 東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション ・特別協力 神社本庁 ・協 力 千年の森フォーラム ・協 賛 あいおいニッセイ同和損保、大日本印刷、トヨタ自動車、三菱商事 ・作品件数 215件（うち、国宝77件、重要文化財90件） ・来館者数 193,990人（目標250,000人・達成率77.6%） ・入場料金 一般1,500円(1,300円／1,200円)、大学生1,200円(1,000円／900円)、高校生900円(700円／600円) 中学生以下無料 *（ ）内は前売り／20名以上の団体料金 | A | 順調 |
| 2121-2 | イ 特別展「和様の書」(7月13日～9月8日) 平安から安土桃山時代にかけての和様の書の展覧を通じて、書の魅力を紹介する。(目標来館者数13万人) | ・アンケート結果 満足度72% 神社本庁をはじめ、日本全国の神社から全面的な協力を得ることができたために、神社の宝物や、日本の神々に関するさまざまな文化財を総合的に示すことができた。特に、かつてない規模と質で、神像彫刻の多様な表情と姿を紹介することができた。 イ 特別展「和様の書」 ・会 期 平成25年7月13日（土）～9月8日（日）（51日間） ・会 場 平成館特別展示室第1～4室 ・主 催 東京国立博物館、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション ・後 援 文化庁 ・特別協力 読売書法会 ・協 賛 光村印刷 ・協 力 あいおいニッセイ同和損保 ・作品件数 156件（うち、国宝51件、重要文化財35件、重要美術品10件） ・来館者数 104,577人（目標130,000人・達成率80.4%） ・入場料金 一般1,500円(1,300円／1,200円)、大学生1,200円(1,000円／900円)、高校生900円(700円／600円) 中学生以下無料 *（ ）内は前売り／20名以上の団体料金 ・アンケート結果 満足度 72% | A | 順調 |
| 2121-3 | ウ 特別展「京都一洛中洛外図と障壁画の美」(10月8日～12月1日) 洛中洛外図屏風とともに二条城など京都を象徴する各所の障壁画を展示し、その空間装飾を紹介する。 (目標来館者数25万人) | 三跡など能書の作品、四大手鑑などの至高の名品を集めた本展は、日本文化の中で独自に発展した仮名と漢字が融合した和様の書とともに、宮廷文学や料紙工芸など、書に関わる多様な日本の書の展覧を通して、書の魅力を広く紹介することができた。 ウ 日本テレビ開局60年 特別展「京都一洛中洛外図と障壁画の美」 ・会 期 平成25年10月8日（火）～12月1日（日）（48日間） ・会 場 平成館特別展示室第1～4室 ・主 催 東京国立博物館、日本テレビ放送網、読売新聞社 ・特別協賛 タマホーム ・協 賛 光村印刷、日本興亜損保 ・協 力 全日本空輸、日本貨物航空、日本通運、JR東日本、BS日テレ、シーエス日本、ラジオ日本、J-WAVE、文化放送、テレビ神奈川、楽天トラベル、京都市 ・技術協力 キヤノン、キヤノンマーケティングジャパン、JVCケンウッド、凸版印刷 ・作品件数 20件（うち、国宝1件、重要文化財11件） ・来館者数 278,801人（目標250,000人・達成率111.5%） ・入場料金 一般1,500円(1,300円／1,200円)、大学生1,200円(1,000円／900円)、高校生900円(700円／600円) 中学生以下無料 *（ ）内は前売り／20名以上の団体料金 ・アンケート結果 満足度 72% 超高精細映像展示を駆使して鑑賞の便をはかりながら、「洛中洛外図屏風」によって都の姿を俯瞰した上で、京都御所、龍安寺、二条城という京の街を象徴する建物の室 | A | 順調 |

| | | | |
|--------|--|---|----|
| 2121-4 | <p>エ 特別展 上海博物館 中国絵画名品展（仮称）（10月8日～12月1日） 中国五代・北宋から明清にいたる中国絵画の流れを、時代と流派を代表する名品によって辿る。（目標来館者数4.5万人）</p> <p>内の中間構成を立体的に再現することで、400年前の京都の空間を実感的に示すことができた。</p> <p>エ 東洋館リニューアルオープン記念 特別展「上海博物館 中国絵画の至宝」</p> <ul style="list-style-type: none"> 会期 平成25年10月1日（火）～11月24日（日）（48日間） 会場 東洋館8室 主催 東京国立博物館、上海博物館、日本経済新聞社、毎日新聞社 協力 全日本空輸株式会社 作品件数 40件（うち一級文物18件） 来館者数 62,378人（目標45,000人・達成率138.6%） 入場料金 一般600円（500円）、大学生400円（300円）総合文化展観覧料 *（ ）内は20名以上の団体料金 アンケート結果 満足度 91% <p>初公開、一般文物を含む40件もの名品によって、五代・北宋から明清にいたる約千年の中国絵画の流れをたどることのできるまたとない機会となった。さらに日本には伝来しなかった本場中国ならではの中国絵画の真髄を展示することができた。</p> | A | 順調 |
| 2121-5 | <p>オ 「クリーブランド美術館名品展」（仮称）（平成26年1月15日～2月23日予定） アメリカ・クリーブランド美術館の日本美術コレクションの粹とともに中国、韓国などの優品を展示する。（目標来館者数12万人）</p> <p>オ 「クリーブランド美術館展—名画でたどる日本の美」</p> <ul style="list-style-type: none"> 会期 平成26年1月15日（水）～2月23日（日）（35日間） 会場 平成館 特別展示室第1・2室 主催 東京国立博物館、クリーブランド美術館、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社 協賛 住友ナコ マテリアル ハンドリング、日本写真印刷、ハイスター＝エール・マテリアル・ハンドリング 協力 國際交流基金、全日本空輸、日本貨物航空 作品件数 51件 来館者数 104,865人（目標120,000人・達成率87.4%） 入場料金 一般1,000円（800円）、大学生800円（600円）、高校生600円（400円）*（ ）内は20名以上の団体料金 「人間国宝展—一生み出された美、伝えゆくわざ—」との2展共通観覧料金 一般1,600円（1400円）、大学生1,400円（1200円）、高校生1,000円（800円）中学生以下無料 *（ ）内は前売り・20名以上の団体料金 アンケート結果 満足度 57% <p>全米屈指の日本美術コレクションを誇るクリーブランド美術館の平安時代から明治時代までの日本絵画の名品を展示して、人や自然の姿が時代ごとにどのように描かれてきたのかを人体表現、花鳥画、山水画、そして物語絵画の4つのテーマで概観することで、日本絵画の特質を示すことができた。</p> <p>カ 日本伝統工芸展60回記念特別展—「人間国宝 伝えゆくわざ 生み出された美—」（仮称）（平成26年1月15日～2月23日予定）</p> | A | 順調 |
| 2121-6 | <p>カ 日本伝統工芸展60回記念特別展—「人間国宝 伝えゆくわざ 生み出された美—」（仮称）（平成26年1月15日～2月23日予定）</p> | A | 順調 |

| | | | |
|--------|---|---|----|
| 2121-7 | <p>重要無形文化財指定制度施行60周年、「日本伝統工芸展」の第60回を記念し、人間国宝が生み出した伝統工芸の清華を展望する。（目標来館者数12万人）</p> <p>・主催 東京国立博物館、文化庁、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社、日本工芸会</p> <p>・協賛 花王、日本写真印刷</p> <p>・作品件数 145件（うち、国宝6件、重要文化財13件、重要美術品3件）</p> <p>・来館者数 112,960人（目標120,000人・達成率 94.1%）</p> <p>・入場料金 一般1,000円（800円）、大学生800円（600円）、高校生600円（400円）*（ ）内は20名以上の団体料金 「クリーブランド美術館展—名画でたどる日本の美」との2展共通観覧料金 一般1,600円（1400円）、大学生1,400円（1200円）、高校生1,000円（800円）中学生以下無料 *（ ）内は前売り・20名以上の団体料金</p> <p>・アンケート結果 満足度 69%</p> <p>国宝・重要文化財など歴史的に評価されてきた古典的な工芸と、歴代人間国宝104人の名品を一堂に集め、日本が誇る工芸の「わざ」の美を合わせて展示することで、伝統と現代との造形表現におけるつながりを明らかにすることことができた。</p> <p>・展覧会名 特別展「支倉常長像と南蛮美術—400年前の日欧交流—」</p> <p>・開会期間 平成26年2月11日（火）～3月23日（日）（36日間）</p> <p>・会場 本館7室</p> <p>・主催 東京国立博物館</p> <p>・特別協力 文化庁、イタリア大使館</p> <p>・協力 仙台市博物館</p> <p>・作品件数 3件（うち重要文化財2件）</p> <p>・来館者数 この特別展は会場が平常展の一部で別途カウントを行っていない。 参考値：56,342人（開催期間中の平常展来館者数）</p> <p>安土桃山時代から江戸時代初期にかけて、南蛮貿易などを通じて日本とヨーロッパとの交流が深まるなかで、ヨーロッパへの興味関心やその文物への憧れを表わされた「南蛮人渡来図屏風」や「世界図屏風」をヨーロッパで描かれた「支倉常長像」と合わせて展示したことで、日欧交流における絵画表現にみる彼我の異同を端的に示すことができた。</p> <p>○京都国立博物館の特別展来館者数の合計は 857,571 人</p> | A | 順調 |
| 2122-1 | <p>（年度計画外に実施）</p> <p>○目標来館者数 の合計91.5万人（海外展、他館での開催展を除く。） (京都国立博物館)</p> <p>ア 特別展覧会「狩野山楽・山雪」（平成25年3月30日～5月12日） 桃山時代から江戸初期にかけて京都を舞台に活躍した狩野派の代表的画家 山楽・山雪の画業を紹介する初の大回顧展。（目標来館者数10万人）</p> <p>【京都国立博物館】</p> <p>ア 特別展覧会「狩野山楽・山雪」</p> <ul style="list-style-type: none"> 会期 平成25年3月30日（土）～5月12日（日）（39日間） 会場 京都国立博物館 明治古都館（特別展示館） 主催 京都国立博物館、毎日新聞社、京都新聞社 作品件数 83件（重要文化財13件） 来館者数 90,242人（目標100,000人） 入場料金 一般1,400円（1,200円／1,00円）、大学・高校生900円（700円／600円）、 | A | 順調 |

| | | | | |
|--------|--|--|---|----|
| | | | | |
| 2122-2 | <p>イ 特別展観「遊び」(7月13日～8月25日) 神仏に捧げた歌舞音曲から、酒宴、年中行事、遊山、遊興、琴棋書画、合せもの、子どもの人形遊びまで、京都国立博物館が収蔵する多彩な美術品のなかに「遊び」の姿を追いかける。身近なテーマの下に有名作品に親しみ、隠れた名品に出会う展覧会。(目標来館者数3. 5万人)</p> | <p>中学・小学生500円（300円／200円）＊（ ）内の料金は前売り／団体20名以上 ・アンケート結果 満足度 95% 新発見 9件・初公開 15件・海外から里帰り 4件を含む狩野山楽・山雪の代表作が集結する質の高い大回顧展を実現し、数多くの熱心な鑑賞者を呼ぶことができた。ほとんどの来館者について、1点1点の鑑賞にかける時間が予想以上に長く、滞留時間が通常よりかなり長かったことが特筆される。</p> <p>イ 特別展観「遊び」 ・開催期間 平成25年7月13日(土)～8月25日(日) (38日間) ・会 場 京都国立博物館 明治古都館(特別展示館) ・主 催 京都国立博物館 ・作品件数 128件 (うち国宝1件、重要文化財6件) ・来館者数 23,659人 (目標35,000人) ・入場料金 一般1,000円、大学・高校生700円、中学・小学生 無料 ・アンケート結果 満足度84% 親しみやすいテーマの下に文化財に接し、遊びについても考えることのできる機会を提供するために、収蔵品の活用、関連イベントを充実させた。また、豊臣稟丸所用の玩具船(妙心寺藏・重文)の模型によるからくり構造の再現等が多数の取材を受け、注目を集めた。</p> | B | 順調 |
| 2122-3 | <p>ウ 特別展覧会「魅惑の清朝陶磁」(10月12日～12月15日) 古來やきものの王者として名高い中国陶磁の中でも、その精緻さ、緻密さにおいて他を圧倒する清時代の陶磁器の名品を鑑賞すると同時に、鎮国をしていた日本へも多くの清朝陶磁がもたらされており、日本陶磁にも大きな影響を与えていたことを紹介する。(目標来館者数3. 5万人)</p> <p>○目標来館者数の合計 17万人 (奈良国立博物館)</p> | <p>平成25年10月12日(土)～12月15日(日) 55 (日間) ・会 場 京都国立博物館 明治古都館(特別展示館) ・主 催 京都国立博物館、読売新聞社、読売テレビ ・協 力 史跡料亭花月、日本香堂 ・作品件数 212件 (国宝0件・重要文化財0件) ・来館者数 38,929人 (目標35,000人) ・入場料金 一般1,300円、高校・大学生900円、小・中学生400円 ・アンケート結果 満足度 87% 江戸時代から明治・大正時代にかけて日本へもたらされた中国清朝陶磁を集成すると同時に、日中交流の足跡を陶磁器で辿るという展覧会で、過去の展覧会になかった企画性を強く打ち出すことができた。</p> <p>○京都国立博物館の特別展来館者数の合計は152,830人 【奈良国立博物館】</p> <p>ア 当麻曼荼羅完成1250年記念特別展「當麻寺 一極樂淨土へのあこがれー」(4月6日～6月2日) 二上山麓に所在する大和の古代寺院當麻寺。その奥深い信仰の歴史と魅力を、極樂淨土を表した本尊當麻曼荼羅を軸に描き出す。(目標来館者数4万人)</p> | A | 順調 |
| 2123-1 | | <p>平成25年4月6日(土)～6月2日(日) (51日間) ・会 場 奈良国立博物館 東新館・西新館 ・主 催 奈良国立博物館、當麻寺、読売新聞社 ・後 援 文化庁、奈良県、葛城市、NHK奈良放送局、奈良テレビ放送 ・協 力 葛城市商工会、シーシーエス、JR東海、千房、日本香堂、仏教美術協</p> | A | 順調 |

| | | | | |
|--------|---|--|---|----|
| | | | | |
| 2123-2 | <p>イ 特別展「新しい仏像入門(仮称)」(7月20日～9月16日) 奈良国立博物館に収蔵される館蔵品・寄託品の中から届指の名品を中心に、仏像・仏画の仏教尊像の諸像を紹介。多彩な仏教美術の魅力に様々な角度からアプローチする。(目標来館者数5万人)</p> | <p>会 ・作品件数 159件 (うち国宝7件、重要文化財43件) ・来館者数 54,114人 (目標40,000人) ・観覧料金 一般1,200円、高校・大学生800円、小・中学生500円 ・アンケート結果 満足度 79% 南都の諸社寺の文化財中でも公開される機会が稀有な国宝綴織當麻曼荼羅を中心に、當麻寺の信仰を描く初めての特別展として、学術的にも高い評価を得た。また展示方法の工夫や、会場に於けるデジタル画像の使用によって、知識のない観覧者にも満足していただくことができた。</p> <p>イ 特別展「みほとけのかたち 一仏像に会うー」 ・会 期 平成25年7月20日(土)～9月16日(月・祝) (52日間) ・会 場 奈良国立博物館 東新館・西新館 ・主 催 奈良国立博物館 ・後 援 文化庁、奈良県、奈良市、奈良市教育委員会、NHK奈良放送局 ・特別協力 読売新聞社 ・協 力 JR東海、奈良県ビジャーズビューロー、奈良交通、日本香堂、仏教美術協会 ・作品件数 91件 (うち国宝5件、重要文化財42件) ・来館者数 39,232人 (目標50,000人) ・観覧料金 一般1,000円、高校・大学生700円、中学生以下 無料 ・アンケート結果 満足度 93% 仏像の「かたち」という、外観的特徴から紹介していく展示構成と、図解やディスプレイを工夫した会場展示に「初心者にもわかりやすかった」と好評を得られ、仏教美術を愛好する新たな客層の獲得に貢献できた。</p> | A | 順調 |
| 2123-3 | <p>ウ 特別展「第65回正倉院展」(予定) 正倉院宝庫に伝わる宝物約70件を展示。(目標来館者数1.8万人)</p> | <p>ウ 「第65回正倉院展」 ・会 期 平成25年10月26日(土)～11月11日(月) (17日間) ・会 場 奈良国立博物館 東新館・西新館 ・主 催 奈良国立博物館 ・特別協力 読売新聞社 ・協 賛 岩谷産業、N T T、キヤノン、京都美術工芸大学、近畿日本鉄道、JR東海、JR西日本、ダイキン工業、大和ハウス工業、白鶴酒造、丸一鋼管 ・協 力 NHK奈良放送局、奈良テレビ放送、日本香堂、仏教美術協会、ミネルヴァ書房 ・作品件数 66件 ・来館者数 246,269人 (目標180,000人) ・観覧料金 一般1,000円、高校・大学生700円、小・中学生400円 ・アンケート結果 満足度 70% 23年ぶり2回目の出陳である漆金薄絵盤、聖武天皇ご遺愛品である平螺鈿背円鏡や</p> | A | 順調 |

| | | | |
|--------|--|---|----|
| 2124-1 | <p>○目標来館者数 の合計 27万人 (九州国立博物館)</p> <p>ア 「大ベトナム展」(4月16日～6月9日) 日本で初めて本格的にベトナムの歴史と文化を紹介する。(目標来館者数3万人)</p> <p>鳥毛文書屏風、鹿草木夾縫屏風などの名品のほか、宝物の保存に関わる品々が出陳された。一日平均14,000人ほどの来館者であったが、随所に混雑しない工夫を凝らし、また細部の拡大パネルや技法解説パネルなどを設け、満足度の高い展覧会となった。</p> <p>○奈良国立博物館の特別展来館者数の合計は 339,615 人</p> <p>【九州国立博物館】</p> <p>ア 特別展「大ベトナム展」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会 期 平成25年4月16日(火)～6月9日(日)(49日間) ・会 場 九州国立博物館 特別展示室 ・主 催 九州国立博物館・福岡県、ベトナム国立歴史博物館、在福岡ベトナム社会主義共和国総領事館、TVQ九州放送、西日本新聞社、日本経済新聞社、九州ベトナム友好協会 ・作品件数 165件(うち重要文化財15件) ・来館者数 71,192人(目標30,000人) ・入場料金 一般1,300円、高大生1,000円、小中生600円 ・アンケート結果 満足度82% <p>ベトナムの壮大な歴史を紀元前からたどる、日本初の本格的なベトナム展であり、ベトナムの歴史を多角的に、展示品を通して通覧できる画期的な展覧会であった。日本初上陸となるベトナム最大の青銅祭器「銅鼓」をはじめ、国内外の選りすぐりの名品を一堂に公開した。</p> | S | 順調 |
| 2124-2 | <p>イ 「中国 王朝の至宝」(7月9日～9月16日) 歴代王朝の都などの文物を通して、新たな中国文明像をひもとく (目標来館者数5万人)</p> <p>イ 特別展「中国 王朝の至宝」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会 期 平成25年7月9日(火)～9月16日(月・祝)(62日間) ・会 場 九州国立博物館 特別展示室 ・主 催 九州国立博物館・福岡県、中国文物交流中心、NHK福岡放送局、NHKプラネット九州、毎日新聞社、西日本新聞社 ・特別協力 太宰府天満宮 ・作品件数 167件(うちI級文物100件) ・来館者数 77,554人(目標50,000人) ・入場料金 一般1,500円、高大生1,000円、小中生600円 ・アンケート結果 満足度87% <p>中国王朝史は複雑であるとの認識で敬遠される向きがあるため、これに対応すべく、解説文の内容や教育普及事業及び会場の空間構成に力をいたれた。その結果、分かりやすくかつ作品の魅力が伝わる展示空間となり、来場者にはおおむね好評を得た。</p> | S | 順調 |
| 2124-3 | <p>ウ 「尾張徳川家の至宝」(10月12日～12月8日) 尾張徳川家に伝來した大名家の什宝、武器武具等を紹介する (目標来館者数5万人)</p> <p>ウ 特別展「尾張徳川家の至宝」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会 期 平成25年10月12日(土)～12月8日(日)(50日間) ・会 場 九州国立博物館 特別展示室 ・主 催 九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、テレビ西日本、TVQ九州放送、徳川美術館 ・作品件数 226件(うち国宝5件、重要文化財12件、重要美術品6件) | S | 順調 |

| | | | |
|--------|--|---|----|
| 2124-4 | <p>エ 「国宝 大神社展」(平成26年1月15日～3月9日) 神社本庁をはじめ、日本全国の神社の全面的な協力を得て、神社の宝物や日本の神々に関する文化財を総合的に展観する。(目標来館者数7万人)</p> <p>・来館者数 139,448人(目標50,000人)</p> <p>・入場料金 一般1,500円、高大生1,000円、小中生600円</p> <p>・アンケート結果 満足度85%</p> <p>尾張徳川家は、徳川家康の9男・義直(1600-1650)を初代とする御三家筆頭の名門大名で、名古屋城を居城とし、江戸時代を通じて徳川将軍家に次ぐ家格を誇っていた。徳川美術館は、尾張徳川家に伝來した什宝を中心に1万数千件を収蔵している。江戸時代における最高水準の大名文化を伝える道具類の清華を一堂にみることができる機会となった。</p> <p>エ 特別展「国宝 大神社展」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会 期 平成26年1月15日(水)～3月9日(日)(47日間) ・会 場 九州国立博物館 特別展示室 ・主 催 九州国立博物館・福岡県、NHK福岡放送局、NHKプラネット九州、西日本新聞社 ・作品件数 165件(うち国宝57件、重要文化財65件) ・来館者数 89,561人(目標70,000人) ・入場料金 一般1,500円、高大生1,000円、小中生600円 ・アンケート結果 87% <p>25年4月から6月にかけて開催された東京展に引き続き、26年1月15日から3月9日かけて、特別展「国宝 大神社展」福岡展を開催した。九州では初めて本格的かつ総合的に開催された神道に関する文化財展となったほか、九州初公開の文化財も全体の7割を超えていたため大きな関心と話題が寄せられ、当初目標を上回る来場者があった。</p> <p>○九州国立博物館の特別展来館者数の合計は 377,755 人</p> | A | 順調 |
| 2131 | <p>③海外展 (東京国立博物館)</p> <p>1) 海外展「青山杉雨のコレクションと書」(4月19日～5月26日) 会場：上海博物館（中華人民共和国） 書壇に一時代を画した書家・青山杉雨の生誕100年を記念して、その足跡を回顧する。</p> <p>2) 海外展「伝統の再創造：日本の近代美術」(平成26年2月16日～5月11日) 会場：クリーブランド美術館（アメリカ）東京国立博物</p> <p>③ 海外展 【東京国立博物館】</p> <p>1) 海外展「青山杉雨のコレクションと書」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開会期間 平成25年4月20日(土)～7月2日(火)(73日間) ・会 場 上海博物館（中華人民共和国） 第二展厅 ・主 催 上海博物館、東京国立博物館、読売新聞社 ・特別協力 謙慎書道会 ・作品件数 80件 ・来館者数 364,298人 <p>昭和から平成まで活躍した書家・青山杉雨が創作活動に生かすため収蔵した優れた中国書画の作品とともに、杉雨の生み出した伝統的な書から新しい表現まで多彩な作品を展示することで、中国において日本を代表する書家の業績を明らかにすることができた。</p> <p>2) 海外展「伝統の再創造：日本の近代美術」は、平成26年2月19日～5月11日の会期で開催のため、平成26年度事業として評価を行う。</p> | S | 順調 |

| 2134 | (年度計画外実施) | <p>館の近代美術作品により、日本近代美術を伝統の再創造という観点で紹介する。</p> <p>【九州国立博物館】 文化庁主催海外展「日本文化展」 ・会期 平成26年1月16日(木)～3月9日(日)(51日間) ・会場 ベトナム国立歴史博物館 ・主催 文化庁、九州国立博物館・福岡県、ベトナム国立歴史博物館 ・作品件数 69件(うち重要文化財7件) ・来館者数 約30,000人 ・入場料金 40,000ドン(約200円) ベトナムで日本文化を体系的に展示する初の取り組みであった。仏教文化や朱印船貿易、元寇などベトナムとの関連が深い内容を中心に9のテーマを設定し、日本文化を概観できる見学会であった。関連事業として、博物館ボランティアが主体となって日本文化を紹介するワークショップを開催した。</p> | A | 順調 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------|-----------|--|---------|------|------|-----|----|-----------------|--|--|--|--|-------------------------|---------|---------|---------|---|---------|---|---|---|---|---------|---------|---------|---------|---|---------|---------|---------|---------|---|---------------|--|--|--|--|---------|-------|-------|-------|---|---------|---|---|---|---|---------|-----|-----|----|---|---------|-------|-------|-------|---|---------------|--|--|--|--|---------|-------|-------|-------|---|---------|---|---|---|---|---------|-----|-----|-----|---|---------|-------|-------|-------|---|-------------------|--|--|--|--|---------|------|-----|-----|---|---------|---|---|---|---|---------|-----|------|-----|---|---------|-----|-----|-----|---|--------------|--|--|--|--|---------|---|---|-----|---|--|
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | <table border="1"> <thead> <tr> <th>定量評価</th><th>25年度</th><th>24年度</th><th>目標値</th><th>評定</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>【平常展】平常展来館者数(人)</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>東京国立博物館(23年度より黒田記念館を含む)</td><td>484,429</td><td>416,430</td><td>362,470</td><td>A</td></tr> <tr> <td>京都国立博物館</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr> <td>奈良国立博物館</td><td>122,075</td><td>145,914</td><td>118,032</td><td>A</td></tr> <tr> <td>九州国立博物館</td><td>349,848</td><td>460,525</td><td>380,690</td><td>B</td></tr> <tr> <td>【平常展】陳列替件数(件)</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>東京国立博物館</td><td>5,708</td><td>6,989</td><td>5,800</td><td>B</td></tr> <tr> <td>京都国立博物館</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr> <td>奈良国立博物館</td><td>130</td><td>465</td><td>70</td><td>S</td></tr> <tr> <td>九州国立博物館</td><td>1,157</td><td>1,195</td><td>1,100</td><td>A</td></tr> <tr> <td>【平常展】陳列総件数(件)</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>東京国立博物館</td><td>8,824</td><td>9,190</td><td>7,500</td><td>A</td></tr> <tr> <td>京都国立博物館</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr> <td>奈良国立博物館</td><td>632</td><td>814</td><td>500</td><td>A</td></tr> <tr> <td>九州国立博物館</td><td>2,750</td><td>2,416</td><td>1,700</td><td>S</td></tr> <tr> <td>【平常展】外国語パネルの設置(%)</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>東京国立博物館</td><td>100%</td><td>97%</td><td>80%</td><td>A</td></tr> <tr> <td>京都国立博物館</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr> <td>奈良国立博物館</td><td>91%</td><td>100%</td><td>80%</td><td>A</td></tr> <tr> <td>九州国立博物館</td><td>85%</td><td>87%</td><td>80%</td><td>A</td></tr> <tr> <td>【特別展】開催回数(回)</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>東京国立博物館</td><td>8</td><td>9</td><td>3～4</td><td>S</td></tr> </tbody> </table> | 定量評価 | 25年度 | 24年度 | 目標値 | 評定 | 【平常展】平常展来館者数(人) | | | | | 東京国立博物館(23年度より黒田記念館を含む) | 484,429 | 416,430 | 362,470 | A | 京都国立博物館 | — | — | — | — | 奈良国立博物館 | 122,075 | 145,914 | 118,032 | A | 九州国立博物館 | 349,848 | 460,525 | 380,690 | B | 【平常展】陳列替件数(件) | | | | | 東京国立博物館 | 5,708 | 6,989 | 5,800 | B | 京都国立博物館 | — | — | — | — | 奈良国立博物館 | 130 | 465 | 70 | S | 九州国立博物館 | 1,157 | 1,195 | 1,100 | A | 【平常展】陳列総件数(件) | | | | | 東京国立博物館 | 8,824 | 9,190 | 7,500 | A | 京都国立博物館 | — | — | — | — | 奈良国立博物館 | 632 | 814 | 500 | A | 九州国立博物館 | 2,750 | 2,416 | 1,700 | S | 【平常展】外国語パネルの設置(%) | | | | | 東京国立博物館 | 100% | 97% | 80% | A | 京都国立博物館 | — | — | — | — | 奈良国立博物館 | 91% | 100% | 80% | A | 九州国立博物館 | 85% | 87% | 80% | A | 【特別展】開催回数(回) | | | | | 東京国立博物館 | 8 | 9 | 3～4 | S | |
| 定量評価 | 25年度 | 24年度 | 目標値 | 評定 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 【平常展】平常展来館者数(人) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 東京国立博物館(23年度より黒田記念館を含む) | 484,429 | 416,430 | 362,470 | A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 京都国立博物館 | — | — | — | — | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 奈良国立博物館 | 122,075 | 145,914 | 118,032 | A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 九州国立博物館 | 349,848 | 460,525 | 380,690 | B | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 【平常展】陳列替件数(件) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 東京国立博物館 | 5,708 | 6,989 | 5,800 | B | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 京都国立博物館 | — | — | — | — | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 奈良国立博物館 | 130 | 465 | 70 | S | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 九州国立博物館 | 1,157 | 1,195 | 1,100 | A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 【平常展】陳列総件数(件) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 東京国立博物館 | 8,824 | 9,190 | 7,500 | A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 京都国立博物館 | — | — | — | — | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 奈良国立博物館 | 632 | 814 | 500 | A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 九州国立博物館 | 2,750 | 2,416 | 1,700 | S | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 【平常展】外国語パネルの設置(%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 東京国立博物館 | 100% | 97% | 80% | A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 京都国立博物館 | — | — | — | — | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 奈良国立博物館 | 91% | 100% | 80% | A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 九州国立博物館 | 85% | 87% | 80% | A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 【特別展】開催回数(回) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 東京国立博物館 | 8 | 9 | 3～4 | S | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | |
|--|--|-----------------------------------|-----------|---|---------|---|
| | | 京都国立博物館 | 3 | 5 | 2～3 | A |
| | | 奈良国立博物館 | 3 | 3 | 2～3 | A |
| | | 九州国立博物館 | 5 | 4 | 2～3 | S |
| | | 【特別展】来館者数(人) | | | | |
| | | 東京国立博物館 | 857,571 | — | 915,000 | B |
| | | ①「国宝 大神社展」 | 193,990 | — | 250,000 | B |
| | | ②「和様の書」 | 104,577 | — | 130,000 | B |
| | | ③「京都一洛中洛外図と障壁画の美」 | 278,801 | — | 250,000 | A |
| | | ④「上海博物館 中国絵画の至宝」 | 62,378 | — | 45,000 | A |
| | | ⑤「クリーブランド美術館展一名画でたどる日本の美」 | 104,865 | — | 120,000 | B |
| | | ⑥「人間国宝展一生み出された美、伝えゆくわざー」 | 112,960 | — | 120,000 | B |
| | | ⑦「支倉常長像と南蛮美術—400年前の日欧交流—」 | ※ | — | — | — |
| | | 京都国立博物館 | 152,830 | — | 170,000 | B |
| | | ①「狩野山楽・山雪」 | 90,242 | — | 100,000 | B |
| | | ②「遊び」 | 23,659 | — | 35,000 | C |
| | | ③「魅惑の清朝陶磁」 | 38,929 | — | 35,000 | A |
| | | 奈良国立博物館 | 339,615 | — | 270,000 | A |
| | | ①「當麻寺－極楽浄土へのあこがれー」 | 54,114 | — | 40,000 | A |
| | | ②「みほとけのかたち－仏像に会うー」 | 39,232 | — | 50,000 | B |
| | | ③「第65回正倉院展」 | 246,269 | — | 180,000 | A |
| | | 九州国立博物館 | 377,755 | — | 200,000 | S |
| | | ①「大ベトナム展」 | 71,192 | — | 30,000 | S |
| | | ②「中国 王朝の至宝」 | 77,554 | — | 50,000 | S |
| | | ③「尾張徳川家の至宝」 | 139,448 | — | 50,000 | S |
| | | ④「国宝 大神社展」 | 89,561 | — | 70,000 | A |
| | | 【海外展】来館者数(人) | | | | |
| | | 東京国立博物館 | | | | |
| | | 海外展「青山杉雨のコレクションと書」(中華人民共和国・上海博物館) | (364,298) | — | — | — |
| | | 九州国立博物館 | | | | |
| | | 文化庁主催海外展「日本文化展」(ベトナム・ベトナム国立歴史博物館) | (約30,000) | — | — | — |

※この特別展は会場が平常展の一部で別途カウントを行っていない。

(2) 教育活動の充実

【中期目標】

日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、子どもから成人まで、対象に応じた多彩な学習機会の提供を実施し、ボランティアを育成し、教育活動の充実に努めるとともに、次代の博物館事業を担う人材育成に寄与すること。

【中期計画】

(2) 教育活動の充実

- 日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、機構の人的資源・物的資源・情報資源を活用した教育活動を実施する。
 - ① 学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。
 - ② 教育活動の充実に寄与するボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図る。
 - ③ 大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップ等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【主な計画上の評価指標】

- 講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の目標参加者数を達成すること。
- ボランティアを支援すること。
- 企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図ること。
- 大学との連携事業等を実施すること。

【24年度評価における主な指摘事項】

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 | |
|--------|---|---|------|----|
| | | | 年度 | 中期 |
| 2211-1 | <p>(2) 教育活動の充実 日本の歴史・伝統文化及びアジア諸地域の歴史・文化の理解促進を図り、国立博物館としてふさわしい教育普及事業を実施する。</p> <p>① 学習機会の提供 (4館共通)</p> <p>1) キャンバスメンバーズ（学校法人会員制度）による大学等との連携を継続して実施する。</p> <p>(東京国立博物館) 1) 日本の歴史・文化及びアジア諸地域の歴史・文化の理解促進を図るために教育普及の先導的事業を実施する。本館地下、本館19室、東洋館2室、6室等を教育普及スペース「みどりのライオン」と位置づけ、適宜、小講堂やミュージアムシアター等も活用し、内容に応じた環境を設定しながら事業を展開する。</p> | <p>(2) 教育活動の充実</p> <p>① 学習機会の提供</p> <p>【東京国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) 国立博物館と大学等との連携を図り、歴史・伝統文化に対する理解促進に寄与し、博物館が所蔵する文化財を核とした学ぶ場を提供することができた。加入校数43校、団体利用を含み21,069名の学生が本制度を利用し入館した。（処理番号2211-2） (東京国立博物館)</p> <p>1) 以下のように、総合文化展の状況に応じ歴史・文化の理解促進を目的とした教育普及事業を展開した。 ・総合文化展鑑賞の手がかりとして、展示や作品に関連した企画実施を通じ、伝統文化への興味関心をより高めることができた。 ・本館19室における「みどりのライオン」は、当初の予定では26年3月の本館1階リニューアルオープン時より実施予定であったが、本館1階リニューアルオープンが26年4月となった。改修工事期間中、プログラムを事前申込制</p> | A | 順調 |

| | | | | |
|--------|---|---|---|----|
| 2211-2 | <p>○ファミリー向け教育普及的展示企画「親と子のギャラリー」の実施 ・特集陳列「親と子のギャラリー 日本美術のつくり方 IV」(7月17日～8月25日)</p> <p>○体験型プログラムの実施 ・特集陳列「親と子のギャラリー 日本美術のつくり方 IV」など、総合文化展（平常展）に関連した一般向け及びファミリー向けのギャラリートークやアクティビティを実施する。 ・本館19室「みどりのライオン」において、ハンズオン体験コーナー「日本のもようでデザインしよう」を継続して実施する。</p> <p>・正月企画「博物館に初もうで」に関連して、ワークシートを用いたアクティビティを実施する。</p> <p>○教育的展示及びイベント「博物館でお花見を」(平成25年3月19日～4月14日)を実施する。</p> <p>2) 学校との連携事業を推進する。 ・スクールプログラム（鑑賞支援・体験型プログラム等）を継続して実施する（小・中・高校生対象）。</p> <p>・職場体験の受け入れを継続して行う（中・高校生対象）。</p> <p>・全国高等学校美術・工芸教育研究会所属教員のための研修を継続して実施する。</p> <p>・教員鑑賞会・ガイダンスを継続して実施する。</p> <p>3) 文化財について分かりやすく理解するための列品解説・月例講演会・記念</p> | <p>に変更して、小講堂等で開催。他の申込制ワークショップの回数や人数も予定より増やして行った。</p> <p>・本館地下、東洋館2室、6室にて体験型プログラム、列品解説、ワークショップ等を行った。</p> <p>・ミュージアムシアターや小講堂においては列品解説、ワークショップ等を行った。</p> <p>○特集陳列「親と子のギャラリー 日本美術のつくり方 IV」を実施し、本館の展示作品を「つくり方」という切り口で分かりやすく伝えることができた（25年7月17日～8月25日）</p> <p>○体験型プログラムの実施 ・総合文化展、特別展に関連したファミリー向けのギャラリートーク、アクティビティを18回実施した。</p> <p>・本館19室にて、ハンズオン体験コーナー「日本のもようでデザインしよう」等を26年3月より行う予定であったが、本館1階リニューアルオープンが26年4月となったため開始が遅れた。そこで、3月に予定していた桜ワークショップの内容を当初案のお皿作りから、より手軽に参加できるぬり絵に変更し、19室で予定していた企画同様、事前申込不要のハンズオン体験として平成館ラウンジにて開催した。</p> <p>・正月企画「博物館に初もうで」関連のワークシートを用いたアクティビティを実施した。（26年1月2日、3日）</p> <p>・東洋館2室で体験型プログラム「旅の案内所」、6室で体験型プログラム「アジアの占い体験」を年間実施した。</p> <p>○「博物館でお花見を」(25年3月19日～4月14日)では会期中「花見で一句」には481の投句があり、6名が入選。また、鑑賞ガイド、スタンプラリー、ボランティアによるガイドツアーなどを関連事業として行った。</p> <p>○特別展の鑑賞手引きとしてジュニアガイドの制作、配布を行った。</p> <p>2)学校との連携事業を計画通り実施した。</p> <p>・スクールプログラムを実施し、児童生徒に対し目的、学年、人数などに応じたプログラムを提供することで、充実した鑑賞体験の提供に寄与した。また、伝統文化への興味関心を高め、理解を促した。</p> <p>・職場体験として、23校82人を受け入れた。</p> <p>・全国高等学校美術・工芸教育研究会所属教員のための研修（共催：東京藝術大学）を25年7月31日～8月2日の3日間開催し、39名が参加した。展示のみならず博物館への理解を深め、学校団体での博物館利用について検討するきっかけとなる研修を提供了。</p> <p>・教員鑑賞会・ガイダンスは4回実施し、計433人が参加した。</p> <p>3)文化財について分かりやすく理解するための列品解説・月例講演会・記念</p> | A | 順調 |
| | | | | |
| 2211-3 | | | | |

| | | |
|--------|--|------|
| | <p>記念講演会・連続講座・教育普及イベント等を継続して実施する。 (講演会等の目標) 参加者数 計7,830人 (実施回数計77回程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> 講演会 参加者数3,500人 (実施回数20回程度) <p>・例品解説等 参加者数4,000人 (実施回数55回程度)</p> <p>・連続講座 参加者数 250人 (実施回数 1回程度)</p> <p>・公開講座 参加者数 80人 (実施回数 1回程度)</p> | |
| 2212 | <p>(京都国立博物館)</p> <p>1) 展覧会内容及び展示作品への理解を深めるための事業を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「記念講演会」「土曜講座」を実施する。 鑑賞ガイドを発行する。 小中学生向け展示解説「少年少女博物館くらぶ」を実施する。 小中学生向けワークシートを発行する。 分かりやすい展示作品解説シート「博物館ディクショナリー」を発行し配信する。 <p>2) 歴史及び文化財への理解促進を図るために教育普及事業を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> テーマを定めた一般向けの連続講座として「夏期講座」を開講する。 京都市内の小中学生を対象とする訪問授業「文化財に親しむ授業」を実施する。 文化財への关心を高めるワークショップを実施する。 <p>3) 教育諸機関との連携事業を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 京都市内4美術館・博物館が連携する「京都ミュージアムズ・フォーラン携講座」を開講する。 社会科教員のための向上講座を開講する。 <p>(講演会等の目標) 参加者数 計2,240人 (実施回数計13回程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> 記念講演会 参加者数 150人 (実施回数 1回程度) 土曜講座 参加者数1,400人 (実施回数10回程度) 夏期講座 参加者数 570人 (実施回数 1回(3日間)程度) 「京都ミュージアムズ・フォーラン携講座」 参加者数 120人 (実施回数 1回程度) | A 順調 |
| 2213-1 | <p>【奈良国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) キャンパスメンバーズへの入会及び更新を積極的に進めてきた結果、本年度まで入会校数は26校、大学との連携を継続した。</p> <p>(奈良国立博物館)</p> <p>1) 小中学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 奈良県内の小中学校にメールマガジンを配信する。 奈良市内の公立小中学校に博物館だよりを送付する。 奈良市内の小学校5年生を中心に、幼稚園児から中学3年生までを対象に奈良市教育委員会と連携して世界遺産学習を実施する。 中学生の職場体験学習を受け入れる。 <p>2) 講座等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 仏教美術等に関するサンデートークを定期的に実施する。 特別展等に際してシンポジウム、フォーラム及び公開講座等を開催する。 一般向け教育普及事業として夏季講座を開催する。 特別陳列に因み、伝統的行事を体験する催しを実施する。 文化財保存修理所の一般公開を行い、文化財保存の意義についての啓蒙に努める。 <p>(講演会等の目標) 参加者数 計2,600人 (実施回数計27回程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別展等講座 参加者数1,500人 (実施回数14回程度) 夏季講座 参加者数 500人 (実施回数 1回) サンデートーク 参加者数 600人 (実施回数12回) <p>3) 奈良市教育委員会と連携して教員の研修を受け入れる。</p> <p>4) 地下回廊のタッチパネル式学習端末機で名品のハイビジョン映像等を公開する。</p> <p>5) 地下回廊で仏像模型及びパネルを用いて、文化財に関する情報を継続</p> | A 順調 |
| 2213-2 | <p>【奈良国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) キャンパスメンバーズへの入会及び更新を積極的に進めてきた結果、本年度まで入会校数は26校、大学との連携を継続した。</p> <p>(奈良国立博物館)</p> <p>1) 小中学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 奈良県内の小中学校222校に対してメールマガジンの配信を行った。 『奈良国立博物館だより』は、奈良市内の全小中学校への郵送配布を行った。 世界遺産学習事業は、奈良市内小学校5年生33校、合計2,199名に対して実施した。 中学2年生の職場体験を3校9人受け入れた。 <p>2) 講座等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> サンデートークは毎月第3日曜日に実施し、実績は12回、合計950人の参加があり、アンケート結果では85%の平均満足度が得られた。 公開講座は、3つの特別展及び2つの特別陳列の会期中に実施した。公開講座の実施回数は、合計11回、1,341人の参加があり、平均満足度は85%を得た。その他、特別展「當麻寺—極楽浄土へのあこがれ」に関連して学術シンポジウム「絹織當麻曼荼羅」を実施した。 正倉院展に関連したシンポジウムは「正倉院学術シンポジウム2013 鑑真和尚と正倉院宝物」と題して25年10月27日に実施し、4人のパネラーにより基調講演と討論を行った。192人の参加を得、満足度は89%であった。 夏季講座は、今年は第42回目を迎、奈良県文化会館で開催した。「仏教美術へのいざない」と題し、25年8月20日～22日の3日間に実施、講師は計9人、587人の参加があった。 特別陳列「お水取り」では、東大寺の協力のもと、「お水取り「講話」と「粥」の会」を26年2月16日に実施し、38人の参加があった。 文化財保存修理所の一般公開は、26年2月13日に3回実施し、計117人の参加があった。 <p>○講演会等の実績 総計26回・参加者3,219人</p> <p>特別展等講座13回・参加者1,682人 (うち公開講座11回・1,341人、シンポジウム2回・341人)、夏季講座1回(3日間)・参加者587人、サンデートーク12回・参加者950人</p> <p>3) 奈良市教育委員会と連携した教員への研修を8月27日に行い、約150人の参加者を得た。 (処理番号2213-1)</p> <p>4) 地下回廊のタッチパネル式学習端末機で、収蔵品の中から名品の画像を公開した。 (処理番号2213-1)</p> <p>5) 地下回廊で仏像模型及びパネルを用いて、文化財に関する情報を継続的に</p> | A 順調 |

| | | |
|--------|--|------|
| | <p>的に公開する。</p> | |
| 2214-1 | <p>(九州国立博物館)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 博物館における体験型事業の充実を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・教育普及ゾーンで活用する様々な教育キットを開発する。 ・幅広い層に向け体験活動の促進を図るために、教育活動の場を提供する。 ・アジア諸国の文化を理解する様々な体験学習プログラムを開発する。 | A 順調 |
| 2214-2 | <p>2) 学校教育との連携事業を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場体験（中学生）の受け入れを実施する。 ・ジュニア学芸員（高校生）事業を実施する。 ・博物館活用の促進を図るために、教員研修の場を設置する。 ・学校貸出キット「きゅうばっく」の貸し出しを実施する。 | A 順調 |
| 2214-3 | <p>3) シンポジウムを開催する。</p> <p>4) 特別展記念講演会を開催する。</p> <p>5) 文化交流展、特別展に関連した教育普及事業を実施する。</p> <p>6) ミュージアムトークを随時実施する。</p> <p>7) 文化施設等へ講師を派遣する。</p> <p>8) 特別展の内容に親しみをもたせ、より良く理解するためのワークショップを開催するとともに、文化交流展示の内容とも連携した事業展開を行う。</p> | A 順調 |

| | | |
|--------|--|---|
| | <p>9) 放送大学の面接授業を実施する。</p> <p>(講演会等の目標) 参加者数 計3,100人 (実施回数計54回程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別展記念講演会 参加者数 600人 (実施回数 4回程度) ・講演及びシンポジウム 参加者数1,300人 (実施回数10回程度) ・ミュージアムトーク 参加者数1,200人 (実施回数40回程度) | |
| 2221-1 | <p>②-1 ボランティア活動の支援</p> <p>(東京国立博物館)</p> <p>1) 館内案内、各種教育事業及びイベント等の補助活動、館内案内等の充実を図る。</p> <p>2) 点字パンフレット、触知図、盲学校対応プログラム等による視覚障がい者対応、手話やコミュニケーションボード等による聴覚障がい者への博物館案内等、バリアフリー活動を実施する。</p> <p>3) 自主企画グループによる各種ガイドツアー等を継続して実施する。</p> <p>4) ボランティアの自主性を活かし、ボランティアデーなどにおいてボランティアの企画立案によるプログラムの充実を図る。</p> <p>5) 「東京芸術大学学生ボランティア」による活動を継続して実施する。</p> | <p>②-1 ボランティア活動の支援</p> <p>【東京国立博物館】</p> <p>(東京国立博物館)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)館内各所での案内、みどりのライオン紹介コーナー、東洋館オアシスでの活動、職場体験の活動補助の他、イベント班とワークショップ班による、年間を通じた各種イベント・ワークショップの補助活動を実施。次年度の活動に向けてスクールプログラム班を立ち上げた。また、各活動実施のための研修会・解説会を実施した。 2)通年で触知図やコミュニケーションボード等を用いたバリアフリー活動を実施。バリアフリー対応班により、盲学校を含む視覚障がい者対応、点字パンフレットの印刷、自主企画グループにより手話通訳付きのガイドを実施した。 3)新規2グループを含めた全15の自主企画グループによるガイドツアー等の活動を実施し、新たに1グループの立ち上げ準備を開始した。また、研究員による、ボランティア活動のための研修会を実施した。 4)通常の自主企画グループの活動の他に「留学生の日・ボランティアデー・博物館でお花見を」などの活躍の場を設け、より自主性を持った活動を行えるよう支援した。また、ボランティアデーでは、新規ボランティア応募者を対象に募集説明会とボランティアによるボランティア活動見学ツアーを実施した。 5)総合文化展の作品解説をするギャラリートーク(研究発表)班5人と、調査研究班12人による活動を行った。 <p>【京都国立博物館】</p> <p>(京都国立博物館)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)平成知新館（新平常展示館）の開館が来年度に延期されたため活動開始は持ち越されたが、ボランティア募集チラシ作成など諸準備を行った。新規ボランティア事業の核となるミュージアム・カートの作成に向け、調査及び教材の作成を行った。 2)収蔵品調査及び社寺調査の補助のため、調査・研究支援ボランティアを受け入れた。(25人) 3)・文化財ソムリエを対象としたスクーリングを実施した。(18回) <ul style="list-style-type: none"> ・文化財ソムリエによる、京都市内の小中学校への訪問授業等を実施した。(7回) |
| 2222-1 | <p>(京都国立博物館)</p> <p>1) 新平常展示館の新装開館に向け、新規ボランティア事業を立ち上げるための準備を行うとともに、新平常展示館でのボランティア活動を開始する。</p> <p>2) 調査・研究支援ボランティアを受け入れ、各種事業活動の充実を進めます。</p> <p>3) 文化財に親しむ授業講師（文化財ソムリエ）として大学生・大学院生ボランティアを育成し、小中学校への訪問授業を実施する。</p> | A 順調 |

| | | | | | |
|--------|--|--|--|---|----|
| | | 4) 「京都・らくご博物館」において、大学生をボランティアとして起用する。 (奈良国立博物館) 1) ボランティアの各グループ（世界遺産グループ、解説グループ、サポートグループ）の活動の充実を図る。 2) ボランティアの資質向上を目的に、定期的に研修を実施する。 3) 勉強会や見学会等によって、ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。 4) ボランティアの自主性を活かし、ボランティアによる企画立案プログラムの充実を図るための支援を行う。 | 4) 「京都・らくご博物館」において、大学生をボランティアとして起用した。 【奈良国立博物館】 (奈良国立博物館) 1) ボランティアの新制度が発足して2年目になり、世界遺産グループ、解説グループ、サポートグループの3つの活動がそれぞれ軌道に乗った。奈良市教育委員会との連携により、世界遺産学習として奈良市の33校の小学5年生（2,199人）を受け入れ、同じ内容で県内外の小学生～高校生（28校、2,251名）を受け入れた。 2) ボランティア全員に対して、名品展研修を毎月実施し、また特別展、特別陳列の開催ごとに展示会担当者による展示内容の研修を実施した。ボランティア全員に全ての展示会図録を配布し、解説と自己鍛錬のための学習資料とした。 正倉院展の会期中に、ボランティアによる講堂解説を実施した。この事業に関しては、教育室がスライド資料と原稿を作成し、ボランティア室が約1ヵ月間の練習の立会と指導をした。 3) ボランティアのグループ別に、毎月の勉強会を実施し、運営の指導に当たった。チーム力と知識の向上のため、毎月テーマを決めてグループで発表を行った。解説グループの勉強会では、オブザーバーとして学芸員が立会、指導した。 4) ボランティアによる自主企画として、当館敷地内の茶室庭園や仏教美術資料研究センターの案内ツアーを実施した。プログラムの企画立案にあたって、学芸部や総務課の協力を得ながら、ミーティングの立会と指導をした。 | A | 順調 |
| 2224-1 | | (九州国立博物館) 1) ボランティアを受け入れ、展示解説部会、教育普及部会、館内案内部会（日本語、英語、中国語、韓国語）、環境部会、イベント部会、資料整理部会、サポート部会、学生部会の充実を図る。 2) ボランティアに対し資質向上を目的に基礎研修・専門研修を実施する。 3) ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。 | (九州国立博物館) 1) 第3期ボランティアを中心とした主体的な活動を重視することによって、活動意欲の向上、活動の活性化・充実、そして市民視点の活動の創造等が行われた。 2) ボランティア自身の企画・実施による研修等を積極的に実施することで、活動の資質の向上や活性化、発展が行われた。 3) 各部会において研修やグループ別学習、活動を行った。また、グループ活動や子どもフェスタにおいて、部会の枠を超えてボランティア同士が活動を行った。 | A | 順調 |

| | | | | |
|--------|---|--|---|----|
| 2221-2 | <p>②-2 博物館支援者の増加 (4館共通)</p> <p>企業との連携及び友の会活動等の会員制度の活性化を図る。</p> <p>1) 会員制度によるリピーターの拡大に努める。</p> <p>2) 会員制度利用者を対象とした事業を実施する。</p> <p>3) 企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。</p> <p>4) 公共交通機関等とのタイアップによる広報の充実に努める。</p> <p>5) 展覧会事業への企業からの各種支援（協賛・協力）を募る。</p> <p> (東京国立博物館・奈良国立博物館)</p> <p>1) 賛助会員制度の継続・拡充を図る。</p> <p>2) 地域、企業との連携・拡充を図る。</p> | <p>②-2 博物館支援者の増加 【東京国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) 26年4月の消費税率改定による料金の改定に伴い、これまで独立していた賛助会・友の会・パスポートの会員制度を一元化することで、支援者の選択の幅を広げ、継続的に支援しやすい体系とすべく整備を進めた（26年4月導入予定）。</p> <p>2) 友の会入会時のプレゼント、イベント料金の割引を実施した。賛助会会員を対象に、感謝会ならびに特別展毎に特別鑑賞会を開催した。</p> <p>3) 地域との連携、PRにより認知度向上に努めた。</p> <p>4) JR、地下鉄などに総合文化展、特別展のポスターの掲示、チラシの設置を図るなど、広告活動の充実に努めた。</p> <p>5) 特別展「国宝 大神社展」、「京都一洛中洛外図と障壁画の美」において、三菱商事株式会社と共に「障がいのある方のための特別鑑賞会」を実施した。</p> <p> (東京国立博物館・奈良国立博物館)</p> <p>1) 企業へのPR活動を積極的に行い、新規会員を増加させた。</p> <p>2) 上野ミュージアムウイーク（上野のれん会との共催）、上野の山文化ゾーンフェスティバル（台東区との共催）及び東京・春・音楽祭（東京・春・音楽祭実行委員会との共催）等、地域連携事業に参加した。</p> | A | 順調 |
| 2222-2 | <p> (京都国立博物館・奈良国立博物館)</p> <p>1) 支援団体等が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力する。</p> | <p> 【京都国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) 「パスポート」事業を継続し、リピーターの拡大に努めた。</p> <p>2) 「パスポート」会員を対象とした事業を実施した。</p> <p>3) 企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努めた。</p> <p>4) 公共交通機関等とのタイアップによる広報の充実に努めた。</p> <p>5) 22年度に設置した「ミュージアム・パートナー」制度について引き続き周知している。</p> <p> (京都国立博物館・奈良国立博物館)</p> <p>1) 支援団体（社団法人清風会）が行う鑑賞会（3回）・見学会（3回）・会報（3回）の解説・執筆及び、総会の開催に協力した。また、地域・機関との連携事業に協力した。</p> | A | 順調 |
| 2223-2 | <p> (奈良国立博物館)</p> <p>1) パスポート会員 会員数2,598人（一般2,504人、学生73人、家族21人）</p> <p>2) 会員に夏季講座を優先的に受講できるようにした。</p> <p>3) 株式会社日本香堂提供のラジオ番組で、展覧会のPRを行った。</p> | <p> 【奈良国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) パスポート会員 会員数2,598人（一般2,504人、学生73人、家族21人）</p> <p>2) 会員に夏季講座を優先的に受講できるようにした。</p> <p>3) 株式会社日本香堂提供のラジオ番組で、展覧会のPRを行った。</p> | A | 順調 |

| | | | |
|--------|---|--|------|
| | | | |
| 2224-2 | <p>(東京国立博物館・奈良国立博物館)</p> <p>1) 賛助会員制度の継続・拡充を図る。</p> <p>2) 地域、企業との連携・拡充を図る。</p> <p>(京都国立博物館・奈良国立博物館)</p> <p>1) 支援団体等が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力する。</p> <p>(奈良国立博物館)</p> <p>1) 支援団体等との連携により施設を活用したイベント等を実施し、博物館支援の輪を広げる。</p> <p>2) 支援団体等と連携し、展覧会の充実を図る。</p> <p>(九州国立博物館)</p> <p>1) 近隣地域の諸団体や支援団体等と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。</p> | <p>4) 近畿日本鉄道株式会社、阪神電気鉄道株式会社、大阪市交通局とタイアップし、特別展の広報を行った。</p> <p>5) 他の主催者と連携し、企業等からの協賛・協力を募った。</p> <p>(東京国立博物館・奈良国立博物館)</p> <p>1) 賛助会員: 29団体41人(特別支援会員: 5団体、特別会員: 4団体、一般会員個人: 41人、(団体: 20団体)</p> <p>2) 観光関連業界と連携し顧客層の開拓を行った。</p> <p>奈良の観光イベント「ムジークフェストなら2013」、「ライトアッププロムナード・なら2013」、「なら燈花会」、「光のオルゴールinライトアッププロムナード」、「なら瑠璃絵」に対して協力した。</p> <p>(京都国立博物館・奈良国立博物館)</p> <p>1) 支援団体等が主催する講演会等に会場を提供した。</p> <p>(奈良国立博物館)</p> <p>1) 支援団体等が主催する展覧会の解説付の鑑賞会の実施に協力した。</p> <p>2) 特別展の実施に際して企業等からの協力金を得て特別展の充実を図った。</p> <p>【九州国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) 「友の会」等の会員制度を継続して実施した。</p> <p>2) 「友の会」会員を対象に、季刊情報誌「アジアージュ」、トピック展示チラシ等の送付を行った。</p> <p>3) 企業等と連携し、広報活動を行った。</p> <p>4) 特別展等においては、公共交通機関等とのタイアップにより広報活動を実施した。</p> <p>5) 展覧会事業への企業からの協賛・協力を得た。</p> <p>(九州国立博物館)</p> <p>1) 支援団体や近隣地域と連携したイベントを実施し、広報活動の充実を図った。</p> | A 順調 |
| 2231 | <p>③ 大学との連携</p> <p>(東京国立博物館・奈良国立博物館、九州国立博物館)</p> <p>1) インターンシップを継続して実施する。</p> | <p>③ 大学との連携</p> <p>【東京国立博物館】 (東京国立博物館・奈良国立博物館、九州国立博物館)</p> <p>1) 博物館学芸員を目指す学生の学習意欲の喚起及び高い職業意識の育成を目的として、大学院生を対象にインターンシップを募集し、12大学17名を受け入れた。それぞれ学芸研究部・学芸企画部の8部署で10~30日間の活動を行った。</p> | A 順調 |
| 2232 | <p>(東京国立博物館)</p> <p>1) 東京藝術大学との連携事業を継続して実施する(大学院生対象)。</p> <p>2) キャンパスメンバーズへの教育連携事業を実施する。</p> | <p>(東京国立博物館)</p> <p>1) 東京藝術大学大学院インターンシップを募集し、ギャラリートーク(研究発表)班5名、調査研究班12名が活動した。ギャラリートーク班では大学院生と当館研究員が連携して準備を行い、総合文化展の解説を行った。調査研究班では館蔵の「突起装飾环(TJ-5401)」の調査研究及び工程見本の制作を行った。</p> <p>2) キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の歴史、保存修復、博物館情報、教育普及事業等について当館の職員が実例を交えた解説を実施。また、キャンパスメンバーズ加入校の学芸員志望学生を対象として、作品の取り扱い等博物館実務全般について演習・実習を実施した。(詳細は処理番号 2211-2 及び統計表 2-(2)-②を参照)</p> | A 順調 |
| 2233 | <p>(京都国立博物館)</p> <p>1) 京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座を担当する。</p> <p>(奈良国立博物館)</p> <p>1) 奈良女子大学及び神戸大学との連携講座を継続して実施する。</p> <p>2) 奈良教育大学・奈良市教育委員会と連携して世界遺産学習のプログラム開発を進める。</p> | <p>【京都国立博物館】 (京都国立博物館)</p> <p>1) 京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座では、前期は、研究員6人が客員教授(4人)、客員准教授(2人)を担当し、博士前期・後期課程の学生に対して、実作品の展示・調査活動を通じた専門的な教育を行った。後期は、客員教授(4人)のうち、1人が転出した為、客員教授3人、准教授2人の体制で担当し、博士前期・後期課程の学生に対して、実作品の展示・調査活動を通じた専門的な教育を行った。修士課程の学生2名については、修士論文の指導を行い、論文が提出された。</p> <p>【奈良国立博物館】 (東京国立博物館・奈良国立博物館、九州国立博物館)</p> <p>1) 例年、立命館大学から数名の学生をインターンシップとして受け入れているが、25年度は同大学側の事情により受け入れがなく、また、他大学への募集も行わなかつたため、今年度のインターンシップ受入実績はなかつた(奈良国立博物館)</p> <p>1)・奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程に学芸部研究員1名を客員教授として派遣し、日本古典資料論の講義を行つた。授業の内容は古典資料講読を中心とし、受講生は前期5人、後期4人であった。</p> <p>・神戸大学大学院人文学研究科の連携講座文化資源論に、学芸部研究員2人を客員教授と客員准教授として派遣し、文化資源論の講義を行つた。受講した学生は同研究科の修士課程、博士課程の大学院生8人であった。</p> <p>2)・25年12月22日(日)、奈良市教育センター及びなら100年会館を会場として、「第4回世界遺産学習全国サミット inなら」を都部科学者・奈良市教育委員会・奈良教育大学等と共に開催し、当館学芸部長と女優の紺野美沙子氏による「人とつながる 地域とつながる」と題した対談及び子供達による世界遺産学習発表会を行つた。</p> | B 順調 |

| 2234 | <p>(東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館)</p> <p>1) インターンシップを継続して実施する。</p> <p>(九州国立博物館)</p> <p>1) 博物館実習生の受け入れを実施する。</p> | <p>【九州国立博物館】 (東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) 1)当館の保存修復施設を利用して地域大学との協業を図る短期インターンシップ研修プログラムを実施した。</p> <p>(九州国立博物館) 1)博物館実習生を14大学20人、計10日間受け入れた。(うちキャンパスメンバーズ校は6大学11人) ○博物館見学実習に対応した。(5校延べ97人) ○福岡大学「博物館教育論」の授業実践に協力した。</p> | A | 順調 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------------------|--|--|--------------|----------|------|-----|----|----------------------------|--|--|--|--|----------------|---------------|---------------|--------------|----------|-----|-------|-------|-------|---|------|-------|-------|-------|---|------------|-----|-----|-----|---|------|----|-----|----|---|----------------|--------------|--------------|--------------|----------|------|-------|-------|-------|---|-------|-----|-----|-----|---|------|-----|-----|-----|---|---------------|----|----|---|---|----------|-----|---|---|---|----------------------------|-------|-------|-------|---|----------------|--------------|--------------|--------------|----------|--------|-------|-------|-------|---|------|-----|-----|-----|---|---------|-----|-----|-----|---|----------------|--------------|--------------|--------------|----------|----------|-------|-----|-----|---|------------|-------|-------|-------|---|-----------|-------|-------|-------|---|----------------------------|--|--|--|--|----------------|------------|------------|-----------|----------|-----|----|----|----|---|------|----|----|----|---|------------|---|---|---|---|--|--|
| | | <table border="1"> <thead> <tr> <th>定量評価項目</th> <th>25年度</th> <th>24年度</th> <th>目標値</th> <th>評定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学習機会の提供 講演会等参加者数(人)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>東京国立博物館</td> <td>15,777</td> <td>13,193</td> <td>7,830</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>講演会</td> <td>7,184</td> <td>6,952</td> <td>3,500</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>列品解説</td> <td>8,205</td> <td>5,805</td> <td>4,000</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>連続講座(夏期講座)</td> <td>354</td> <td>303</td> <td>250</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>公開講座</td> <td>34</td> <td>133</td> <td>80</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>京都国立博物館</td> <td>2,062</td> <td>3,150</td> <td>1,860</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>土曜講座</td> <td>1,257</td> <td>2,682</td> <td>1,400</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>記念講演会</td> <td>190</td> <td>215</td> <td>150</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>夏期講座</td> <td>219</td> <td>213</td> <td>190</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>社会科教員のための向上講座</td> <td>30</td> <td>40</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>ギャラリートーク</td> <td>366</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>京都ミュージアムズ・フォー連携講座(土曜講座に含む)</td> <td>(157)</td> <td>(119)</td> <td>(120)</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>奈良国立博物館</td> <td>3,219</td> <td>3,454</td> <td>2,600</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>特別展等講座</td> <td>1,682</td> <td>2,172</td> <td>1,500</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>夏季講座</td> <td>587</td> <td>438</td> <td>500</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>サンデートーク</td> <td>950</td> <td>844</td> <td>600</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>九州国立博物館</td> <td>7,276</td> <td>8,354</td> <td>3,100</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>特別展記念講演会</td> <td>1,108</td> <td>966</td> <td>600</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>講演及びシンポジウム</td> <td>4,450</td> <td>4,918</td> <td>1,300</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>ミュージアムトーク</td> <td>1,718</td> <td>2,470</td> <td>1,200</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>学習機会の提供 講演会等実施回数(回)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>東京国立博物館</td> <td>131</td> <td>126</td> <td>77</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>講演会</td> <td>30</td> <td>31</td> <td>20</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>列品解説</td> <td>98</td> <td>90</td> <td>55</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>連続講座(夏期講座)</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>A</td> </tr> </tbody> </table> | 定量評価項目 | 25年度 | 24年度 | 目標値 | 評定 | 学習機会の提供 講演会等参加者数(人) | | | | | 東京国立博物館 | 15,777 | 13,193 | 7,830 | S | 講演会 | 7,184 | 6,952 | 3,500 | S | 列品解説 | 8,205 | 5,805 | 4,000 | S | 連続講座(夏期講座) | 354 | 303 | 250 | A | 公開講座 | 34 | 133 | 80 | C | 京都国立博物館 | 2,062 | 3,150 | 1,860 | A | 土曜講座 | 1,257 | 2,682 | 1,400 | B | 記念講演会 | 190 | 215 | 150 | A | 夏期講座 | 219 | 213 | 190 | A | 社会科教員のための向上講座 | 30 | 40 | — | — | ギャラリートーク | 366 | — | — | — | 京都ミュージアムズ・フォー連携講座(土曜講座に含む) | (157) | (119) | (120) | A | 奈良国立博物館 | 3,219 | 3,454 | 2,600 | A | 特別展等講座 | 1,682 | 2,172 | 1,500 | A | 夏季講座 | 587 | 438 | 500 | A | サンデートーク | 950 | 844 | 600 | S | 九州国立博物館 | 7,276 | 8,354 | 3,100 | S | 特別展記念講演会 | 1,108 | 966 | 600 | S | 講演及びシンポジウム | 4,450 | 4,918 | 1,300 | S | ミュージアムトーク | 1,718 | 2,470 | 1,200 | A | 学習機会の提供 講演会等実施回数(回) | | | | | 東京国立博物館 | 131 | 126 | 77 | S | 講演会 | 30 | 31 | 20 | S | 列品解説 | 98 | 90 | 55 | S | 連続講座(夏期講座) | 1 | 1 | 1 | A | | |
| 定量評価項目 | 25年度 | 24年度 | 目標値 | 評定 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学習機会の提供 講演会等参加者数(人) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 東京国立博物館 | 15,777 | 13,193 | 7,830 | S | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 講演会 | 7,184 | 6,952 | 3,500 | S | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 列品解説 | 8,205 | 5,805 | 4,000 | S | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 連続講座(夏期講座) | 354 | 303 | 250 | A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 公開講座 | 34 | 133 | 80 | C | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 京都国立博物館 | 2,062 | 3,150 | 1,860 | A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 土曜講座 | 1,257 | 2,682 | 1,400 | B | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 記念講演会 | 190 | 215 | 150 | A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 夏期講座 | 219 | 213 | 190 | A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 社会科教員のための向上講座 | 30 | 40 | — | — | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ギャラリートーク | 366 | — | — | — | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 京都ミュージアムズ・フォー連携講座(土曜講座に含む) | (157) | (119) | (120) | A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 奈良国立博物館 | 3,219 | 3,454 | 2,600 | A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 特別展等講座 | 1,682 | 2,172 | 1,500 | A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 夏季講座 | 587 | 438 | 500 | A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| サンデートーク | 950 | 844 | 600 | S | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 九州国立博物館 | 7,276 | 8,354 | 3,100 | S | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 特別展記念講演会 | 1,108 | 966 | 600 | S | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 講演及びシンポジウム | 4,450 | 4,918 | 1,300 | S | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ミュージアムトーク | 1,718 | 2,470 | 1,200 | A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学習機会の提供 講演会等実施回数(回) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 東京国立博物館 | 131 | 126 | 77 | S | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 講演会 | 30 | 31 | 20 | S | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 列品解説 | 98 | 90 | 55 | S | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 連続講座(夏期講座) | 1 | 1 | 1 | A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------------------|---|------------|-----------|----------|---|---|----------------|-----------|-----------|-----------|----------|------|----|----|----|---|-------|---|---|---|---|------|---|---|---|---|---------------|---|---|---|---|----------|---|---|---|---|----------------------------|-----|-----|-----|---|----------------|-----------|-----------|-----------|----------|--------|----|----|----|---|------|---|---|---|---|---------|----|----|----|---|----------------|-----------|------------|-----------|----------|----------|---|---|---|---|------------|----|----|----|---|-----------|----|----|----|---|--|--|
| | <table border="1"> <tbody> <tr> <td>公開講座</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>京都国立博物館</td> <td>21</td> <td>19</td> <td>13</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>土曜講座</td> <td>10</td> <td>16</td> <td>10</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>記念講演会</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>夏期講座</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>社会科教員のための向上講座</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>ギャラリートーク</td> <td>8</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>京都ミュージアムズ・フォー連携講座(土曜講座に含む)</td> <td>(1)</td> <td>(1)</td> <td>(1)</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>奈良国立博物館</td> <td>26</td> <td>29</td> <td>27</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>特別展等講座</td> <td>13</td> <td>16</td> <td>14</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>夏季講座</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>サンデートーク</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>九州国立博物館</td> <td>90</td> <td>102</td> <td>54</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>特別展記念講演会</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>講演及びシンポジウム</td> <td>38</td> <td>45</td> <td>10</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>ミュージアムトーク</td> <td>47</td> <td>52</td> <td>40</td> <td>A</td> </tr> </tbody> </table> | 公開講座 | 2 | 4 | 1 | S | 京都国立博物館 | 21 | 19 | 13 | S | 土曜講座 | 10 | 16 | 10 | A | 記念講演会 | 1 | 1 | 1 | A | 夏期講座 | 1 | 1 | 1 | A | 社会科教員のための向上講座 | 1 | 1 | — | — | ギャラリートーク | 8 | — | — | — | 京都ミュージアムズ・フォー連携講座(土曜講座に含む) | (1) | (1) | (1) | A | 奈良国立博物館 | 26 | 29 | 27 | B | 特別展等講座 | 13 | 16 | 14 | B | 夏季講座 | 1 | 1 | 1 | A | サンデートーク | 12 | 12 | 12 | A | 九州国立博物館 | 90 | 102 | 54 | S | 特別展記念講演会 | 5 | 5 | 4 | A | 講演及びシンポジウム | 38 | 45 | 10 | S | ミュージアムトーク | 47 | 52 | 40 | A | | |
| 公開講座 | 2 | 4 | 1 | S | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 京都国立博物館 | 21 | 19 | 13 | S | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 土曜講座 | 10 | 16 | 10 | A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 記念講演会 | 1 | 1 | 1 | A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 夏期講座 | 1 | 1 | 1 | A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 社会科教員のための向上講座 | 1 | 1 | — | — | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ギャラリートーク | 8 | — | — | — | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 京都ミュージアムズ・フォー連携講座(土曜講座に含む) | (1) | (1) | (1) | A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 奈良国立博物館 | 26 | 29 | 27 | B | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 特別展等講座 | 13 | 16 | 14 | B | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 夏季講座 | 1 | 1 | 1 | A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| サンデートーク | 12 | 12 | 12 | A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 九州国立博物館 | 90 | 102 | 54 | S | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 特別展記念講演会 | 5 | 5 | 4 | A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 講演及びシンポジウム | 38 | 45 | 10 | S | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ミュージアムトーク | 47 | 52 | 40 | A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

(3) 快適な観覧環境の提供

【中期目標】 国民に親しまれ、他の館の見本となる施設を目指し、来館者の立場に立った観覧環境の整備や観覧料金及び開館時間の弾力化などの利用者の要望を踏まえた管理運営を行い、来館者の期待に応えること。

【中期計画】

国民に親しまれる施設を目指し、来館者の立場に立った観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。

①施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

②一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。

③ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を收集し、改善する。

【主な計画上の評価指標】

○施設のバリアフリー化を進めること。

○利用者のニーズを踏まえ、観覧料金や開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行うこと。

○利用者の意見を踏まえ、ミュージアムショップやレストラン等のサービスを改善すること。

【24年度評価における主な指摘事項】

○ミュージアムショップの商品は、インターネット販売など、観覧者へのサービスの向上に向けた更なる取組を期待したい。

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 | |
|------|--|-------------------------------|------|----|
| | | | 年度 | 中期 |
| | (3) 快適な観覧環境の提供①施設・設備等の充実 (4館共通) 1) 特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進 | (3) 快適な観覧環境の提供 ① 施設・設備等の充実 | | |

| | | | | |
|--------|--|--|---|----|
| 2311-1 | <p>し、来館者に対するサービスの向上を図る。</p> <p>(東京国立博物館)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 多言語による案内及び誘導サイン等を順次整備する。 2) より快適な観覧環境を構築するため、展示照明を順次整備する。 | <p>【東京国立博物館】 (4館共通)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 全ての特別展で音声ガイドを実施し、来館者サービスの向上を図った。特別展『京都一洛中外囲障壁画の美』の音声ガイドでは、野際陽子（女優）、佐々木蔵之介（俳優）のナビゲーター起用等が好評を博し、貸出率が23.5%となった。 (東京国立博物館) 1) 26年4月15日オープン予定の「正門プラザ」において、新しい試みであるデジタルサイネージを含む、館全体の案内・誘導サインを多言語で整備した。 2) ・本館から平成館へ24年度に移設・仮設設していただく東京国立博物館 寄贈者顕彰コーナーのリニューアルを25年12月に行つた。その照明として、LEDライン状光源のウォールウォッシュ照明器具を使用し、寄贈者の顕彰とともに憩いのギャラリーとしてリニューアルされた。 ・4月15日にリニューアルオープンする本館18室の展示のため、LED光源によるカッタースポットライトを購入した。 <p>(中期計画記載事項)</p> <p>○施設のバリアフリー化として、黒田記念館、表慶館に多目的トイレと障がい者用EVを設置し、正門東側に多目的トイレを含むインフォメーション及びミュージアムショップの機能を備えた施設（正門プラザ）を建設した。また、本館リニューアルに伴う一時閉館期間に、多目的トイレの改修を行つた。</p> | A | 順調 |
| 2311-2 | <p>3) 総合文化展におけるスマートフォンアプリを用いたガイド「トーハクなび」（日本語版）・「法隆寺宝物館30分ナビ」（日本語版・英語版）を引き続き実施する。</p> <p>4) 障がい者のために点字版パンフレット等を引き続き配布する。</p> <p>5) 「総合案内パンフレット」（7ヵ国語：日、英、中、韓、仏、独、西）を制作・配布する。</p> <p>6) 本館2階「日本美術の流れ」の展示を外国人に理解してもらうために、より基礎的な解説を盛り込んだ、3ヵ国語（英、中、韓）のパンフレットを継続して制作・配布する。</p> <p>7) 育児中の来館者が快適に観覧できるよう託児サービスを提供する。</p> | <p>○施設のバリアフリー化として、黒田記念館、表慶館に多目的トイレと障がい者用EVを設置し、正門東側に多目的トイレを含むインフォメーション及びミュージアムショップの機能を備えた施設（正門プラザ）を建設した。また、本館リニューアルに伴う一時閉館期間に、多目的トイレの改修を行つた。</p> <p>3) 平成24年度より公開しているAndroidアプリ「トーハクなび」を引き続き公開した。さらに、25年9月26日には、iOS端末用の「トーハクなびiOS Lite版」を新たに公開した。iOS Lite版には、Android版で人気の高い「日本美術の流れコース」と「建物めぐりコース」の2つのコース、3つの体験型コンテンツを収録した。Android版よりもサイズを小さくし、ダウロードしやすくし、英語にも対応している。また、iOSアプリ「法隆寺宝物館30分ナビ」（日本語・英語対応）を引き続き公開した。</p> <p>4) 障がいの方のための点字版パンフレット等を引き続き配布した。</p> <p>5) 総合案内パンフレット「案内と地図」（7言語：日、英、中、韓、仏、独、西）の制作・配布を行つた。</p> <p>6) 本館2階「日本美術の流れ」の展示を外国人に理解してもらうために、より基礎的な解説を盛り込んだ3言語（英、中、韓）のカラーパンフレットを継続して制作・配布した。展示テーマと主な展示作品の解説を収録した日本語版は展示替えに応じて更新・配布した。また、総合文化展の見学のポイントを示し、鑑賞と理解を促す子供向けワークシート「本館見学マップ」「暮らしの道具 今昔」「日本の伝統もよう」の3種を制作・配布した。</p> <p>7) 前年度に試行実施した託児サービスを、特別展「和様の書」、「京都」会期中に実施した。</p> | A | 順調 |
| 2312 | <p>8) より快適な観覧環境を構築するため、休憩スペースを整備する。 (本館地下・表慶館)</p> <p>(京都国立博物館)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 快適な観覧環境を提供するための平常展示館の建替プログラムを継続して推進する。 2) 館内案内リーフレット（6ヵ国語：日、英、中、韓、仏、西）を継続して制作・配布する。 | <p>8) 25年9月に表慶館がリニューアルオープンしたことにより、1階の一部を休憩スペースとして開放した。</p> <p>【京都国立博物館】 (4館共通)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図った。 (京都国立博物館) 1) 24年度に本体工事が完了した平成新館（新平常展示館）において、快適な観覧環境を提供するため、外構工事（庭園の一部を整備）、展示ケース製作工事、展示製作工事（館内サイン、展示台等を製作）を実施した。 2) 前年度に製作した館内案内リーフレット（6言語：日、英、中、韓、仏、西）を継続して配布した。 <p>○平成新館（新平常展示館）が、京都市から『みやこユニバーサルデザイン優良建築物』に認定された。</p> <p>(中期計画記載事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常展示館にオストメイト対応トイレ、車いす対応水飲み器を設置した。 | A | 順調 |
| 2313 | <p>(奈良国立博物館)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 快適な観覧環境を提供するための展示施設の計画的な整備を実施する。 2) 誘導サイン及び展示照明を整備し、より快適な観覧環境を確保する。 3) 正倉院展の際に託児所を設置する。 4) なら仏像館における音声ガイドの導入について検討する。 5) ウェブサイトで展覧会の混雑状況・待ち時間の速報を行う。 6) 館内案内リーフレット（7ヵ国語：日、英、中、韓、仏、独、西）を継続して制作する。 7) なら仏像館の会場案内図、展示一覧を作成する。 | <p>【奈良国立博物館】 (4館共通)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 特別展において音声ガイドを活用した情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を図った。 (奈良国立博物館) 1) 快適な観覧環境を提供するための展示施設の計画的な整備を実施した。 2) 誘導サイン及び展示照明を整備し、より快適な観覧環境を提供した。 3) 正倉院展の会期中に、託児室を開設し、多くの利用者があった。 4) なら仏像館における音声ガイドの導入について検討した結果、展示替が年に数回ありそれに対応するのは困難であり、また解説ボランティアが常駐しているのでその必要性もないことから、導入しないこととなった。 5) ウェブサイトでの展覧会の混雑状況・待ち時間の速報については、正倉院展において特別協力の新聞社ウェブサイトにリンクを張る形で行った。 6) 館内案内リーフレット（7言語：日、英、中、韓、仏、独、西）を継続して制作した。 7) なら仏像館の会場案内図、展示リストを作成・配布した。 <p>(中期計画記載事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多目的トイレに「オストメイト」用設備を整備した | A | 順調 |

| | | | | |
|--------|--|--|----|----|
| 2314-1 | 【九州国立博物館】 (4館共通) 1)特別展等において展覧会の内容のより深い理解を助けるための音声ガイドを実施した。 (九州国立博物館) 1)展示課を中心として毎月1回、文化交流展示室の展示や施設についての研究会を実施した。 2)上記研究会の提言を受けて、展示環境の中で分かり易いサインの開発に努めている。 3)館内案内リーフレット(7ヵ国語:日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して作成・配布した。 4)トピック展でも展示趣旨を解説する英文のほか、トピック展示「ロシアが見たアイヌ文化」で英文リーフレットを配布した。 5)文化交流展示室では引き続き、英語・中国語・韓国語版のマップを展示替に応じて更新し、作成・配布した。 (中期計画記載事項) ・施設のバリアフリー化推進のため、「ほじょ犬」専用トイレを整備した。 ・公益財団法人日本博物館協会が実施する車椅子の寄贈事業を活用し、車椅子を新たに1台導入した。 | A | 順調 | |
| 2314-2 | (九州国立博物館) 1)快適な観覧環境を提供するための展示施設等の調査・分析及び検討を進める。 2)来館者にとって分かりやすい展示室内サインを開発し、快適な鑑賞環境を提供する。 3)館内案内リーフレット(7ヵ国語:日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作する。 4)文化交流展示室の展示を、日本文化に初めて接する海外の来館者にも理解しやすいような、外国語のパンフレットを刊行する。 5)英語・中国語・韓国語版の文化交流展示室のマップを継続して制作する。 | A | 順調 | |
| 2321 | ② 来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営 (4館共通) 1)来館者のニーズを引き出すため来館者調査を実施し、その結果を改善に活かす。 2)混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、収容力に応じた入場者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの対象となる文化財の解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。 | ② 来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営 【東京国立博物館】 (4館共通) 1)・タッチパネルアンケート(特別展、総合文化展)の実施 平成館、本館、東洋館で開催された全ての特別展及び総合文化展でアンケートを実施した結果を元に環境改善に努めた。 ・「総合文化展100万人プロジェクト」の一環として非来館者調査(インターネット調査、フォーカスグループインタビュー、街頭調査)を行い、外部有識者を交え、総合文化展の問題点の洗い出しを行った。 2)特別展「京都一洛中洛外図と障壁画の美」期間中の混雑対応等、展覧会場の快適な環境維持に努めた。 | A | 順調 |
| 2322 | (京都国立博物館・奈良国立博物館) 1)特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。 (京都国立博物館) 1)モニターを委嘱し、提言を受け、博物館運営に反映する。 | 【京都国立博物館】 (4館共通) 1)来館者アンケートを実施し、その結果を改善に生かした。 2)混雑時には入場制限を行い、来館者の安全の確保、快適な観覧環境の維持に努めた。 (京都国立博物館・奈良国立博物館) 1)特別展覧会等に関する専門家の展覧会評を求め、『京都国立博物館だより』に掲載した。 (京都国立博物館) 1)小学校・中学校・高等学校の教員、ミュージアムぐるっとバス関西加盟店の職員及びキャンパスメンバーズ加盟店の学生へモニターを委嘱し、提言を受けた。館内で情報を共有し、展覧会を含めた博物館運営に反映した。 | A | 順調 |
| 2323 | (京都国立博物館・奈良国立博物館) 1)特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。 | 【奈良国立博物館】 (4館共通) 1)来館者のニーズを引き出すため来館者にアンケートを実施し、その結果を改善に活かした。 2)混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、実際の混雑に対しては、収容力に応じた来館者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの対象となる文化財の解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努めた。 (京都国立博物館・奈良国立博物館) 1)特別展「當麻寺一極楽浄土へのあこがれ」に関し、専門家の展覧会評を『奈良国立博物館だより』87号に掲載した。 | A | 順調 |
| 2324 | (京都国立博物館・奈良国立博物館) 1)特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。 | 【九州国立博物館】 (4館共通) 1)来館者のニーズを引き出すため、文化交流展示及び各特別展で来館者調査を実施した。 2)・混雑が予想される展覧会(特別展「尾張徳川家の至宝」)について、入場規制、展示レイアウトの工夫をし、展覧会場の快適な環境維持に努めた。 ・来館者のニーズ等を把握するため、識者や市民代表などの外部委員による懇話会を開催した。 | A | 順調 |
| 2331 | ③ ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実 ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。 (4館共通) 1)オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。 | ③ ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実 【東京国立博物館】 (4館共通) 1)・ミュージアムグッズは、東京国立博物館協力会と協議を重ね、新たな商品の開発 | A | 順調 |

| 2332 | <p>(東京国立博物館)</p> <p>1) 正門エリアのリニューアルに伴い設置する無料ゾーンに、ミュージアムショップを併設する。</p> <p>2) 黒田記念館にカフェを設置する。</p> | <p>に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資生堂パーラー製ラ・ガナッシュや榮太樓飴、神戸風月堂ゴーフルなど有名菓子メーカーとの共同開発を行い、来館記念に購入しやすい商品のラインアップを充実させた。また、当館のキャラクターグッズを充実させ購買対象の拡大を図った。 ・秋の特別公開にあわせ、重文「夏秋草図屏風」のグッズコーナーや原寸大複製を設置するなど展示作品との関連を重視した販売を行った。 <p>○レストランでは、「博物館に初もうで」の期間中にヒマラヤ岩塩パウダーや伊予の水引の箸置の配布を行い、また特別展に合わせたメニューを提供する等、サービスの向上に努めた。</p> <p>(東京国立博物館)</p> <p>1) 正門エリアのリニューアルに伴い設置する無料ゾーンに、ミュージアムショップを併設する準備を進めた。(26年4月オープン予定)。</p> <p>2) 25年9月4日に黒田記念館別館に上島珈琲店を開店した。</p> | A | 順調 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|---|--|--------|------|------|-----|----|--------------|---|---|---|---|---------|---|---|---|---|---------|---|---|---|---|---------|---|---|---|---|---------|--|--|--|--|--|--|
| 2333 | <p>(京都国立博物館)</p> <p>1) レストラン利用者にアンケート調査を行いサービス向上に努める。</p> <p>2) 新平常展示館に新たなレストランを設けるための各種準備を行う。</p> | <p>【京都国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1)新規にオリジナルグッズを作成し、また展覧会に応じた関連商品、関連書籍等を取り揃え、サービスの向上に努めた。</p> <p>(京都国立博物館)</p> <p>1)レストラン利用者にアンケート調査を実施し、アンケートの集計結果をレストラン外部委託業者に提示し、さらなる接客サービスの向上に努めた。</p> <p>2)平成知新館(新平常展示館)に併設されるレストランの企画競争準備を整えた。</p> | A | 順調 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <p>(奈良国立博物館)</p> <p>1)ノベルティグッズを作成し、来館者に配布するなどのサービスを行う。</p> <p>2)仏教美術に関する図書の販売の充実を図る。</p> <p>3)より快適な環境を提供できるよう、メニューを含めレストランのリニューアルを検討する。</p> | <p>【奈良国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1)オリジナルグッズ(元気が出る仏像シリーズ、正倉院展模様シリーズ、博物館グッズ)の商品をミュージアムショップで販売し、サービスの向上に努めた。</p> <p>(奈良国立博物館)</p> <p>1)・正倉院展のオータムレイ特の観覧券を購入した方に非売品のしおりを配布した。 ・26年1月2日に来館された方に正月サービスとして非売品のバッヂを配布した。</p> <p>2)仏教美術に関する図書の販売の充実を図った。</p> <p>3)より快適な環境を提供できるよう、レストランの全面リニューアルを行った。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2334 | <p>(九州国立博物館)</p> <p>1) 特別展に関連した特別メニューを提供するなど、サービスの向上に努める。</p> | <p>【九州国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) ミュージアムショップでは、特別展及び文化交流展示の展示内容に即した商品陳列を行い、オリジナル商品の陳列面積を増やすとともに地場産業のお菓子やグッズなどを提供した。</p> <p>(九州国立博物館)</p> <p>1) レストランでは、特別展に関連したメニューを期間限定で提供した。</p> | A | 順調 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | <table border="1"> <thead> <tr> <th>定量評価項目</th> <th>25年度</th> <th>24年度</th> <th>目標値</th> <th>評定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リーフレット等(ヵ国語)</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>東京国立博物館</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>京都国立博物館</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>奈良国立博物館</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>九州国立博物館</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 定量評価項目 | 25年度 | 24年度 | 目標値 | 評定 | リーフレット等(ヵ国語) | 7 | 7 | 7 | A | 東京国立博物館 | 6 | 6 | 6 | A | 京都国立博物館 | 7 | 7 | 7 | A | 奈良国立博物館 | 7 | 7 | 7 | A | 九州国立博物館 | | | | | | |
| 定量評価項目 | 25年度 | 24年度 | 目標値 | 評定 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| リーフレット等(ヵ国語) | 7 | 7 | 7 | A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 東京国立博物館 | 6 | 6 | 6 | A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 京都国立博物館 | 7 | 7 | 7 | A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 奈良国立博物館 | 7 | 7 | 7 | A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 九州国立博物館 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

(4) 文化財情報の発信と広報の充実

【中期目標】文化財情報の蓄積と発信の充実に努めるとともに、展示及び各種事業に関し、積極的な広報に努めること。

【中期計画】

(4) 文化財情報の発信と広報の充実

- ①収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。
- 収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。
- ②美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。
- ③展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。
- ④広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスマディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。
- ⑤ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。

【主な計画上の評価指標】

- 収蔵品等に関するデジタル化目標件数を定め、それを達成すること。また、公開データ件数を増加させること。
- 報資料を収集し、レファレンス機能を充実させること。
- 計画的な広報・情報提供を行うこと。
- ウェブサイトアクセス件数の向上を図ること。

【24年度評価における主な指摘事項】

- 広報活動に関しては、多角的で積極的な取組は評価できる。さらに効果につながるような試みについて、検討してほしい。

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 | |
|------|---|--------------------|------|----|
| | | | 年度 | 中期 |
| | <p>(4) 文化財情報の発信と広報の充実</p> <p>① デジタル化の推進 (4館共通)</p> <p>1) 収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインター</p> | (4) 文化財情報の発信と広報の充実 | | |

| | | | | |
|------|---|--|---|------|
| | | | | |
| 2411 | <p>ネットでの公開を継続して行う。</p> <p>2) 収藏品の国宝・重要文化財について、5ヵ国語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（e国宝）を継続して公開する。</p> <p>3) 約6,200件（東京：1,000、京都：2,000、奈良：3,000、九州：200）の収藏品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施する。</p> <p>（東京国立博物館）</p> <p>1) 外部への公開を見据えた「列品管理プロトタイプデータベース」（学芸業務支援システム）の構築を進め、博物館機能の充実を図る。</p> <p>2) 収藏品に関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。</p> <p>3) 収藏品の和書のデジタル化を実施し、データを整備して、公開する。</p> <p>4) 法隆寺献納宝物について、5ヵ国語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（「法隆寺献納宝物デジタルアーカイブ」）等の提供を法隆寺宝物館にて継続して実施する。</p> | <p>【東京国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) デジタル画像を資料館及びインターネットで公開した。</p> <p>2) 国宝・重要文化財の高精細画像（e国宝）を継続して公開した。またiOS、Androidそれぞれのアプリ版「e国宝」を継続して公開し、アップデートを行った。</p> <p>3) 既存のシートフィルムのデジタル化は大半が既に終了しており、今年度は、25年度新規フィルム撮影分及び24年度未撮影分にあたる、カラーフィルム304枚、モノクロフィルム1枚をデジタル化した。また、マイクロフィルムについては当初予定していたなかつたが、25年度予算にて実施できることとなり、館史資料を中心とする550,000コマ（1,039リール）をデジタル化した。これをもって、既存マイクロフィルムのデジタル化についてもほぼ完了することができた。</p> <p>（東京国立博物館）</p> <p>1) 「列品管理プロトタイプデータベース」について、検索性能の向上等のアップデートを行った。</p> <p>2) 収藏品情報のデータ化とデータ整備を推進した。</p> <p>3) 収藏品の和古書について18,307カット、また所蔵する洋古書について3,788カットのデジタル撮影を行い、公開に向けてデータを整備した。</p> <p>4) 「法隆寺献納宝物デジタルアーカイブ」はサーバ機器が故障したため、25年4月より一時公開を停止し、バックアップデータと再構築の手順について調査した。開発当時作成されたバックアップデータの旧式カードトリッジを読み取る機器を次年度調達してデータを精査し、利用可能であれば次年度の前半には再開可能となる見込みである。</p> <p>○東京国立博物館情報アーカイブの運用を継続し、収藏品、調査研究成果等の情報公開の充実を図った。</p> <p>【京都国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) 収藏品のデジタルデータを作成し、文化財情報システム及び公開収藏品データベースの登録を随時行い、当館デジタルアーカイブ及び公開情報サービスを行った。</p> <p>2) 収藏品の国宝・重要文化財について、5言語（日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語）の説明を付したデジタル高精細画像（e国宝）を継続して公開した。</p> | A | 順調 |
| 2412 | | | | |
| 2413 | <p>（京都国立博物館）</p> <p>1) 収藏品について多国語の説明を付した国宝重要文化財・名品高精細画像閲覧システムの整備を継続して実施する。</p> <p>（奈良国立博物館）</p> <p>1) 収藏品について情報の整備を継続して実施し、収藏品データベースの充実を図る。</p> <p>2) 画像データベースの個別データを約2,000件追加更新する。</p> <p>3) 修理記録・古写真・ガラス乾板等の整理とデジタル化を推進し、運用方法について検討する。</p> <p>4) 仏教美術情報の公開・普及を図る。</p> | <p>3) 収藏品写真等の既存フィルムのデジタル化を継続し、2,682件実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成24年度導入のフィルム用スキャナについて本格運用を開始し、既存フィルムのデジタル化を促進した。 ガラス乾板及びマイクロフィルムのデジタル化を開始した。（詳細は処理番号2422を参照） <p>（京都国立博物館）</p> <p>1) 京都国立博物館所蔵国宝重要文化財・名品高精細画像公開システム「KNM GALLERY」の内容及び表示方法等について前年度に引き続き修正を行った。</p> <p>【奈良国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) 収藏品データベースと画像データベースの公開により、来館者及びインターネットでの情報提供を継続して行った。</p> <p>2) 国宝・重要文化財のデジタル高精細画像（e国宝）を継続して公開した。</p> <p>3) 収藏品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施した（7,615件）。</p> <p>（奈良国立博物館）</p> <p>1) 収藏品情報システムに新たに収藏品となった文化財の情報を継続して蓄積し、「なら仏像館名品図録」掲載の情報も追加するなどして内容の充実に努めた。これらは公開用の収藏品データベースにも反映され、当館から発信する収藏品の基本情報、画像、解説文、文献とともに充実させることができた。</p> <p>2) 写真情報システムの個別データを9,093件追加更新した。このうち公開データは4,280件。</p> <p>3) 「日本美術院彫刻等修理記録」の整理とデータ作成を継続して行い、学芸部内で運用しているデータベースのデータを更新した。</p> <p>4) 仏教美術資料研究センターのウェブサイトを運営し、蔵書、論文データの更新を行い内容の充実に努めた。</p> <p>【九州国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) 「九州国立博物館収藏品デジタルアーカイブ」の拡充を図り、館内及びインターネットで継続して収藏品情報を発信した。</p> <p>2) 収藏品の国宝・重要文化財について、デジタル高精細画像（e国宝）を継続して公開した。</p> <p>3) 62件の収藏品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施した。</p> <p>（九州国立博物館）</p> <p>1) デジタルアーカイブの充実を図るため、収藏品に関するコンテンツの追加を検討している。</p> <p>2) ドイツにおける博物館教育の実態を調査して写真に収め、今後の博物館教育の参考資料とした。</p> | S | 順調 |
| 2414 | <p>（九州国立博物館）</p> <p>1) 収藏品に関するコンテンツを順次追加し、デジタルアーカイブの充実を図る。</p> <p>2) 海外調査で撮影した写真やビデオを展示や教育普及事業で活用するための整備を行う。</p> | <p>【九州国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) 「九州国立博物館収藏品デジタルアーカイブ」の拡充を図り、館内及びインターネットで継続して収藏品情報を発信した。</p> <p>2) 収藏品の国宝・重要文化財について、デジタル高精細画像（e国宝）を継続して公開した。</p> <p>3) 62件の収藏品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施した。</p> <p>（九州国立博物館）</p> <p>1) デジタルアーカイブの充実を図るため、収藏品に関するコンテンツの追加を検討している。</p> <p>2) ドイツにおける博物館教育の実態を調査して写真に収め、今後の博物館教育の参考資料とした。</p> | B | ほぼ順調 |

| | | | | |
|------|--|---|---|------|
| | | | | |
| 2421 | <p>②博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化 美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。 (4館共通)</p> <p>1) 約11,000件（東京：3,000、京都：3,000、奈良：3,000、九州：2,000）の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備する。</p> <p>(東京国立博物館) 1) 資料館において、美術史等の情報及び資料を一般に広く公開するために、図書管理システム及び画像管理システムを軸とした図書資料、画像資料などのデータ整備を推進し、レファレンス機能とサービスの充実を図る。</p> <p>2) 法隆寺宝物館において、観覧者向け図書コーナーサービスを継続実施する。</p> <p>3) 調査・研究・教育などに有益な情報及び関係資料を収集・蓄積する。</p> <p>4) 資料館の機能の拡充に向け、施設・設備の見直しを含めた、利用計画を策定する。</p> | <p>②博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化</p> <p>(東京国立博物館) (4館共通)</p> <p>1) 本年度は9,865件の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備した。 (東京国立博物館)</p> <p>1)・資料館における美術史等の情報・資料の公開のため、約8,500件の図書資料のデータ整備入力を推進した。また、展覧会カタログ約650冊と洋雑誌約640冊の既存データについて、書誌データの確認・訂正を実施した。 ・今年度より国立情報学研究所の目録所在情報サービス(NACSIS-CAT)への雑誌の登録を開始し、洋雑誌639タイトル、和雑誌49タイトルの所蔵情報を登録した。 ・画像管理システムに画像データ9,865件を登録し、既存データ1,450件の修正を行って正確な情報の提供に努めた。 ・貴重資料のデジタルアーカイブ公開にむけ、16件62冊の洋書・漢籍のデジタル撮影を実施した。 ・資料の閲覧、複写及びレファレンスサービスを継続し、資料館利用者数は前年度に引き続き増加した。(5,661人。参考：24年度4,828人)</p> <p>2) 法隆寺宝物館において、観覧者向け図書コーナーサービスを継続した。</p> <p>3) 東京国立博物館開催の展覧会出品作品データベースに4,989件の作品情報を入力した。また、所蔵品情報と文献情報とを関連づけるため、当館刊行物に収載されている所蔵品を調査し、約120冊の図書・雑誌のデータに列品番号の情報を入力した。また記載された列品番号などの確認調査を行い、約90件について訂正、確認を関連部署に依頼し、画像及び列品情報の精度の向上に努めた。</p> <p>4) VRシアター跡及び黒田記念館の書庫スペースについて、書架の設置と資料の配置案の策定を行った。</p> <p>(京都国立博物館) (4館共通)</p> <p>1)・収蔵品・出品作品等の新規撮影は、フィルム撮影を1,406枚、デジタル撮影を3,119枚行った。 ・デジタルカメラ等撮影機材が導入され、デジタル撮影とフィルム撮影を並行して</p> | A | 順調 |
| 2422 | | | | |
| 2423 | <p>(奈良国立博物館) 1) 図書情報システム及び写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、内外の利用者に対してサービスの充実を図る。 2) 仏教美術資料研究センターの耐震補強工事完了をうけて、利用者に対し利便性向上を図るために、資料配置を見直し、資料の効率的な活用と効率的な運用について検討し、実施する。</p> | <p>行つた。 ・画像利用申請に伴う収蔵フィルムのデジタル化作業を継続して行った。 ・館蔵ガラス乾板の保存整理作業を継続して行い、ガラス乾板のデジタル化を始めた。 ・フィルムの保存状態改善のため、保存に適した収納箱への移し替えを開始した。 ・経年劣化の激しいマイクロフィルムのデジタル化を開始した。 ・調査、研究、教育等に資するため、図書資料においては、新規図書2,503冊、逐次刊行物1,411冊を収集した。</p> <p>(奈良国立博物館) (4館共通)</p> <p>1) 収蔵品・展覧会等出品作品等の新規撮影を多数行い、関連データを整備した(4,648件)。 (奈良国立博物館)</p> <p>1)図書情報システム及び画像情報システムによる情報蓄積を推進し、仏教美術資料研究センター及びインターネットにおける情報公開を充実させた。 2)・当館が公開するOPAC(図書)、収蔵品データベース、画像データベースの連携を強化させ、情報発信と利便性の向上に努めた。 ・仏教美術資料研究センターに附属する資料庫の空調設備を改修し、貴重書・複製・拓本などの資料の保存環境を改善するとともに、利便性を考慮して一部資料の配置換えを行った。 ・仏教美術資料研究センターでは、通常の資料・施設の公開にとどまらず、ボランティアによる建築案内や、専門家の見学や研修の受け入れを複数回行った。外部からの見学・取材依頼は増加しており、それらに適宜対応することにより、機能及び施設の普及・宣伝に効果を上げている。</p> | A | 順調 |
| 2424 | <p>(九州国立博物館) 1) 対馬宗家文書データベースの効率的な運用を検討し、実施する。 2) 博物館資料（収蔵品、図書、写真など）データベースにおける業務の効率化に向けて、第2次業務システムについて継続的に見直しと改良を加え、より充実した業務システム構築を目指す。</p> | <p>(九州国立博物館) (4館共通)</p> <p>1) 1,512件の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備した。 (九州国立博物館)</p> <p>1) 対馬宗家文書データベースの効率的な運用のため、システムについて検討を行った。 2) 博物館資料（収蔵品、図書、写真など）データベースにおける業務の効率化に向けて、第2次業務システムの検討を行った。</p> | B | ほぼ順調 |
| 2430 | <p>③ 広報計画の策定と情報提供 (機構本部) 1) 機構の概要、年報を作成する。</p> | <p>③ 広報計画の策定と情報提供 【本部事務局】 (機構本部)</p> <p>1)『独立行政法人国立文化財機構概要 平成25年度』を25年7月に発行し、PDF版をウェブサイトに掲載した。</p> | A | 順調 |

| | | | | |
|------|--|---|---|----|
| | | | | |
| 2431 | <p>2) 機構本部ウェブサイトを運用し、法人情報の提供を行う。</p> <p>(4館共通)</p> <p>1) 年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。</p> <p>(東京国立博物館、奈良国立博物館)</p> <p>1) 広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。</p> <p>(東京国立博物館)</p> <p>総合文化展の活性化に重点をおいた広報活動を行う。</p> <p>1) 本館2階「日本美術の流れ」のテーマ解説及び主な展示作品の解説をまとめ、展示替ごとに更新する日本語パンフレットを継続して作成し、配布する。</p> <p>2) 平成26年春の本館一部リニューアルオープニングを含めた総合文化展の広報展開の企画・運営を行う。</p> | <p>『独立行政法人国立文化財機構年報 平成24年度』を26年1月に発行し、PDF版をウェブサイトに掲載した。</p> <p>2) 機構本部ウェブサイト(http://www.nich.go.jp/)の運用を継続した。随時掲載情報の追加更新を行い、広く一般に向けた法人情報の提供を行った。</p> <p>【東京国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) 年間スケジュールリーフレットを制作し(35,000部)、送付及び館内配布した。 (東京国立博物館、奈良国立博物館)</p> <p>1) 『東京国立博物館ニュース』(隔月刊)、「博物館でお花見を」「秋の特別公開」「博物館に初もうで」「本館リニューアル」他各種広報印刷物を制作・配布した。 (東京国立博物館)</p> <p>1) 「日本美術の流れ」パンフレットに関しては処理番号2311-2を参照。</p> <p>2) 『東京国立博物館ニュース』掲載、「博物館でお花見を」チラシ掲載、ウェブサイト・SNSによる告知を行った。</p> | A | 順調 |
| 2432 | | 【京都国立博物館】 (4館共通) | A | 順調 |
| 2433 | <p>(東京国立博物館、奈良国立博物館)</p> <p>1) 広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。</p> <p>(奈良国立博物館)</p> <p>1) 特別展の際に、タクシー・ホテル等関係者に対する内覧会を実施し、タクシー・ホテル等利用者への広報活動を展開する。</p> <p>2) 地域の観光協会を通じて観光客への広報活動を展開する。</p> <p>3) 地域の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動の展開を図る。</p> <p>4) 文化大使を引き続き任命し、広報活動を行う。</p> <p>5) 写真・映像の撮影等に場所提供を含め協力することにより博物</p> | <p>1) 年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行った。</p> <p>【奈良国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) 25年5月～26年5月の展覧会日程を記載したリーフレットの初版を5月に5,000部、一部改訂版を10月に30,000部作成し、配布した。 (東京国立博物館、奈良国立博物館)</p> <p>1) それぞれの展覧会の特性や意義に応じた広報の方針、及び印刷物の部数を議論する広報戦略委員会を、5回実施した。 (奈良国立博物館)</p> <p>1) 特別展では、タクシー・ホテル等関係者に対する内覧会を実施、タクシー・ホテル等の利用者への広報活動を行った。</p> <p>2) 奈良市観光協会への入会をはじめ、積極的に地元観光業界に対し広報活動を展開することでともに情報収集に努めた。</p> <p>3) 奈良県が後援する観光イベントへの積極的な協力や、奈良県ビジターズビューローとの連携等、地域の観光団体等と連携した広報活動を展開した。</p> <p>4) 文化大使の任期満了にともない、次期候補者の選考を行った。</p> <p>5) 新聞社や鉄道会社の広報誌、地元のタウン情報誌等の写真撮影協力やテレビ局に対</p> | A | 順調 |
| 2434 | 館の認知度を高める。 | <p>して放送のための映像撮影協力をを行い、博物館の認知度を高めた。</p> <p>【九州国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) 年間スケジュールリーフレット「九州国立博物館 展示スケジュールのご案内」の制作・配布を行った。(20,000部) (九州国立博物館)</p> <p>1) 例年通り主催者と連携しつつ、広報・宣伝材料を作成し、告知の拡大に努めた。</p> <p>2) 例年同様、2ヶ月間隔で展示替えスケジュールを公開し、文化交流展示の展示内容の告知の拡大に努めた。</p> <p>3) ポップ展示ポスター、ちらし、「展示・イベントスケジュール」の設置など観光協会と連携した広報活動を実施した。 福岡県が運営するポップカルチャー配信サイト「アジアンビート」のウェブサイトに博物館情報を掲載した。</p> <p>4) 九州観光推進機構のウェブサイトに博物館情報を掲載し、アジアへ情報を発信した。</p> <p>5) 特別展が開催されない正月期間の来館促進を図るために、オリジナル手ぬぐいを作成し、正月用ポスター等を掲出して展示・イベントの告知に努めた。</p> | A | 順調 |
| 2441 | <p>④ 広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスマディアとの連携強化等による積極的な広報活動 (4館共通)</p> <p>1) マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。</p> <p>2) ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。</p> <p>3) メールマガジンを配信する。</p> <p>(東京国立博物館)</p> <p>1) 『東京国立博物館ニュース』の編集・発行・配布を行う。(年6回)</p> <p>2) ウェブサイトでは、ブログや投票などの博物館の顔が見えるコンテンツ及びユーザ参加型のコンテンツを継続して発信する。</p> <p>3) 主要メディアの文化担当記者との懇談会を開催し、マスコミとの連携を強化する。</p> | <p>④ 広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスマディアとの連携強化等による積極的な広報活動</p> <p>【東京国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開した。</p> <p>2) ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行った。</p> <p>3) メールマガジンを配信した。(26回) (東京国立博物館)</p> <p>1) 『東京国立博物館ニュース』の編集・発行・配布を行った。(年6回)</p> <p>2) 「1089ブログ」により、情報発信を行った。(更新数116回) ・「投票」など、読者参加型のコンテンツで、展示や文化財についての興味喚起を図った。</p> <p>3) 新聞各紙の美術・文化担当記者ならびに文部科学省記者クラブのメンバーを対象とした記者懇談会を実施した。(25年11月20日)</p> | S | 順調 |

| | | | | |
|--------|--|--|----|----|
| 2442 | <p>【京都国立博物館】 (4館共通)</p> <ol style="list-style-type: none"> 各展覧会の招待日にプレス発表会を開催した。 各展覧会の招待日のプレス発表会とは別に、調査研究成果のプレス発表会を随时開催し、博物館の研究活動の広報に努めた。 ウェブサイトによる情報提供(日本語・英語)、及び、モバイルサイトによる情報提供を行った。 メールマガジンを配信した。また、メールマガジン読者限定特典のブックレット「京博PLUS」の配信を行った。(メールマガジン12回、ブックレット12回) 『京都国立博物館だより』(年4回)、『Newsletter』(年3回)の発行・配布を行った。 東山南部地域の社寺やホテル等と連携し、展覧会チケットが割引券となる地域マップ付チラシを作成し、広報活動を展開した。 京都市内4館(京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都府文化博物館、京都市美術館)の連携協力の提携を結び、共通の展覧会情報パンフレットを作成・配布した。 既刊の博物館ディクショナリーをウェブサイトに掲載し、新刊をメールマガジンにて配信し、利用者の拡大を図る。 収蔵品貸与情報をウェブサイトにて公開した。 | A | 順調 | |
| 2443-1 | <p>【奈良国立博物館】 (4館共通)</p> <ol style="list-style-type: none"> 年間を通じて文化財の魅力を紹介する新聞連載を行ったほか、各特別展等の開催に合わせて、マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開した。 特別展や公開講座等の企画ごとに、また展示替えごとにウェブサイト及びモバイルサイトを更新し、最新の情報提供を行った。 メールマガジンを毎月1回配信した。(11回) | A | 順調 | |
| 2443-2 | <p>【奈良国立博物館】 (4館共通)</p> <ol style="list-style-type: none"> 特別展及び名品展の情報を掲載した『奈良国立博物館だより』の編集・発行・配布を行う。(年4回) ウェブサイトの外国語版の充実を図る。 奈良県立美術館、入江泰吉記念奈良市写真美術館と連携し、集客増に繋がる広報活動を展開する。 東大寺、春日大社などの寄託社寺及び賛助会員企業と連携し、 | A | 順調 | |
| 2444 | <p>特別展等の割引特典付きチラシを配布する。</p> <p>5) マスコミからの取材申し込みを積極的に受け入れ、展覧会、博物館活動への理解・促進を図る。</p> <p>6) 季刊誌『奈良国立博物館だより』のPDF版をウェブサイトに継続して掲載する。</p> <p>7) 英語による展覧会チラシを作成し、外国人観光客誘致のための情報発信を行う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 冬季の集客を図るため割引券を作成し、観光案内所及び市内の宿泊施設に配布した。 特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」について、期間限定(26年1月2日～5日)の無料観覧券(※名品展は観覧割引)を、春日大社において配付し、おん祭展の広報と館の認知度アップに繋げた。 特別陳列「お水取り」について、期間限定(26年3月7日～9日)の無料観覧券(※名品展は観覧割引)を、東大寺において配付し、お水取り展の広報と館の認知度アップに繋げた。 特別展、特別陳列等の開催にあたっては、報道発表、プレスプレビューを実施、取材にも積極的に対応した。 季刊誌『奈良国立博物館だより』のPDF版をウェブサイトに掲載した。 特別展では、英文チラシを作成、外国人観光客向けの情報発信を行った。 <p>【九州国立博物館】 (4館共通)</p> <ol style="list-style-type: none"> マスコミや公共交通機関等と連携し、新聞紙上での作品の解説や公共交通機関での広報活動を行った。 ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行った。 メールマガジンを配信した。(毎月2回、年24回) 25年5月15日、フォーマットをリニューアルした。 | A | 順調 |
| 2451 | <p>(九州国立博物館)</p> <p>1) ウェブサイトで提供する博物館情報の充実を図るとともに、利用者の利便性を考慮した情報の発信に努める。</p> <p>2) 「九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ」の編集・発行・配布を行う。(年4回)</p> | <ol style="list-style-type: none"> ウェブサイトにて文化交流展示室の「今月の名品」のスケジュール等を掲載し、また研究員が展覧会等の解説を行う動画を「YouTube」で配信した。 九州国立博物館季刊情報誌『アジアージュ』を発行した。(年4回) <p>○『きゅーはく攻略本』を作成・配布した。(25年8月)</p> <p>⑤ ウェブサイトアクセス件数の向上を図る。 (4館共通)</p> <p>1) アクセス件数の向上を図るために、ウェブサイトの内容の充実を図る。</p> | A | 順調 |
| 2452 | | <p>【東京国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) アクセス件数の向上を図るために、ウェブサイトの内容の充実を図った。(詳細は処理番号 2441 参照)</p> <p>【京都国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) ウェブサイトにおいて特別展覧会、各種講座、イベント、教育等のコンテンツ掲載</p> | A | 順調 |

| | | | | |
|------|---------------------|--|---|----|
| | | や更新を通じ、内容の充実に努めた。 ・ウェブサイトにおいて博物館概要、刊行案内などの充実を通じ、情報発信の強化に努めた。 ・メールマガジン及びメールマガジン読者特典ブックレットを配信し、親しみやすさの向上等に努めた。(詳しくは処理番号 2442 を参照) ・「Twitter」を通じて特別展会場の混雑状況を発信し、来館者サービスの向上を図った。 ・平成新館(新平常展示館)に向けた当館ウェブサイトのリニューアルの準備をし、26年3月に製作を完了した。(26年6月公開予定) ・セキュリティ維持のため、サーバOSのアップデート及びWAF(ウェブアプリケーションファイアウォール)の運用を開始した。 | | |
| 2453 | 【奈良国立博物館】 (4館共通) | 1) 「トピックス」の欄を頻繁に更新し、さらにイベント情報欄には文字情報のみならずチラシ画像なども掲載して、より多くの情報を発信することに努めた。 ・特別展および特別陳列を紹介する頁に、主な出陳作品の写真付き解説を掲載し、展示構成や作品理解への便宜を図った。特に昨年以上に掲載作品を増やし、より展覧会の理解に資するよう努めた。 ・『奈良国立博物館だより』の最新版をウェブサイト上で閲覧できるよう適宜アップしました。 ・「第65回 正倉院展」の会期中、読売新聞大阪本社(特別協力)のウェブサイトと連携して「ただ今の混雑状況」を知らせる小窓を設置した。 ・アンケート集計結果を公表する頁を設け、平成23年度の「第63回 正倉院展」以降の特別展でお客様より頂いたアンケートの集計結果を提示している。 | A | 順調 |
| 2454 | 【九州国立博物館】 (4館共通) | 1) 研究員が展覧会の解説を行う動画や駐車場空き情報の提供など、ウェブサイトの内容の充実を図った。 | A | 順調 |

| | | 定量評価項目 | 25年度 | 24年度 | 目標値 | 評価 |
|--|------------------------------|--------------------------|-------|-------|-----|----|
| | | 収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数(件) | | | | |
| | 東京国立博物館 | 550,035 | 776 | 1,000 | S | |
| | 京都国立博物館 | 2,682 | 2,732 | 2,000 | A | |
| | 奈良国立博物館 | 7,615 | 4,924 | 3,000 | S | |
| | 九州国立博物館 | 62 | 1,450 | 200 | C | |
| | 収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数(件) | | | | | |
| | 東京国立博物館 | 9,865 | 9,556 | 3,000 | S | |

| | | | | | |
|--|-------------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------|
| | 京都国立博物館 奈良国立博物館 九州国立博物館 | 4,525 4,648 1,512 | 2,713 4,960 2,142 | 3,000 3,000 2,000 | S S B |
| | 各博物館発行の広報印刷物発行回数(回) | | | | |
| | 東京国立博物館 東京国立博物館ニュースの発行 | 6 | 7 | 6 | A |
| | 京都国立博物館 博物館だよりの発行 | 4 | 4 | 4 | A |
| | Newsletter の発行 | 3 | 4 | 4 | B |
| | 奈良国立博物館 博物館だよりの発行 | 4 | 4 | 4 | A |
| | 九州国立博物館 「九博季刊情報誌アジアージュ」の発行 | 4 | 4 | 4 | A |

3 我が国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与

【中期目標】博物館の中核として我が国における博物館の先導的役割を果たすとともに、海外の博物館とも積極的に交流を図り、国内外の博物館活動全体の活性化に寄与する。

(1) 収蔵品等に関する調査研究成果の発信

| | |
|---|---|
| 【中期目標】収蔵品等に関する調査・研究の成果を多様な方法により積極的に公表し、広く博物館関係者の知見の向上に資すること。 | |
| 【中期計画】 博物館の中核として我が国における博物館の先導的役割を果たすとともに、海外の博物館とも積極的に交流を図り、国内外の博物館活動全体の活性化に寄与するため、以下の事業を実施する。 (1)収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。 | 【主な計画上の評価指標】 ○各種刊行物等で調査・研究の成果を広く公表すること。 ○各種刊行物の電子書籍化、インターネットでの公開を行うこと。 【24年度評価における主な指摘事項】 ○インターネットを用いた公開も行われているが、今後は、多言語化、一般向けの分かりやすい成果報告など、なお一層の工夫が望まれる。 |

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 | |
|------|---|--|------|----|
| | | | 年度 | 中期 |
| 3111 | (1) 調査研究の成果の発信 (東京国立博物館、京都国立博物館) 1) 文化財修理報告書を刊行する。 (東京国立博物館) 1) 東京国立博物館情報アーカイブを運用し、「東京国立博物館情報アーカイブ」等、インターネットを活用した収蔵品・調査研究等に関する情報公開の充実を図る。 2) 紀要・図版目録等を刊行する。 3) 法隆寺献納宝物特別調査概報を刊行する。 4) 研究誌『MUSEUM』を刊行する。(年6回) | (1) 調査研究の成果の発信 【東京国立博物館】 (東京国立博物館、京都国立博物館) 1) 『東京国立博物館文化財修理報告』 XIVを刊行した。 (東京国立博物館) 1) (東京国立博物館情報アーカイブの詳細は処理番号2411参照)。特別展図録・特集陳列印刷物(リーフレット) 14件を発行した。そのうちPDFファイル版5件を東京国立博物館ウェブサイト上に公開することによって研究情報の普及を図った。 2) 『東京国立博物館紀要』 49号より「キーワード」を導入した。 3) 『法隆寺献納宝物特別調査概報XXIV 聖徳太子絵伝(四幅本) 2』を刊行した。 4) 研究誌『MUSEUM』 643~648号を刊行した。今年度より「キーワード」を導入した。 ○特別展図録・特集陳列図録を編集した。 ○国際標準図書番号ISBN及び日本版商品識別コードJANを取得し、図書流通や図書館情報の利便性を図った。 ○出版企画委員会 8回、『MUSEUM』『紀要』等編集委員会 11回を開催し、博物館の出版事業の拡充を図った。 【京都国立博物館】 (東京国立博物館、京都国立博物館) 1) 『文化財保存修理所修理報告書10・11号』を刊行した。 (京都国立博物館) | A | 順調 |
| 3112 | (東京国立博物館、京都国立博物館) 1) 文化財修理報告書を刊行する。 (京都国立博物館) | | B | 順調 |

| | | | | | | |
|------|---|---|---|----|--|--|
| 3113 | (奈良国立博物館、九州国立博物館) 1) 文化財修理に関する印刷物を刊行する。 (奈良国立博物館) 1) 研究紀要『鹿園雑集』を刊行し、ウェブサイトで公開する。 2) 入場無料ゾーンを利用し、調査研究活動実績をパネル等で公開する。 | 1) 研究紀要『学叢』第35号を刊行するとともに、学術研究公開の一環として既刊分を順次ウェブサイトで公開する。 2) 社寺調査報告書については南山城地域調査成果の一層の検討を深めるため、次年度に刊行することとした。 ○特別展等の図録を2巻刊行した。 【奈良国立博物館】 (奈良国立博物館、九州国立博物館) 1) 文化財修理に関する調査研究成果は、研究紀要『鹿園雑集』内に包摂する形で刊行される見込み(26年5月)。 (奈良国立博物館) 1) 研究紀要『鹿園雑集』は、25年度内に編集作業を進めた(26年5月刊行見込み)。 2) 地下回廊の入場無料ゾーンにおいて、東京文化財研究所との共同研究による仏教美術の光学調査の成果、館蔵品の修理実績等に関するパネル展示を行った(通年)。 ○展覧会等図録6冊を刊行し、その中に収蔵品の調査研究成果の一部を収録した。 | B | 順調 | | |
| | | | | | | |
| 3114 | (奈良国立博物館、九州国立博物館) 1) 文化財修理に関する印刷物を刊行する。 (九州国立博物館) 1) 研究紀要『東風西声』を刊行する。 2) 保存修復活動の成果を教育普及事業に反映させる。 | 1) 文化財修理に関する印刷物(「市民と共に ミュージアム I PM」報告書、「第5回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム」報告書)を刊行した。 (九州国立博物館) 1) 研究紀要『東風西声』第9号を刊行した。 2) 保存修復活動の成果を反映させた教育普及事業を行った。 | | | | |
| | | | | | | |

| | 定量評価 | 25年度 | 24年度 | 目標値 | 評定 |
|--|------|-------------|-----------------|-----|----|
| | | 研究誌の刊行回数(回) | 東京国立博物館(MUSEUM) | 6 | 6 |
| | | | | 6 | A |

(2) 海外研究者の招聘

【中期目標】国内外の博物館関係者及び文化財とその活用に関する専門家と積極的に学術・人物交流等を行い、国際的な博物館の拠点となることを目指すこと。

| | |
|---|--|
| 【中期計画】 (2) 文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。 | 【主な計画上の評価指標】 ○国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施すること。 ○職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関や国際会議等に派遣すること。 【24年度評価における主な指摘事項】 |
| 処理 | 年度計画 |

| 番号 | | | 年度 | 中期 |
|------|--|--|----|------|
| 3211 | <p>(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施 (4館共通)</p> <p>1) 海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。 (19人程度：東京6、京都3、奈良6、九州4)</p> <p>2) 当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。 (31人程度：東京6、京都15、奈良6、九州4)</p> <p>3) 國際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。</p> <p>(東京国立博物館)</p> <p>1) 学術交流協定を締結している博物館及び東アジア・欧米主要館を中心に、海外の博物館との交流を活発に行う。</p> <p>2) アジア国立博物館協会(ANMA)理事会、ICOM等の国際会議へ参加する。</p> | <p>(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施</p> <p>【東京国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) 韓国、中国、アメリカ、イギリス、より21名の研究者を招聘し、学術交流に寄与した。</p> <p>2) 韓国、中国、アメリカ、イギリス、スペイン、ドイツ、イタリア等に延べ41名の研究員を派遣し、学術交流及び展覧会の準備・調査を行った。</p> <p>3) 上海博物館展関連事業として同館書画部副主任研究員李維琨氏を講師として講演会を開催した。 (東京国立博物館)</p> <p>1) 韓国国立中央博物館及び中国・上海博物館、故宮博物院との学術交流協定に基づき、研究員の交流を行うとともに、海外での作品調査や国際会議出席などのため海外に研究員を派遣、調査研究及び海外館とのネットワーク構築や交流事業の推進を図った。</p> <p>2) 第4回アジア国立博物館協会(ANMA)理事会・定期大会に出席、アジア13カ国の国立博物館代表者らと交流、情報交換を行い、ネットワークを強化した。(25年10月8日～9日)</p> <p>【京都国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) 25年度実績はなし。</p> <p>2) 研究交流並びに研修のため研究員を海外へ19人派遣した。</p> <p>3) 25年度実績はなし。 (京都国立博物館)</p> <p>1) 研究交流並びに研修のため研究員を海外へ19人派遣した。そのうち国際シンポジウムへ4人を派遣した。</p> <p>2) 外国人客員研究員の招聘実績はなし。25年度は国際シンポジウムを実施しなかったため、また、ほかに招聘をする事業もなかった。</p> <p>【奈良国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) 中国・韓国の研究者計9名を招聘し、今後の共同調査や展示活動等に向けた実りある情報交換を実施した。</p> <p>2) 職員延べ8名を諸外国に派遣し、文化財に関する情報収集や現地研究者との交流を図った。</p> | A | 順調 |
| 3212 | | | B | ほぼ順調 |
| 3213 | | | A | 順調 |

| | | | | |
|--|--|--|---|----|
| | <p>(奈良国立博物館)</p> <p>1) 学術交流協定を締結している博物館を中心として、海外の博物館との交流を活発に行う。</p> <p>(九州国立博物館)</p> <p>1) 国際交流活動推進へ向けての基盤を整備するとともに学術文化交流協定を締結している海外博物館等との交流を活発に行う。</p> <p>2) 海外の文化財研究者や修理技術者を招聘し、文化財保存修復施設を活用した専門的な国際交流セミナーーやワークショップを開催する</p> | <p>3) 26年2月27日に東アジア古代青銅器に関する国際研究集会を開催し、李眞旼氏（韓国国立慶州博物館）が「韓国の青銅器時代の文化と慶州一集落遺跡を中心の一」のタイトルで口頭報告した。 (奈良国立博物館)</p> <p>1) 中国上海博物館、中国河南博物院、韓国国立慶州博物館との間で、学術交流協定に基づいて研究員等を派遣し、また招聘して、今後の共同調査や展覧会開催に向けて情報を交換した。</p> <p>【九州国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) タイ、ベトナム等、海外の博物館・美術館等の研究者を16人招聘した。</p> <p>2) 当機構職員をタイ、ベトナム等、海外の博物館・美術館等に研究交流及び文化庁主催海外展「日本文化展」等のため、87人派遣した。</p> <p>3) 国際シンポジウム「ベトナムに恋して」を開催した。(25年10月5日開催、207人参加) (九州国立博物館)</p> <p>1) 国際交流活動推進へ向けての基盤を整備し、海外博物館等との交流を実施した。(韓国国立公州博物館)</p> <p>2) 海外の文化財研究者や修理技術者を招聘し、専門的な講演を行った。(トルコ・トプカプ宮殿美術館)</p> | A | 順調 |
| | | | | |

| 定量評価 | 25年度 | 24年度 | 目標値 | 評定 |
|------------|------|------|-----|----|
| 海外研究者招聘(人) | | | | |
| 東京国立博物館 | 21 | 11 | 6 | S |
| 京都国立博物館 | 0 | 3 | 3 | F |
| 奈良国立博物館 | 9 | 7 | 6 | S |
| 九州国立博物館 | 16 | 3 | 4 | S |
| 研究員派遣(人) | | | | |
| 東京国立博物館 | 41 | 34 | 6 | S |
| 京都国立博物館 | 19 | 15 | 15 | A |
| 奈良国立博物館 | 8 | 17 | 6 | A |
| 九州国立博物館 | 87 | 60 | 4 | S |

(3) 博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施

【中期目標】国内外の文化財の保存・修理に関する人材育成に寄与すること。

【中期計画】

(3) 保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施すること。

【主な計画上の評価指標】

○研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施すること

| | | 【24年度評価における主な指摘事項】 | | |
|------|---|--|------|----|
| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 | |
| | | | 年度 | 中期 |
| 3311 | (3) 保存修理事業者への研修プログラム (4館共通) 1) 保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに、インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。 | (3) 保存修理事業者への研修プログラム 【東京国立博物館】 (4館共通) 1) 特定非営利活動法人文化財保存支援機構(NPO-JCP)が主催する専門家セミナーに当館が共催し、当館を会場として「文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルⅠ」(25年8月19日～29日の10日間)を開催した。当館は講師・プログラムの選定、及びセミナー会場・修理施設・展示施設の提供を行った。本セミナーの対象は、社会で活動している文化財保存修復専門家及び専門家を目指す学生である。内容は、国内外で活躍できる高度な能力を持つ専門家を育成するために、基礎能力の格段の向上を目指すものであり、既に現場で活躍している講師陣による実践セミナーである。受講生は全国から37名が参加した。 ・レベルⅠの応用編として「文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルⅡ 隆前高田学校」(25年7月29日～8月3日、5日の7日間)を別会場において開催し、受講生は11名であった。 ・大学生のインターンシップを8名受け入れ、当館の臨床保存と包括的保存について研修を実施した(26年3月3日～14日)。 | A | 順調 |
| 3312 | | 【京都国立博物館】 (4館共通) 1) 毎月1回文化財保存修理所内工房を当館研究員が巡回し、修理技術者に指導・助言を行った。また2ヵ月に1回修理技術者と当館との定例会議を開催した。 ・当館開催の特別展覧会において、修理技術者に対する定例の研修会(熟観)を実施した。(計3回・140人) 参加者「狩野山楽・山雪」展 55人 「遊び」展 45人 「魅惑の清朝陶磁」展 40人 ・文化財修復に関わる大学院生(4人)のインターンシップ実習(25年8月19日～9月2日・9月9日～20日)を実施し、25年11月8日に口頭による報告会を開催し(出席者50人)、報告書を作成した。 ・保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会を25年9月6日に実施した。(18人) | A | 順調 |

| | | | | |
|------|--|---|----|--|
| 3313 | 【奈良国立博物館】 (4館共通) 1) ○保存修理事業者を対象とした研修会(計6回・71人) ・文化財保存修理所技術者研修会を、1回実施した(26年1月14日)。(1回・41人) ・国内外の保存修復専門家による文化財保存修理所各工房での研修・視察を合計5回受け入れ、各工房技術者との間で情報交換を行った。(計5回・30人) ・25年10月2日：中国・敦煌研究院及び東京文化財研究所研究員による視察・研修(3人) ・25年11月11日：ドイツ・エジプト博物館のパピルス修復技術者による視察・研修(3人) ・25年11月20日：韓国伝統文化大学校 伝統文化教育担当者による視察・研修(5人) ・25年11月29日：アフガニスタン国立博物館及びウーン美術史美術館の学芸員・修理技術者による視察・研修(9人) ・26年3月7日：民族学資料の収集・保存・情報化に関する実践的研究：ロシア民族学博物館との国際共同研究 参加者による視察・研修(10人) ○一般向け講演会等 保存修理事業者と協力した研修会を文化財保存修理所彌刻室使用者所属工房の修理担当者による文化財保存修理所事業成果報告「雄勝法印神樂 神楽復興に生きた文化財修理のわざ」を、1回実施した(25年11月24日)。 | A | 順調 | |
| | | | | |
| 3314 | 【九州国立博物館】 (4館共通) 1) ・保存修理事業者を対象とした研修会として「古文書保存基礎講座」等を開催した。(計6回・139人) ・インターン8名を受け入れた。 ・保存修理事業者と協力した研修会として、短期インターンシップ「文化財保存修復研修」を行った。 ・文化財保存、I PM普及のための講座・研修を開催した。(計3回・215人) | A | 順調 | |
| | | | | |

(4) 公私立の博物館等への貸与の推進

【中期目標】国内外の博物館等の展覧事業の活性化を支援するため、収蔵品の貸与を実施すること。

【中期計画】

- (4) 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。

【主な計画上の評価指標】

- 収蔵品の保存状況に配慮した貸与を実施すること

【24年度評価における主な指摘事項】

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 | |
|------|--|--|------|----|
| | | | 年度 | 中期 |
| 3411 | (4) 収蔵品の貸与 【東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館】 (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) | (4) 収蔵品の貸与 【東京国立博物館】 (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) | A | 順調 |

| | | | | |
|------|---|--|---|----|
| | 1) 国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1) 国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。 (東京国立博物館) 1) 長崎歴史文化博物館の平常展示のため、引き続き長期貸与する。 2) 海外の美術館・博物館等で開催する展覧会へ貸与する。(海外交流出品作品を含む)。 | 1) 国内の博物館等117機関に1,086件の作品を貸与した。 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1) 下関市立考古博物館、大阪府立弥生文化博物館と協力して考古資料の相互貸借を実施した。 (東京国立博物館) 1) 長崎歴史文化博物館の平常展示のため、年度を越えた長期貸与を実施した。 2) 海外の美術館・博物館等6機関に51件の作品を貸与した。 | | |
| 3412 | (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) | 【京都国立博物館】 (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) 82機関に対し626件の収蔵品・寄託品貸与を行った。(うち海外1機関に対し3件) 収蔵品の貸与件数：353件 寄託品の貸与件数：273件 計：626件 ○本年度も継続してウェブサイトにて「貸出作品リスト」の公開を行った。 | A | 順調 |
| 3413 | (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) | 【奈良国立博物館】 (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) 収蔵品と寄託品を、国内外合わせて35の機関に、計135件貸し出した。 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1) 岩手県立博物館、平泉町(平泉文化遺産センター)の計2館との間で相互貸借事業を実施した。 | A | 順調 |
| 3414 | (九州国立博物館) | 【九州国立博物館】 (九州国立博物館) 1) 国内31機関・海外1機関に収蔵品及び寄託品を貸与した。 (機関数は延べ数。東京国立博物館からの長期管理換品を含む。文化庁・当館・ベトナム国立歴史博物館の共催になる) 平成25年度文化庁主催海外展「日本文化」展は、海外機関への貸与として計上した。) | A | 順調 |

(5) 公私立博物館等に対する援助・助言

【中期目標】全国の博物館等の運営に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努めること。

【中期計画】

- (5) 公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。

【主な計画上の評価指標】

○公私立博物館等に対する援助・助言を行うこと。

【24年度評価における主な指摘事項】

○特に、文化財レスキュー事業で立入警戒区域での搬出作業などに尽

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 | |
|------|---|--|------|----|
| | | | 年度 | 中期 |
| 3511 | (5) 公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進 (4館共通) 1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。 (東京国立博物館) 1) 新規貸与館に対する環境調査は、東京文化財研究所と協力して指導助言を行う。 | (5) 公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進 【東京国立博物館】 (4館共通) 1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、114件の援助・助言を行った。 ・文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業にて協力(16件) ・公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言(40件) ・講演会やセミナー等における講演等での協力(7件) ・作品の展示・保存環境についての調査・指導(30件) ・文化財レスキュー事業(被災文化財等救出作業支援)(5件) 東日本大震災において被災した博物館など3施設に対して、文化財保全のための救援活動を実施した。 ・博物館等の管理運営にかかる助言(16件) (東京国立博物館) 1) 新規貸与館5館に対する環境調査を実施し、東京文化財研究所と協力して指導助言を行った。 | A | 順調 |
| 3512 | 【京都国立博物館】 (4館共通) 1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、43件の援助・助言を行った。 ・文化財の展示、修理にかかる指導助言(9件) ・文化財の調査に関する指導助言(11件) ・講演会、セミナー等における講演等での協力(8件) ・地方公共団体の文化財保護審議会等会議にて協力(15件) | A | 順調 | |
| 3513 | 【奈良国立博物館】 1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対する援助・助言は、総計71件を実施した。 ・文化財の展示にかかる援助と助言(18件) ・文化財の調査、保存、修理にかかる援助と助言(11件) ・講演会やセミナー等における講演等での協力(9件) ・文化庁や地方公共団体、その他各種団体等の文化財関係事業への協力(27件) ・博物館等の運営にかかる援助と助言(6件) (奈良国立博物館) | A | 順調 | |

| | | | | |
|------|--|--|---|----|
| 3514 | <p>1) 石川県立美術館開館30周年記念「国宝 薬師寺展」(主催:国宝薬師寺展金沢開催委員会、北國新聞社・石川県立美術館、会場:石川県立美術館、会期:4月26日～6月23日)に学術協力する。</p> <p>2) 「法隆寺展(仮称)」(主催:法隆寺・読売新聞社=予定、会場:福岡市美術館・静岡市立美術館・岡崎市美術館他=予定)に向けた調査研究を行う。</p> <p>(九州国立博物館)</p> <p>1) 地域の自治体と連携し、公私立博物館・美術館等職員のための古文書保存に関する専門講座を開催する。</p> <p>2) 地域の自治体と連携し、公私立博物館・美術館等職員・ボランティアのためのIPM(総合的有害生物管理)に関する専門講座を開催する。</p> | <p>1) 石川県立美術館で開催の特別展「国宝 薬師寺展」(主催:同展実行委員会、会期:25年4月26日～6月23日)への学術協力として、同展への助言と輸送から陳列までの助力と助言を実施した。</p> <p>2) 平成26年度に開催の「法隆寺展—聖徳太子と平和への祈り」では、企画立案の段階から積極的に助言し、調査等にも同行した。</p> <p>【九州国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) 公私立博物館等で開催された研究集会及び講演会において指導・助言を行った。(64件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財の調査に係る助言(17件) ・文化財の保存修理にかかる援助、助言(18件) ・作品の展示及び運営等についての指導、助言 (26件) ・講演会、セミナー等における講演(2件) ・福島文化財レスキュー事業(福島県内被災文化財等救援事業) (1件) <p>(九州国立博物館)</p> <p>1) 「古文書保存基礎講座」を実施した。</p> <p>2) 文化財関係者及び市民等に向けての研修会「ミュージアムIPM支援者研修」基礎編・技術編・実践編を実施した。</p> | A | 順調 |
| | | | | |

4 文化財に関する調査及び研究の推進

【中期目標】我が国唯一の文化財に関する総合的な研究機関として、文化財に関する以下の調査・研究を行い、貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与すること。

(1) 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進

【中期目標】文化財の各分野に関する基礎的・体系的な調査・研究や、総合的な視点に基づく文化財の調査・手法の開発等を推進することにより、国及び地方公共団体における文化財保護施策の企画立案及び文化財の評価等に係る業務の基盤形成に寄与すること。

【中期計画】

貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与するため、以下の調査・研究を行う。

(1) 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進

- 国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究として、国内外の機関との共同研究や研究交流も含めて以下の課題に取り組み、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。
 - ①我が国の美術を中心とする有形文化財及びそれに係わる諸外国の文化財に關する調査・研究を実施する。
 - ②我が国の歴史、文化の究明及び理解の促進等を図るために、歴史資料・書跡資料等に関する調査・研究を実施する。
 - ③歴史的建造物の保存・活用の促進等を図るために、建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究を実施する。
 - ④無形文化遺産の伝承・公開の基盤の形成等を図るために、無形文化財、無形民俗文化財、文化財保存技術に関する調査・研究を実施する。
 - ⑤文化財の保存に加え、地域振興・国際的動向の観点も含めた活用の促進等を図るために、記念物に関する調査・研究を実施する。
 - ⑥古代日本の都城の解明等を図るために、平城宮跡、藤原宮跡及び飛鳥地域における宮跡その他の遺跡に関する調査・研究を実施する。
 - ⑦文化的景観の文化財としての概念の定着と保存・活用の促進等を図るために、文化的景観に関する調査・研究を実施する。
 - ⑧遺物及び遺構の保存・活用の促進等を図るために、埋蔵文化財に関する調査・研究を実施する。

【主な計画上の評価指標】(1)～(5)共通

- 中期計画に示された課題や文化財保護政策のニーズに沿って、研究の目的、テーマを適切に設定すること。
- それぞれの調査・研究を計画に沿って適切に実施すること。また、我が国の文化財保護政策上、緊急に保存修復の措置等が必要となつた場合において、必要な実践的調査研究を迅速かつ適切に実施すること。
- 調査研究の成果により我が国の文化財保護政策に寄与するとともに、学術雑誌等への論文の掲載、学会、研究会での発表、データベースの追加等により定量的観点からも調査研究の成果を確保すること。

【24年度評価における主な指摘事項】

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 | |
|------|---|-----------------------------|------|----|
| | | | 年度 | 中期 |
| | (1) 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進 国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究を推進することにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。 | (1) 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進 | | |

| | | | | |
|------|---|---|---|----|
| 4111 | <p>① 我が国の美術を中心とする有形文化財及びそれに関わる諸外国の文化財に関し、以下の課題に重点的に取り組む。</p> <p>ア 他機関との連携を図りつつ、文化財情報の公開・活用のための、より望ましい手法等の研究を行う。</p> | <p>①-ア 文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究</p> <p>昨年度一般公開を開始した「東京文化財研究所所蔵資料アーカイブズ『みづゑ』(試行版)」に11号～50号までをアップし、明治期の残り分についてのデータ処理を進めた。引き続き図版を中心とする貴重書の公開方法について検討を重ねた。また、東京文化財アーカイブズの基幹のひとつとして「東京文化財研究所刊行物アーカイブシステム」を作成した。アーカイブズを主題とする各種研究会を開催し、アーカイブズのあり方について検討した。なお、国立情報学研究所と東京文化財研究所アーカイブズ構築にかかる共同研究契約を締結した。</p> | A | 順調 |
| 4112 | <p>イ 日本を含む東アジア地域における美術の価値形成の多様性を解明するために、近年の記録媒体や分析手法等の進展に対応しながら調査研究を行い、文化財を対象とする資科学的基盤を整備、確立する。併せて、その基盤を礎しながら国内外の研究交流を推進し、成果を広く一般に公開する。</p> | <p>①-イ 文化財の資料学的研究</p> <p>(1)調査 東京文化財研究所が所蔵する明治期の書簡・手記を中心とする近代文書の判読と翻刻作業</p> <p>(2)美術史研究のためのコンテンツ形成 14世紀在銘彫刻作品のデータ入力と年表（棒目録）作成、中世絵巻詞書文字総覧のためのデータ入力</p> <p>(3)研究交流促進のための研究会の開催 梶野健造氏（福岡大学教授）の招聘・研究会発表（25年9月24日）鄭于澤氏（韓国東国大学校教授・同大学校博物館館長）の招聘・研究講演（25年10月4日）染谷香理氏（東京藝術大学大学院）の研究会発表（25年11月26日）佐藤全敏氏（信州大学准教授）の研究会発表（25年12月6日）</p> | A | 順調 |
| 4113 | <p>ウ 日本を含む東アジア諸地域における近現代美術の研究資料の収集、整理、調査研究を行うとともに、その交流を明らかにする有効な視点と調査研究方法の開発を目指す。また、多様化する我が国の現代美術の動向に関する調査研究を行い、基礎資料を作成する。</p> | <p>①-ウ 近現代美術に関する交流史的研究 東アジア諸地域の近現代美術の研究資料収集、整理として、未公刊資料である黒田清輝元書簡のデジタル画像作成を完了し、併せて黒田作品の調査も行った。東アジア美術交流の調査研究では、米国のお客による日中の彫刻概念の成立立ちについての講演を開催。我が国の現代美術の動向に関する調査研究としては、笹木繁主宰現代美術資料センター寄贈資料及び美術評論家の故鷹見明彦氏旧蔵資料の整理・調査を進めた。</p> | A | 順調 |
| 4114 | <p>エ 美術や文化財についてのより深い理解を形成するため、彫刻や絵画を中心に、その表現・技法・材料の問題に対して基礎的な情報を収集・整理・蓄積するとともに、関連諸分野と連携した多角的な調査研究を行う。</p> | <p>①-エ 美術の表現・技法・材料に関する多角的研究 本研究は美術作品が基盤としている表現・材料・技法等を作品の観察、文献資料あるいは科学的手法による分析を実施しながら解説することを目的とする。本年度は絵画・工芸作品を中心に各地で作品調査を進めるとともに、日本の平安時代絵画や展覧会を通じた日本製輸出螺鈿漆器についての検討、またこれまで本プロジェクトで行ってきた絵画や世界各地の螺鈿漆器について発表を行った他、ウェブサイト上で公開している奈良時代の資料にあらわれた彩色語彙についてデータベースの増補を実施した。また今年度よりの新規事業として、当研究所が所蔵する文化財を撮影したガラス乾板のデジタル化作業を開始した。</p> | A | 順調 |

| | | | | |
|------|--|--|---|----|
| 4121 | <p>② 日本の歴史、文化の源流等の実態を探り、それらを記録した資料の保存活用に資するために、近畿を中心とする古寺社や旧家等が所蔵してきた歴史資料・書跡資料等に関する原本調査、記録作成を悉皆的に実施するとともに、公表に向けて整理検討を行う。</p> | <p>② 近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究 奈良市教育委員会との連携研究の成果として、『大宮家文書調査報告書』を公刊した。大宮家文書は、鎌倉時代から江戸時代まで春日大社の神人だった大宮家に伝わる、中世・近世文書群であり、春日大社研究の基礎史料となり得るものである。また、唐招提寺が所蔵する資料を翻刻して『唐招提寺授戒帳』として刊行した。近世唐招提寺の授戒の実態・近世受戒僧の名を一覧できる基礎資料である。また、内山永久寺旧蔵の扁額が、宝治元年(1247)に藤原教家が筆を執った扁額であることを明らかにした。また、科学研究費補助金も充当して行った東大寺古文書調査について、科学研究費補助金の報告書を2冊公刊し、所蔵資料の目録等を公表した。</p> | A | 順調 |
| 4131 | <p>③ 我が国の文化財建造物の保存・修復・活用に関する基礎データの収集、未指定建造物の調査、古代建築の今後の保存と復原に資するための調査・研究を行い、整理が終了したものより順次公表を行うとともに、伝統的建造物群及びその保存・活用に関する調査・研究を推進し、伝統的建造物群の保存を行っている各地への協力をう。また、アジア地域における文化財建造物の保存・修復及び伝統的建造物群の保存・活用について、関係各国に対し協力をう。</p> | <p>③ 我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究 文化財建造物の保存修理に関する基礎データである所内保管資料の整理等の作業を行い、「建造物現状変更明説」については出版物として刊行・配布し、「ガラス乾板」については画像のデジタルデータ化により、一般公開を推進した。また、古代建築の技法に関する再検証作業を継続的に実施した。このほか、受託事業により、各種歴史的建造物の調査を行った。</p> | A | 順調 |
| 4141 | <p>④-1 無形文化財の伝承実態に関する基礎的な調査研究及び資料の収集、記録作成を行い、その成果の一部を公開学術講座として発表する。具体的には伝統音楽・伝統芸能で用いる楽器、能楽の文献資料、未調査の音声・映像資料の整理と古い媒体による音声・映像資料の再生及びデジタルアーカイブ化、工芸技術に関する技法書及び工芸技術記録等を対象に調査を行い、能楽及び講談等の記録作成を行う。</p> | <p>④-1 無形文化財の保存・活用に関する調査研究 古典芸能の作曲法、染織技術を支える選定保存技術について調査を行い、無形文化遺産部所蔵音声・映像資料の整理、伝承の変化の大きい伝承芸能について実演記録を作成し、楽器に関して国際会議等で発表した。</p> | A | 順調 |
| 4142 | <p>④-2 我が国の風俗慣習、民俗芸能、民俗技術等無形民俗文化財のうち、近年の変容の著しいものを中心に、現在における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等を明らかにするとともに、各地の保存団体や保護行政担当者等これら研究成果及び問題意識の共有化を図る。</p> <p>また、これまでに研究所で収集・保管している記録・資料の整理を行い、必要に応じて媒体転換等の措置を講ずる。さらに、無形文化遺産の記録やその所在情報を継続的に収集し、その情報の整理・公開に努める。</p> | <p>④-2 無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究 民俗技術や風俗慣習、民俗芸能の伝承実態、伝承組織について現地調査と資料収集を行った。特に東北の被災地域における無形民俗文化財の現状調査は昨年度に引き続き重点的に行った。また、無形民俗文化財研究協議会を開催し、無形民俗文化財の保存と活用に関する現実的課題への対応を協議した。特に今年度はこれまで研究の進んでいなかった民俗技術の分野をテーマに取り上げ、関係者間の協議やネットワーク形成を図った。その成果は報告書にまとめ、関係者及び関係機関等に配布した。</p> | A | 順調 |
| 4143 | <p>④-3 日本と関連の深いアジア諸国等との間において研究員交流や無形文化遺産関連調査を行うなど、無形文化遺産分野における研究交流事業を実施する。</p> | <p>④-3 無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集 韓国国立文化財研究所無形文化遺産研究室との交流事業において、平成23年度に調印した合意書に基づき、研究員の相互派遣を内容とする研究交流を実施した。また関係する国際会議・シンポジウム等へ参加し、海外研究者への助言や調査協力を通して、無形文化遺産分野における国際的情報収集及び情報提供を行った。</p> | A | 順調 |

| | | | | |
|--------|---|---|---|----|
| 4151 | <p>⑤ 我が国の記念物に関する調査・研究を実施する。</p> <p>ア 遺跡等の整備に関する国際的な動向も踏まえた資料の収集・調査・整理等を行うとともに、遺跡等の保存・活用に関する一的な研究を推進し、個々の状況に応じた適切な管理・整備等に資する。また、過年度開催した研究集会の成果の取りまとめ及び公表を行うとともに、遺跡等のマネジメントに関する研究集会を、計画の策定と実施をテーマとして、文化的景観に関する研究集会と合同で開催する。</p> | <p>⑤-ア 我が国の記念物に関する調査・研究（遺跡等整備）</p> <p>「計画の意義と方法」を主題として遺跡等のマネジメントに関する研究集会を開催するとともに、過年度の成果について、「パブリックな存在としての遺跡・遺産』『平成24年度遺跡等マネジメント研究集会（第2回）報告書』を刊行・配布するなど、その普及等を行った。</p> | A | 順調 |
| 4152 | <p>イ 庭園史に関する文献調査・内外での現地調査等を行い、研究会を開催するとともに、日本庭園に関する基礎的資料のデータベース化を進める。</p> <p>また、これまで取り組んで来た公開英文情報の増補改訂を行うとともに、所蔵資料の整理を進める。</p> | <p>⑤-イ 我が国の記念物に関する調査・研究（庭園）</p> <p>中世の庭園・建築・文学・美術史などの研究に取り組んでいる研究者とともに「庭園の歴史に関する研究会」を開催し、その成果を報告書としてまとめた。奈良市における庭園の悉皆的調査に取り組み、寺院庭園の調査を行った。</p> | A | 順調 |
| 4153 | <p>ウ 不動産文化財等に関する各種研究成果について、米国コロンビア大学との研究交流のもとに成果発表を行う。</p> | <p>⑤-ウ 我が国の記念物に関する調査・研究（国際研究交流）</p> <p>米国・コロンビア大学からのインターン（3名）受入の対応を行った。米国・コロンビア大学において、日本の不動産文化財に係る講演2件を実施した。</p> | A | 順調 |
| 4161-1 | <p>⑥ 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・構造等に関する調査研究及び文化財建造物に関する基礎的調査研究を実施する。</p> <p>ア 古代都城の実体解明のため、平城宮・京跡・藤原宮・京跡、及び飛鳥地域等の発掘調査を実施するとともに、古代官衙・集落遺跡に関する研究集会、古代瓦に関する研究集会を実施し、報告書を刊行する。</p> | <p>⑥-ア-1 平城宮跡第一次大極殿院の発掘調査</p> <p>礫敷広場・石敷列・幡旗の遺構等を検出し、また第一次大極殿院の大極殿院の様相解明と復原整備に活かしうる資料を得た。これらの発掘成果を記者発表・現地説明会・刊行物により、広く公開した。</p> | A | 順調 |
| 4161-2 | | <p>⑥-ア-2 平城京左京二条二坊十五坪の発掘調査</p> <p>北側の調査区では掘立柱建物を検出した。遺存する柱根の規模から大規模な建物の一部である可能性があり、また数度の建て替えがあることも判明した。これらから、平城京の宅地としては比較的大規模な建物群が存在していたことが明らかとなつた。南側の調査区では三彩瓦を含む瓦溜まりを検出した。これまで同坪では三彩瓦が出土しており、既往の調査成果と合わせて、きわめて特異な土地利用の実態が明らかとなった。</p> | A | 順調 |
| 4161-3 | | <p>⑥-ア-3 平城京右京一条二坊四坪の発掘調査</p> <p>平城京右京一条二坊四坪の学術調査。奈良文化財研究所の庁舎建て替えに伴う予備調査として、現庁舎の周辺に6箇所の調査区を設定した。このうち北方の1箇所の調査区で条坊遺構を確認し、遺構の遺存状況が比較的良好であることを確認した。南方の4箇所の調査区では、奈良時代～中世の遺物を含む沼状の堆積を確認し、奈良時代の遺構が失われていることが判明した。現庁舎を機能させたままで可能な大限の調査を行い、遺構の遺存状況を確認することができた。</p> | A | 順調 |

| | | | | |
|--------|--|--|---|----|
| 4161-4 | | <p>⑥-ア-4 古代官衙・集落遺跡等に関する研究集会の実施、報告書の刊行</p> <p>(1)第17回古代官衙・集落研究集会を開催した（25年12月13・14日）。テーマは「長舎と官衙の建物配置」である。各地の官衙遺跡における長舎建物について、考古学、建築史、文献史といった各方面から検討し、長舎の出現や展開や機能など多岐にわたる議論が活発に繰り広げられた。</p> <p>(2)昨年度実施した研究集会の報告書を『奈良文化財研究所研究報告第12冊塩の生産・流通と官衙・集落』として刊行した。</p> | A | 順調 |
| 4161-5 | | <p>⑥-ア-5 古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行</p> <p>(1)第14回古代瓦研究会シンポジウムを開催した（26年2月8・9日）。テーマは「8世紀の瓦づくりIII—平城宮式軒瓦の展開16225-6663系ー」である。シンポジウムでは、平城宮式軒瓦の主体をしめる6225-6663型式について、平城宮・京での出土状況、また各地における当該形式採用の経緯などについて多岐にわたる議論が活発に繰り広げられた。</p> <p>(2)第12回シンポジウム（平成23年度）、第13回シンポジウム（平成24年度）の成果を、『古代瓦研究VI』として刊行した。</p> | A | 順調 |
| 4161-6 | | <p>⑥-ア-6 藤原宮跡の発掘調査奈文研都城発掘調査部（藤原）</p> <p>藤原宮朝堂院朝庭東北部の発掘調査を実施した。調査の結果、朝庭の礫敷広場、排水用の礫詰暗渠、礫敷上から掘り込む柱列などを検出し、さらに朝庭の下層において、藤原宮造営期の構や大小の沼状構造を確認した。朝庭の空間利用や藤原宮の造営過程を考える上で、貴重な手がかりを得た。</p> | A | 順調 |
| 4161-7 | | <p>⑥-ア-7 飛鳥地域発掘調査奈文研都城発掘調査部（藤原）</p> <p>第177次調査では、既往の調査区とは異なる谷地を調査し、7世紀代に谷の斜面を切土・盛土し、平坦面を造成していたことが明らかとなつた。また、建物2棟、溝1条、炭溜3基、土坑群などを検出した。</p> | A | 順調 |
| 4162-1 | | <p>⑥-イ-1 平城宮・京跡の出土遺物と検出遺構の調査研究等奈文研都城発掘調査部（平城）</p> <p>本年度の発掘調査で出土した遺物や検出した遺構について、整理・分析研究、図面作成・写真撮影などの基礎作業を行い、今後の研究の基盤を整えるとともに、発掘調査の記者発表や現地説明会等に備えた。これらは平成26年度刊行予定の『奈良文化財研究所紀要2014』の報告の準備ともなる。併せて、昨年度以前の発掘調査で出土した遺物や検出した遺構についても、整理・分析・調査を継続して実施した。</p> | A | 順調 |
| 4162-2 | <p>イ 出土遺物及び遺構に関する調査、分析、復原的研究を総合的・多角的に実施し、整理が終了したものより順次公表を行う。</p> | <p>⑥-イ-2 飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等</p> <p>本年度の発掘調査により出土した木製品・金属製品・石製品・動植物遺存体・土器・土製品・瓦磚類などの整理、分析研究、及び発掘遺構の図面・写真資料の整理・作成、分析作業を実施し、成果の一部を公表した。</p> | A | 順調 |

| | | | | |
|------|---|---|---|----|
| 4163 | ウ 飛鳥時代の壁画古墳についての調査研究を行うとともに、東アジアにおける工芸美術史・考古学研究の一環として、出土遺物を中心とした資料の調査を実施する。また、飛鳥時代木造建築遺物の研究として、山田寺等の飛鳥・藤原京跡内寺院の出土部材の研究を行う。 | ⑥ーウ 東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究 (1)キトラ古墳・高松塚古墳壁画に関する研究を継続した。 (2)飛鳥寺塔心礎出土品の再整理を継続した。 (3)川原寺裏山出土塑像の再整理を実施した。 (4)日光男体山頂出土鏡の分析を実施した。 (5)山田寺出土部材の計測調査を継続した。 | A | 順調 |
| 4164 | エ アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡及び陶磁器に関する調査研究並びに研究協力について、日本の古代都城及び北魏洛陽城等に関する中国社会科学院考古研究所との共同研究、中国の生産遺跡（陶磁器窯跡及び生産品）に関する河南省文物考古研究所との共同研究、遼西地域の都城に関する遼寧省文物考古研究所との共同研究、日韓古代文化の形成と発展過程に関する韓国国立文化財研究所との共同研究、中央アジア地域出土資料に関するカザフスタン・カザフ国立大学への研究協力及び中国盡井遺跡出土品に関する河南省文物考古研究所への研究協力を協定に基づいて実施する。また、整理が終了したものより順次公表を行う。 | ⑥ーエ アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力 (1)北魏洛陽城宮城における共同発掘調査の遺物整理作業、渤海・遼金代都城遺跡の踏査を実施した。 (2)三官宮子遺跡の踏査を実施。金嶺寺遺跡出土瓦・大板宮子遺跡出土鉄製品・銅製品の調査を実施した。 (3)唐三彩関連資料の調査を実施した。 (4)日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究、発掘調査交流を実施し (5)カザフスタン関係資料の収集を実施した。 (6)報告書原稿を河南省文物考古研究所に納品した。 | A | 順調 |
| 4171 | ⑦ 文化的景観及びその保護に関する基礎的・応用的な調査研究を推進するとともに、諸外国との比較のもとに、我が国の文化的景観保護に関する情報の収集・検討等を行う。また、過年度開催した研究集会の成果の取りまとめ及び公表を行うとともに、これまでの成果を踏まえつつ、文化的景観の学術及び保護に資する検討会を主催し、文化的景観の概念及び調査・計画手法等の体系化を取り組む。なお、例年開催の研究集会については、計画の策定と実施をテーマとして、遺跡等のマネジメントに関する研究集会と合同で開催する。 | ⑦ 文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究 文化的景観及びその保存・活用に関する調査・研究の一環として、「文化的景観学」検討会を開催したほか、現地調査等を行い、論文等を通じて成果を報告した。また、『World Heritage Papers 26』の翻訳作業等を進めた。 | A | 順調 |
| 4181 | ⑧ 我が国の埋蔵文化財及びその保存・活用に関して、以下の調査・研究を実施する。 ア 全国の遺跡に関する資料収集及び分析に有効な指標や手法についての研究を進め、その成果をデータベース化して順次公開する。 | ⑧ア 遺跡データベースの作成と公開 官衙関係遺跡の建物データについては、特に古代における長舎遺構を重点的に収集し、宮都や居宅・集落まで範囲を広げて全国的に網羅する『長舎遺構資料集成』を作成した。また、寺院遺跡の属性分析をふまえたデータベースを、九州から中部地方まで公開した。さらに、井戸のデータベースの対象を古代の遺跡全般に拡充して資料収集を行った。 | A | 順調 |
| 4182 | イ 出土遺物等の材質構造調査を行い、劣化状態に関する基礎データを集積する。また、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査を実施し、埋蔵中に生じる遺物の劣化現象に関して、環境が及ぼす影響の基礎データを集積する。 | ⑧イ一 出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査 (1)鉱物の標準試料のラマンスペクトルを集積するとともに、顔料やガラス、石製造物のラマンスペクトルを取得した。 (2)遺跡から出土したトンボ玉のX線C R撮影及びX線C T撮影を実施することにより、製作技法を明らかにした。 | A | 順調 |

| | | | | |
|------|---|---|---|----|
| 4183 | ウ 平城宮跡等をフィールドとして、遺構における水分移動及び溶質移動に関する計測と数値解析を行い、遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集する。 | (3)木造建造物の塗装の彩色調査を行い、使用された色料について明らかにした。 (4)金属製造出土遺跡の埋蔵環境調査を実施し、埋蔵環境が金属製品の腐食に与える影響の解明に取り組んだ。 (5)「文化財の収蔵・展示環境」をテーマとした研究集会を開催した。 ⑧ーウ 遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集 土質遺構の露出展示を実施予定の平城宮跡遺構展示館を調査フィールドとして、遺構土壤における熱・水分同時移動解析を行い、遺構土壤の適切な含水状態を維持し塩析出を抑制するための環境条件、及び保護施設としての覆屋の仕様について検討した。ベトナムのタンロン皇城遺跡では遺構土壤の熱・水分移動特性に関する試験を行い、現地で実測調査を行った外界気象条件に基づき、埋め戻し保存法について検討した。ガランドヤ古墳では石室周辺の熱・水分同時移動解析を行い、石室内石材表面での結露発生を抑制するための手法として、石室内空気への熱源の使用、及び石室外の地盤を断湿材で覆うことの有効性を検討した。また、元町石仏では塩析出を抑制する手法を検討するため、最も重要な物性値である石材の透水性状について試験を行うとともに、磨崖仏表面への石材基質強化剤及び撥水剤使用の良否について検討した。 | A | 順調 |
|------|---|---|---|----|

(2) 文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進

【中期目標】文化財の研究に関する調査手法の拡充と新たな技術開発を推進すること。

【中期計画】

(2) 文化財の研究に関する新たな調査手法の研究・開発の推進

文化財の調査手法に関する研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。

①文化財の現状及び経年変化等の記録や解析に応用するため、デジタル画像の形成方法等について研究・開発を実施する。

②遺跡調査の質的向上及び作業の効率化等を図るため、遺跡の調査手法に関する研究・開発を実施する。

③木造文化財の年代及び産地の特定等を図るため、年輪年代の調査手法に関する研究・開発を実施する。

④過去の生業活動の解明等を図るため、動植物遺存体等の調査手法に関する研究・開発を実施する。

【主な計画上の評価指標】

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 | |
|------|--|-----------------------------|------|----|
| | | | 年度 | 中期 |
| | (2) 文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進 文化財の調査手法に関する研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。 | (2) 文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進 | | |

| | | | | |
|------|---|--|---|----|
| 4211 | ① 高精細デジタル撮影により、文化財が本来有する多様な情報を目的に応じて正確・詳細に視覚化とともに、その公開を目指して、調査・研究を行う。 | ① 文化財デジタル画像形成に関する調査研究 脆弱な材料で構成されている我が国の貴重な文化財に対して最先端の光学調査を行うことによって得られた高精細画像や特殊撮影画像を分析研究し、さらにその公開による広範な利用を目指して、本年度は宮内庁三の丸尚蔵館との共同調査研究として春日権現記絵、奈良国立博物館との共同調査研究として国宝當麻裏板曼荼羅（當麻寺所蔵）他の調査・撮影を実施した。この他、経年変化で判読不能となったジアゾ式湿式青焼コピーの撮影による復元研究を継続して行った。 | A | 順調 |
| 4221 | ② 埋蔵文化財の調査における新たな手法の開発・導入と応用に関する研究を行う。特に、情報取得手段としての遺跡探査と遺構・遺物の計測、それらの成果を公開・活用する方法について重点的に研究を進める。 | ② 文化財の測量・探査等に関する研究 (1)三次元レーザースキャナーによる遺構・遺物計測の精緻化と迅速化を検討し、実用化を達成した。 (2)簡便で廉価な写真計測法を導入して試験を行い、実用化への見通しを確立した。 (3)アレイ式地中レーダー探査を導入し、探査試験を実施した。 (4)磁気探査機器の計測の高速化及び多プローブによる同時測定の試験を行い、必要な機器の開発を進めた。 (5)各地の依頼により、計測及び探査を実施した。 | A | 順調 |
| 4231 | ③ 出土遺物、建造物、美術工芸品等の木造文化財の年輪年代調査を実施し、考古学、建築史学、美術史学、歴史学等の研究に資する。とりわけ、奈良文化財研究所で開発、実用化したマイクロフォーカスX線CTを用いた調査手法は貴重な文化財の非破壊調査に有効であるため、調査対象の拡充と活用を図り、これらの研究成果を公表する。 | ③ 年輪年代学研究 6都府県下10遺跡の出土木製遺物、4県下4棟の木造建造物、2ヵ国7府県下10件の木造美術工芸品、3県下3件の自然木について、年輪年代調査と樹種同定調査を実施した。このうち、1件の出土木製遺物及び1件の美術工芸品に対してマイクロフォーカスX線CT装置による調査を実施したほか、木製ではない3件の出土遺物の内部構造把握のため、同装置による非破壊検査を行った。また、これらの調査・研究成果の一部を論文等、学会等発表において公表した。 | A | 順調 |
| 4241 | ④ 動植物遺存体による環境考古学的研究を継続的に実施する。また、各種計測機器、マイクロスコープを活用して出土骨に残る加工痕の観察方法を確立し、骨角器製作技術や動物解体技術の研究を推進する。さらに、これまで国内の遺跡で開発してきた微細遺物選別法の実践を行い、東アジア、環太平洋世界の中での農耕・牧畜の起源や動植物利用に関する比較研究を行う。 | ④ 動植物遺存体による環境考古学的研究 震災復興事業に伴う発掘調査に対する支援を行うとともに、幅広い時代の動植物遺存体の分析を進め、その研究成果を国内外の学会や研究会において発表した。また、学会、大学、博物館等での発表・講演のほか、環境考古学に関わる展示にも協力するなどの社会貢献を行った。研究の基礎となる標本を継続的に収集・作製した。 | A | 順調 |

(3) 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進

【中期目標】最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査・研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査・研究を通じて、文化財の保存・修復に係る技術・技法や材料の開発・評価等を推進し、文化財の保存や修復の質的向上に寄与すること。

| 【中期計画】 | 【主な計画上の評価指標】 |
|---|--------------|
| (3) 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進 最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する以下の調査・研究に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与すること。 | |

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 | |
|------|--|--|------|----|
| | | | 年度 | 中期 |
| 4311 | (3) 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進 最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査・研究としての課題に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。 ① 被災文化財等の保管現場を含め、博物館、美術館、図書館、寺社等の文化財のカビの予防、対策が現場でシステムティックに行えるよう、方法論の整理・確立を目指す。また、屋外など環境管理が難しい場所での制御方法についても検討を行う。 | (3) 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進 ① 文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究 (1)本年度は津波被災民俗資料や写真等の微生物被害についての調査研究を行った。津波被災文化財に発生した微生物は共通して高い塩耐性があることを確認し、淡水などの淡水の被災より微生物被害が起きにくい傾向にはあるが、速やかな応急処置が必要であることを報告した。 (2)環境制御が難しい屋外の装飾古墳などにおいて、浮遊・付着微生物制御のためのモニタリングや除菌清掃の機会を活用し、最適な微生物対策についての検討を行った。 | A | 順調 |
| 4321 | ② 保存環境を考慮した文化財の展示・収蔵施設の省エネ化の研究及び環境データやシミュレーション技術を用いた文化財の保存環境改善のための研究を推進する。 | ② 文化財の保存環境の研究 本年度は主に気流解析と温湿度測定の比較を行い、気流解析の有効性を評価した。また、熱・換気回路網シミュレーションにより、改修工事が温湿度環境に与える影響について評価した。また、展示ケース建築材料のうち、コーティング剤について、放散速度を実測した。これまでに得られた内装材料の結果と合わせて、望ましい形の実験用の実大展示ケースを試作し、実スケールでの試験と評価を行うための準備を整えた。 | A | 順調 |
| 4331 | ③ 文化財の材質分析及び劣化診断を目的とした計測手法に関する調査研究を進める。 ア 小型可搬型機器の改良を行い、無機及び有機質彩色材料に対する分析精度の向上を目指すとともに、彩色文化財等のその場分析への適用を進める。 | ③-ア 文化財の材質及び劣化調査法に関する研究 基礎的研究として、小型可搬型機器によるその場分析の適用性向上を目的に機器や治具の改良等を行い、分析対象とする文化財の適用範囲の拡大を図った。また、応用 | A | 順調 |

| | | | | |
|------|---|--|---|----|
| 4332 | イ ミリ波イメージング及びテラヘルツ分光イメージングにより文化財を対象とした測定に必要となるデータを収集するための基礎実験を行う。さらに、文化財に用いられている材料のテラヘルツ分光スペクトルの収集を行う。 | 的研究として、平安～江戸期の日本絵画の彩色材料調査、及び工芸品等の材質調査を積極的に進め、データの解析と蓄積を図った。さらに、これまでに小型可搬型機器を用いて実施した光学調査の成果をまとめ、調査報告書を刊行した。 ③-イ ミリ波イメージングにかかる基礎実験及び装置の改良等 サブミリ波イメージングにより、絹本着色の掛軸の層構造に関する非破壊調査を行った。フレスコ画試験体の層構造の検出に関する核磁気共鳴法とテラヘルツ分光イメージングの比較研究を行った。 | A | 順調 |
| 4341 | ④ 石造・木質文化財を対象に、周辺環境等の劣化要因の究明及び修復材料・技術に関する研究を行う。また、石造文化財及び美術工芸品の災害対策に関する基礎的調査を行う。さらに、被災文化財に関して、被災状況に合わせた保存・修復方法の研究を行う。 | ④-1 周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究 石造文化財や木造建造物など屋外にある文化財について周辺環境計測を行った。また、その結果に基づく劣化要因の解明、周辺環境影響の軽減手法及び修復材料・技法の開発・評価を行った。詳細には、(1)磨崖仏の保存環境制御に関する現地試験及び石造文化財劣化と周辺環境影響に関する調査、(2)積雪寒冷地における木造建造物の保存環境に関する調査を実施した。 | A | 順調 |
| 4342 | | ④-2 文化財の防災計画に関する研究 平成25年度は、(1)東日本大震災被災文化財に関する研究では、福島県の要請に応じて旧警戒区域内での文化財救援活動を継続し、新たに福島県被災文化財等救援事業の実施を実現した。宮城県では、同県被災文化財等保全連絡会議との連携を図りつつ、救援文化財一時保管場所について温湿度・生物環境に関する調査を実施した。また、津波水損文化財を対象に修復方法に関する実験研究を行った。(2)文化財の地震対策に関する研究では、東大寺戒壇堂建物の常時微動調査、石造文化財について石造多層塔の現地調査や石灯籠の振動台実験を行った。 | A | 順調 |
| 4343 | | ④-3 文化財の放射線対策に関する研究 平成25年度は、(1)放射線量の測定方法、環境評価等に関する研究では、ワーキンググループ会議を3回開催し、放射線被害に関する危機管理マニュアル案を作成した。(2)汚染状態の現状把握と除染方法等に関する研究では、福島県で現地調査を開催するとともに、ワーキンググループ会議を開催して、文化財の除染に関する基本的な考え方をまとめた。これらの結果に関して、プロジェクトチーム会議及び研究会で議論を行い、文化財を放射線から防御するための対策に関する基本的な考え方をまとめた。 | A | 順調 |
| 4351 | ⑤ 文化財の真正性を考慮した修復に寄与するために、伝統的修復技術及び材料の調査・分析を行う。また、これまで使用されてきた修復材料の追跡調査を行うことにより、それらの評価を行う。さらに、修復に今後使用されることが想定される材料について、それを文化財に適切に使用するための調査・研究を行う。 | ⑤-1 文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究 本年度は中期計画の3年目にあたり、伝統的な文化財建造物の塗装材料である漆塗装や乾性油塗料などの過去の塗装修理に関する基礎資料の蓄積を図るとともに、その実績を塗装修理作業の実践的な施工指導に役立てた。また、これまであまり注目されてこなかった欄間木彫等の凹凸がある部材の塗装彩色の劣化メカニズムの解明や伝統技術及び材料の調査、現状維持修理方法の策定、復元レプリカの作成を伴う資料活用方法の模索などの調査研究にも着手した。合成樹脂に関する調査では、過去使用し | A | 順調 |

| | | | | |
|------|---|---|---|----|
| 4352 | | た建造物塗装のうちで合成樹脂を使用した際の劣化状態の調査と、伝統素材である膠材料を強化するため、合成樹脂とブレンドした際の塗膜の状態を理解するための基礎実験を継続した。また、第7回文化財における伝統技術及び材料に関する研究会を開催した。 ⑤-2 文化財修復材料の適用に関する調査研究 絵画修復材料に関する化学分析、クリーニング方法の検討実験を行った。建造物修理材料の現地曝露試験とその評価を開始した。工芸品の調査としてベトナム漆の現地調査を行った。 | A | 順調 |
| 4361 | ⑥ 近代文化遺産の特徴であるレンガ・コンクリート・各種金属・各種合成樹脂・各種繊維等の多種多様な材料の劣化状況や保存手法に関する調査・研究を行う。写真や図面等紙資料類等の保存修復に関する研究を進める。史跡の構成要素となっている建造物や構造物の保存理念や活用手法に関する研究を進める。ドイツ技術博物館との共同研究及び欧米あるいは東南アジアでの保存や修復事例調査を行う。 | ⑥近代の文化遺産の保存修復に関する研究 (1)服飾品：明治維新以降急速に普及した洋服、建築物や列車（御料車など）の室内装飾に使用された製地などの保存と修復及び活用に関して、また、それまで服飾には使用されてこなかった材料を使った服飾品の保存手法等に関する関係者を招き、研究会を開催し、美術的位置づけや技術的問題点に関する保存と修復手法について、発表、討論を行い、保存や修復に関する理解を深めることができた。 (2)屋外展示物：屋外展示されている大型構造物、鉄道車両や航空機などの文化財の防錆対策のため、試験片を使った屋外暴露試験にて、塗装仕様と劣化速度の相関についても調査した。 (3)建造物・構造物：佐渡金銀山遺跡、長崎県端島（軍艦島）、山口県萩市や静岡県伊豆の国市の反射炉など、史跡指定地に建つ建造物や構造物の保存や修復に関する研究を行った。 (4)報告書：昨年度の研究会をまとめた報告書を刊行した。 | A | 順調 |

(4) 国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施

【中期目標】 国や地方公共団体の要請に応じて、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急性の高い文化財の保存・修復に係る実践的な調査・研究を実施すること。

【中期計画】 【主な計画上の評価指標】

- (4) 高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 | |
|------|---|------|------|----|
| | | | 年度 | 中期 |
| | (4) 高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。 | (4) | | |

| | | | | |
|------|---|--|---|----|
| 4411 | ① 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。 | ①-1 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力 高松塚古墳壁画については、壁画表面のクリーニングを継続実施するとともに、微生物による彩色の汚損被害について、効果が期待される酵素群の利用に関する研究を継続して進めた。キトラ古墳壁画については、墓室壁面から取り外した壁画の再構成作業実施にあたり、裏打ち材料の選定、強度の評価等に関する研究を行った。25年9月の古墳設置作業（埋め戻し）までの間、石室・小前室などの温湿度の計測、古墳周辺の気象観測を実施した。両古墳壁画に用いられている材料に関して、各種機器による分析調査とマクロ撮影による状態調査を行った。 | A | 順調 |
| 4412 | | ①-2 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力 文化庁が進める国宝高松塚古墳壁画の保存・活用に関する事業が円滑かつ適正に遂行するよう協力した。キトラ古墳では、史跡整備にむけて、墓道部の最終的な考古学的調査や記録作業を実施した。また、古墳の保存・活用、整備の方向性を検討するにあたり、技術的な支援・協力を行った。 | A | 順調 |
| 4421 | ② 国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。 | ②国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存・活用に関する技術的協力 本年度は檜隈寺の塔の南北軸線上にあたる位置（A区）と回廊東南隅（B区）の調査区を設定した。A区では古代の建物や溝、B区でも中世と思われる建物を検出した。 | A | 順調 |
| 4431 | ③ 農林水産省が行う大和紀伊平野土地改良事業大和平野県営飛鳥工区2号幹線の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。 | ③農林水産省が行う大和紀伊平野土地改良事業大和平野県営飛鳥工区2号幹線の調査及び保存活用に関する技術的協力 大和平野支線水路等改修工事に伴う発掘調査で、対象地は藤原京右京七条一坊および藤原宮外周帯（橿原市上飛驒町）にあたる。調査区は、幅約1.5m（一部2.4m）、南北約110mで、調査面積は182 m ² である。その結果、古代の素掘溝を検出し、記録した。 | A | 順調 |

(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

| 【中期目標】有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等に必要な調査・研究を計画的に実施すること。 | | 【主な計画上の評価指標】 |
|--|--|--------------|
| 【中期計画】 (5) 有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究 有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究を実施し、その保存と活用を推進することにより、次世代への継承及び我が国文化の向上に寄与する。 ①適切な作品の収集・修理計画を立て、分かりやすい効果的な展示など、有形文化財の保存と活用を促進するため、所蔵品・寄託品の基礎的かつ総合的な調査を行う。 ②日本の文化財及び日本の文化に影響を与えたアジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究を行う。 ③平安時代から江戸時代までの京都文化を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究を行う。 | | |

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 | |
|--------|--|---|------|----|
| | | | 年度 | 中期 |
| 4511-1 | (5) 有形文化財の保存と活用を推進し、次世代に継承して、我が国文化の向上に資するため、その収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究を進める。 ① 収藏品・寄託品等の基礎的かつ総合的な調査・研究 (東京国立博物館) 1) 収藏品・寄託品及び関連品に関する調査研究を行う。 | (5) ① 収藏品・寄託品等の基礎的かつ総合的な調査・研究 【東京国立博物館】 1) 収藏品・寄託品及び関連品に関する調査研究 収藏品・寄託品・それらの関連品及び今後・収集・展示の対象となりうる文化財と、それらに関連する資料等について、美術史学・歴史学・考古学・博物館学等の多様な見地から調査研究を行い、その成果を学会・研究会・学術雑誌・書籍等に発表・公開した。 | | |
| | 2) 特別調査法隆寺献納宝物（第35次）「金工品」第1回を行う。 | 2) 特別調査法隆寺献納宝物（第35次）「金工品」 国宝 水滴1合・墨台1基・匙3本（法隆寺献納宝物）についての実見調査を実施した。 | A | 順調 |
| | 3) 特別調査「書跡」第11回を行う。 | 3) 特別調査「書跡」（第11回） 当館で所蔵・収集した書跡分野に属する古筆切と文化庁所蔵の書跡・典籍 計56点について、作品の名称、古筆切としての通称、制作年代、形状、界線について確認した。断簡は原典推定をし、可能な限り『国歌大觀』の収載番号との照合を行った。合わせて原装丁の推測、使用された料紙の紙質分析の検討も合わせて行った。今回の調査対象について記載文字を可能な限り解説し書誌情報を収集した。また対象全件について法量を計測した。なお、本年度はスケジュールの都合により調査会場が狭隘であつたため、高精細画像の撮影は実施しなかった。 | A | 順調 |
| 4511-4 | 4) 特別調査「工芸」第5回を行う。 | 4) 特別調査「工芸」第5回 東京国立博物館の金工・漆工の列品について、最新の研究結果を反映させた知見を共有することができた。金工調査では、対象列品の用途を探る手掛かりや制作年代について議論を深め、制作当初の用途や組み合わせに関する新たな可能性も指摘され、今後の検討方針が明確になった。漆工調査では、香道具の中でも不定形な様相を示す香笛筒をとりあげ、香道具の融通無碍なあり方について認識を深めた。また同時に、香道具に用いられた加飾技法や材料の多様性が浮かび上がる結果となつた。 | A | 順調 |
| 4511-5 | 5) 特別調査「彫刻」第3回を行う。 | 5) 特別調査「彫刻」第3回 建仁寺西来院の調査において蘭溪道隆坐像の制作年代、作者が判明、像内に鎌倉時 | A | 順調 |

| | | | |
|---------|------------------------------------|--|------|
| | | | |
| 4511-6 | 6) 特別調査 屏風の箔地についての光学的調査研究を行う。 | 代と推定できる肖像彫刻の頭部前面を発見した。 六道珍皇寺の小野篁・冥官・獄卒立像の調査において制作年代と作者が判明した。 当館東洋彫刻の調査において時代不詳とされていた作品を北齊時代・6世紀の作と判定した。 | |
| 4511-7 | 7) 油彩画の材料・技法に関する共同調査を継続して行う。 | 6) 特別調査 屏風の箔地についての光学的調査研究 国宝「花下遊楽図屏風」の幔幕や衣装について蛍光X線分析による絵具調査を行い、これまで行ってきた箔地調査の結果を踏まえて検討した。蛍光X線分析により、現在茶色に見える部分や黒い部分に銀が使われていることを確認し、それにより江戸時代初期の狩野派作品が金から銀への嗜好へと変わる可能性を検討した。 | A 順調 |
| 4511-8 | 8) 漆塗籠棺残片の保存に関する共同研究を行う。 | 7) 油彩画の材料・技法に関する共同調査 平成20年11月から開始した本調査は、3年間の調査期間の締結を更新し、さらなる調査を進めている。本年度調査が終了した作品は、9点である。 | A 順調 |
| 4511-9 | 9) 東京国立博物館所蔵仏教絵画の高精細画像による共同調査を行う。 | 8) 漆塗籠棺残片の保存に関する共同研究 ・漆塗籠棺残片の保管履歴を整理し、現状を確認した。 ・理化学的調査分析の計画を策定した。 ・断片の乾燥処置方法について検討した。 | A 順調 |
| 4511-10 | 10) 板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究を行う。 | 9) 東京国立博物館所蔵仏教絵画の高精細画像による共同調査 平成24年度に高精細デジタル画像撮影を行った国宝「千手観音像 A-10506」について東博・東文研両機関研究員による検討会を開催し、撮影画像をもとに「千手観音像」に用いられた技法を詳細に観察・検討した結果、截金上にさらに彩色が加えられているとみられるうことなど、從来認識されてこなかった細部の技巧についての知見を深めることができ、今後の平安仏画の美的表現の研究・公開に資するに足る重要な資料を得た。また、来年度も継続的に調査と検討を行うために国宝「普賢菩薩像 A-1」の高精細デジタル画像撮影を行った。 | S 達成 |
| 4511-11 | 11) 中世聖徳太子絵伝の図像展開に関する調査研究を行う。 | 10) 板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究（科学研究費補助金） 伝来資料について、2,791点(5,012カット)の撮影を終了とともに、並行して下絵と関連する原品作品の確認など知見の整理、絵画資料の調査、古文書の翻刻を行った。また、スタッフによる研究会を開いたのに加え、本年度は資料中に下絵類の見出された新潟県浦佐鬼沙門堂(普光寺)山門の障壁画調査(25年8月28・29日)及び撮影を行った。 | A 順調 |
| 4511-12 | 12) 光学的調査に基づく高雄曼荼羅の研究を行う。 | 11) 中世聖徳太子絵伝の図像展開に関する調査研究(科学研究費補助金) 聖徳太子絵伝は現在40件ほどが知られており、それらは想定される享受環境の違いによって画面形式や図様・画面構成に違いがあり、制作集団の違いも想定されている。各々の作品群の詳細な分析と、他の関連作品との比較検討を行なうため、館蔵品、寄託品、及び館外作品の調査研究を進めた。あわせて、太子絵伝と密に関わる中世太子伝諸本から各年代の事蹟を比較参照できるよう、データ化を行った。 12) 光学的調査に基づく高雄曼荼羅の研究(科学研究費補助金) 昨年度までに撮影した高雄曼荼羅の画像合成等作業を完了した。高雄曼荼羅の表 | A 順調 |

| | | | |
|---------|---|---|--------|
| | | | |
| 4511-13 | 13) 古筆切紙背の史料学的研究を行う。 | 現・技法を考えるために、その製作と同時期の作品が残る中国山西省の五台山の寺院の調査及び韓国の密教美術の調査を実施した。 | |
| 4511-14 | 14) 家型埴輪の群構成と階層性からみた東アジアにおける古墳葬送儀礼に関する基礎的研究を行う。 | 13) 古筆切紙背の史料学的研究（学術研究助成基金助成金） ・平成23年度・24年度に蓄積したデータ等をもとに、古筆切紙背の伝存状況や特質について考察を行った。 ・当館で長期借用している古筆手鑑2件(3帖)と京都国立博物館所蔵の手鑑1件(1帖)について高精細画像の撮影を行い、データを蓄積した。 | A 順調 |
| 4511-15 | 15) 絵巻の〈伝来〉をめぐる総合的研究を行う。 | 14) 「家型埴輪の群構成と階層性からみた東アジアにおける古墳葬送儀礼に関する基礎的研究」(学術研究助成基金助成金) 科学研究費補助金C・B(2000~2002・2005~2007年度)による調査・研究成果に基づき、研究会を開催し、各地の主要古墳出土埴輪群の分析結果を検討すると共に、古代窯業生産体制に関する先行研究の分析・検討を行った。また、本年度は主に韓国・大邱市で嶺南文化財研究院と共同研究会を実施し、韓国・国立中央博物館所蔵家形土器の調査を実施した。 | B ほぼ順調 |
| 4511-16 | 16) 東京藝術大学付属図書館所蔵後藤家文書の研究を行う。 | 15) 絵巻の〈伝来〉をめぐる総合的研究(科学研究費補助金) 本年度前年度に引き続き、絵巻の伝来、鑑賞歴といった情報を収集するため、古代中世の文献資料に記載された絵巻関係資料の抜き出しとデータ化を進めた。また、東京国立博物館所蔵絵巻模本の調査を進め、主に近世に制作された模本から作品所蔵情報を得る基盤を整えた。同時に、近代における作品の移動等に関する情報を収集するため、東京文化財研究所所蔵の売立目録の調査を開始し、そこに記載された情報のデータ化を進めた。 | A 順調 |
| 4511-17 | 17) 近現代における古日本染織の移動とコレクション形成に関する基礎的研究を行う。 | 16) 刀装具一派後藤家の鑑定 帰帳(鑑定控)の整理に基づく鑑定の様相と価値付けの考察(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金) 本年度は前年度に引き続き、後藤家文書の撮影を行った。また、翻刻作業を継続し、権帳の理解を深めた。 | A ほぼ順調 |
| 4511-18 | 18) 寄贈品に見る草創期の博物館におけるコレクション形成と美術品の移動に関する研究を行う。 | 17) 近現代における古日本染織の移動とコレクション形成に関する基礎的研究(科学研究費補助金) 本年度は、伝統的な日本染織の技法や制作工程などを調査し、本研究における調査研究のための資料を収集した。また、ニューヨーク・メトロポリタン美術館で開催された東洋染織の展覧会、ブルックリン美術館に所蔵される東洋染織コレクション、フランス・パリ個人宅の東洋染織コレクション、リヨン染織美術館に所蔵される日本染織コレクションを調査した。本年度は特に、大正期、昭和初期にかけて国外で蒐集された古日本染織コレクションのデータを集積し、その傾向等の分析を行った。 | A 順調 |
| | | 18) 寄贈品に見る草創期の博物館におけるコレクション形成と美術品の移動(学術研究助成基金助成金) 東京国立博物館の収蔵品のうち、寄贈品、もしくは寄贈品の可能性があるものについて抽出し、エクセルデータを整理した。館史資料の調査により、寄贈に関する情報が収集された。 | B 順調 |

| | | | | |
|---------|---|--|---|------|
| | | | | |
| 4511-19 | 19) 武家女性の衣生活に関する基礎的研究を行う。 | また、寄贈者情報の整理により、研究対象としている博物館創設から明治 19 年にかけての寄贈者のうち昨年度調査にて判明していた 292 名の生没年・職業等の事項の更新と、今年度新たに判明した 713 名の生没年・職業等の事項をすべてではないが判明させることができた。 | A | ほぼ順調 |
| 4511-20 | 20) 縄文時代における浅鉢形土器の研究を行う。 | 19) 武家女性の衣生活に関する基礎的研究(学術研究助成基金助成金) 本年度は、昨年度来進めてきた大名家文書のデータベースの作成を引き続き行うとともに、大名家文書の収集・翻刻を行った。また武家伝来の染織品の実物調査を行い、最終年度の史料と実物資料との分析・考察に備えた。さらに関連資料として公家伝来の染織品関連文書の調査・収集を行った。 | B | ほぼ順調 |
| 4511-21 | 21) 創立 150 年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究を行う。 | 20) 縄文時代における浅鉢形土器の研究(学術研究助成基金助成金) 本年度は文献の悉皆調査(発掘調査報告書等)による、遺跡出土の浅鉢のデータベース化と資料調査(実見・計測・観察など)を実施した。 21) 創立 150 年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査 ・館内各所から収集した、館史関係の文書記録・刊行物類を整理して目録を作成し、今後の館史編纂の利用に供することができるようとした。 ・創立 100 年時に収集され、一部の情報が付与されていた文書記録類について、詳細な目録を作成した。 | A | 順調 |
| 4511-22 | 22) 東日本大震災による被災文化財の保存修復と文化財の防災に関する研究を行う。 | 22) 東日本大震災による被災文化財の保存修復と文化財の防災に関する研究 環境に関しては①環境の計測、②計測結果の評価、③評価に基づく改善による環境改善の方策を確立した。安定化処理に関しては被災した全ての資料は脱塩、殺菌、除菌のための脱塩処理が必要であることが判明した。本格修理に関しては修理後の状態の推移を観察できる方法論が必要であることが明確になった。 | A | 順調 |
| 4511-23 | | 23) 博物館における国際的な資料流通を素材とした明治期の文化交流史に関する基礎的研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金) 初年度の研究対象であるドイツに関して、ベルリンとライプツィヒにおいて文化財の交換先や寄贈元における資料の調査を行った。 また、同館との交流のきっかけである 1873 年ウィーン万国博覧会に関する調査の必要性から、ウィーンにおいて関連文書や関連文化財を調査した。 これらに関連して、研究遂行のための海外諸機関の担当者との協力体制を構築した。館史資料のデジタル撮影にも着手し、軽読も進めた。 | A | 順調 |
| 4511-24 | | 24) 中世から近代における日本絵画の受容環境の復元的考察(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金) 東京国立博物館展示室における既存照明具を用いた主に照明環境に関する展示環境の現状を把握するため、各展示室の諸データを計測、収集した。合わせて現状における種々の先進照明器具の仕様を精査し、照明実験を通して文化財への影響等を調査した。それらの実験、調査結果をもとに、絵画の制作当時の状況を復元的に考慮しながら、有機 EL 照明を用いた展示を実施した。 | A | 順調 |

| | | | | |
|---------|--|--|---|----|
| | | | | |
| 4511-25 | | 25) 模写資料における書の受容・鑑賞に関する基礎的研究(学術研究助成基金助成金) 本年度はまず東京国立博物館が所蔵する模写資料の調査と撮影を実施した。その画像を東京国立博物館の画像情報システムへ登録を行うとともに、前年度撮影して未登録だった「平家納経(模本)」575 点の画像登録をした。他館や各地所蔵者への調査も実施し、聞き取り調査や関連データの収集を行うとともに、関連データの入力も行なった。 | A | 順調 |
| 4511-26 | | 26) 江戸幕府による自然史科学の萌芽と御用絵師の役割に関する研究(学術研究助成基金助成金) 狩野探幽筆「草花写生図」及び狩野常信筆「草花魚貝虫類写生図」の全ての注記(1030 件)をデータ化し、写生図の制作背景を考察した結果、探幽を踏襲した常信によって、幕府主導の写生図制作が行われたことが明らかになりました。特に写生図制作に関わった幕臣や藩主、特に水戸藩家臣、そして人見竹洞などの儒学者、金地院などの社寺についてその詳細(32 件)が明確になった。 | A | 達成 |
| 4511-27 | | 27) 神像表現における物語性に関する研究(学術研究助成基金助成金) 東京国立博物館で開催された「国宝 大神社展」出品作品を中心に、作品調査を実施し、関連する文献資料の収集・分析も行った。 | A | 順調 |
| 4511-28 | | 28) 視覚表現とコレクションの形成に見る縄文土器の美術的受容に関する研究(科学研究費補助金) 東京国立博物館所蔵の資料のほか、根岸家(個人考古遺物収集家・熊谷市)、吉見百穴(比企郡吉見町)、東北歴史博物館・静岡市美術館、ストックホルムの東洋美術館(スウェーデン)で調査及び資料収集を行った。本研究成果は、東京国立博物館での展示(特集陳列「うつす・つくる・のこす—日本近代における考古資料の記録ー」)や茅野市美術館での口頭発表、大学研究紀要での論文発表により一般に公開した。 | A | 順調 |
| 4511-29 | | 29) 日本における「美術」概念の再構築—語彙と理論にまたがる総合的研究(科学研究費補助金) 本研究の基礎を固めるものとして、「美術」概念の検討成果の確認、記述の現場からの論点の吸收、海外研究者との討議、検討項目の絞込みを本年度の課題とした。そのために、東京文化財研究所、九州大学、石橋美術館、でそれぞれのテーマによる研究会を開催した。これによって、近代美術、古美術、あるいはアジアにおける「美術」の概念についての検討を行なった。 | A | 順調 |
| 4511-30 | | 30) 描いた女性たちに関する研究—桃山時代から明治・大正期まで(科学研究費補助金) 前年度に引き続き、実践女子大学の科研メンバーと協力し、京都国立博物館で、金戒光明寺寄託の池玉瀬の襖絵等の調査(25 年 8 月 15 日)を行うとともに、女性画家に関するデータ収集に協力し、外部研究者と連携した質の高い研究を行うことができた。次年度以降、外部との協力により当館所蔵の女性画家資料に対する研究を進める準備体制も確立した。 | A | 順調 |

| | | | | |
|---------|--|---|---|-------|
| 4511-31 | | 31) 「武装具の集積現象と古墳時代中期社会の特質」(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金) 今年度は、東京国立博物館において円照寺墓山1号墳出土資料を整理して、基礎情報を提示するために実測調査を進めた。また、その情報を基礎として「武装具の集積現象」を比較検討し、研究を推進した。 | A | 順調 |
| 4511-32 | | 32) 「三次元計測を応用了した青銅器製作技術からみた三角縁神獸鏡の総合的研究」(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金) 既存の東京国立博物館所蔵資料の調査成果の公開と、調査データ・写真の整理・分析を行った。 | B | ほぼ順調 |
| 4511-33 | | 33) 木彫像の樹種識別技術の高度化 (科学研究費補助金) 美術史的研究の見地から時代や様式が定まっている多数の木彫像を対象として、揮発成分のサンプリングおよび分析と赤外分光分析を行うことができた。データの蓄積を継続することで、木材標準試料との比較によって樹種同定の精度を上げられる一定の目途が立った。 | A | 順調 |
| 4511-34 | | 34) 在欧日本仏教美術の基礎的調査・研究とデータベース化による日本仏教美術の情報発信 (科学研究費補助金) ケルン市立民族学博物館において、日本仏教美術作品の悉皆調査を実施した。それらの調査結果をデータ入力し、データベースを作成している法政大学の担当者に入稿した。また、欧州から画像による調査依頼を受け、各担当者で検討し、依頼館に返答するとともに、データベースに加えた。さらに、東京国立博物館が所蔵する欧州博物館の図録等より、該当する日本仏教美術作品の抜き出しを行なった。 | A | 順調 |
| 4512-1 | (京都国立博物館) 1) 訓点資料としての典籍に関する調査研究を行う。 | 【京都国立博物館】 1) 訓点資料としての典籍に関する調査研究 館蔵品のうち、重要文化財『親自在菩薩如意輪瑜伽法要』及び重要文化財『南海寄帰内法伝』を中心とした調査を踏まえて、宇都宮啓吾が「十一世紀における天台宗山門派谷流のコト点について』(『訓点語と訓点資料』132)という論文にまとめて、報告を行った。赤尾・羽田は、館蔵品で訓点資料として知られる、国宝『日本書紀』二巻(岩崎本)と国宝『日本書紀』(吉田本)のデジタル撮影を行い、書誌解題を付して全巻を原寸大カラー団版での書籍を出版した(勉誠出版)。 | A | 順調 |
| 4512-2 | 2) 彫刻に関する調査研究を行う。 | 2) 彫刻に関する調査研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金) ・科学研究費補助金基盤研究(B)「多数尊より構成される仏教尊像に関する調査研究」の研究代表者として、寺院及び博物館における彫刻作品の調査を研究分担者とともに行った。 ・来年度再開する新館(平成知新館)の彫刻展示室における展示計画の立案を行った。 | A | 順調 |
| 4512-3 | 3) 出土・伝世古陶磁に関する調査研究を行う。 | 3) 出土・伝世古陶磁に関する調査研究 野崎家塩業歴史館(岡山)で伝世古陶磁の調査を行い、72件の調書を作成すると同時に記録写真の撮影を行った。 | B | 一部要注意 |

| | | | | |
|----------|---|---|---|------|
| 4512-4-1 | 4) 平成25年度から26年度に開催する特別展覧会等について、調査研究を行う。 | 4) - 1 特別展覧「遊び」に関する調査研究 遊びとひとことでも言つても、神仏に捧げた歌や踊り、社寺への参詣、酒宴、遊山、遊楽、琴棋書画のような文人趣味、聞香、茶会、双六、投扇、楊弓、貝合わせなどの室内競技、からくり人形、カルタ、凧揚げなどの遊戯など、人の営みは多岐にわたり、美術品は、過去の裕福な人々のそうした遊びの記録、記憶ともいえるものである、という視点を基に収蔵品を見直すことができた。玩具船についてはカラクリの構造を想定できた。本館内壁の清掃方法も確立できた。 | A | 順調 |
| 4512-4-2 | | 4) - 2 特別展覧会「魅惑の清朝陶磁」に関する調査研究(学術研究助成基金助成金) 研究成果の公表として計画した特別展覧会『魅惑の清朝陶磁』展示作品の調書212件を作成すると共に、図録・資料用写真の撮影に務めた。 | A | 順調 |
| 4512-4-3 | | 4) - 3 特別展覧会「南山城の古寺巡礼」に関する調査研究 京都府南部南山城地域に立地する古寺、海住山寺・笠置寺・岩船寺・淨瑠璃寺・神童寺・蟹満寺・寿宝寺・觀音寺・一休寺・禪定寺を調査対象として文化財の調査を行い、その成果をもとに特別展覧会の準備を進めた。 | A | ほぼ順調 |
| 4512-5 | | 5) 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 館蔵品・寄託品・それらの関連品及び今後収集・展示の対象となりうる文化財と、その周辺領域に関して、美術史・歴史学・考古学・博物館学等の各見地から調査研究を実施し、各種学会等・学術雑誌等でその研究成果を発表した。 | A | 順調 |
| 4513-1 | (奈良国立博物館) 1) 館蔵品・寄託品等の基礎的・総合的調査を進め、展示内容の充実と適切な収集につなげる。 | 【奈良国立博物館】 1) 館蔵品・寄託品等の基礎的・総合的調査を進め、展示内容の充実と適切な収集につなげる。 仏教美術や奈良に縁の深い文化財を中心に、当館の収蔵品として相応しいものを、新たに館蔵品・寄託品に加えることができた。全ての文化財の受け入れに当たっては、詳細な現品調査に加え、日頃の研究成果を取り入れた文化財調書を作成した。受け入れた文化財は、名品展において可能な限り積極的に展示して、成果を広く一般に還元とともに、調査を通じて培われた研究蓄積は各種刊行物に反映させた。 | A | 順調 |
| 4513-2 | 2) 館蔵品・寄託品研究の基礎となる文化財調査を積極的に実施する。 | 2) 館蔵品・寄託品研究の基礎となる文化財調査を積極的に実施する。 各研究員がそれぞれの専門分野に沿って文化財調査を実施し、その成果は展示・刊行物・講座における文化財解説等に反映された。調査・研究活動にあたっては、これを個人単位で展開するだけではなく、研究分担者・連携研究者として各種科研に参画するなど、外部の研究プロジェクトにも積極的に関わり、より広い視野に立って学界に貢献する実績を上げた。 | A | 順調 |
| 4513-3 | 3) 平成25年度特別展「新しい仏像入門(仮称)」に向けた調査と研究を行う。 | 処理番号 4543-2-4 参照。 | | |
| | | 4) 平安時代の大般若経を総合的に調査し、歴史資料としての資源化を進める(学術研究助成基金助成金) 平成25年度は、安倍小水麻呂願経と呼ばれる貞觀13年(871)の願文を持つ大般若経を集中的に調査した。スタッフ一同で協力し、125巻を巻頭から巻末まで全て開い | A | 順調 |

| | | | |
|--------|--|--|--------|
| | | | |
| 4514-1 | (九州国立博物館) 1) X線CTスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法解析を行う。 | て調書を取るとともに、写真撮影して今後の追加調査や報告書刊行に備えた。調査の過程では、各巻によって紙や書風に相当の差異のあることが認識され、全体像を把握するための基本情報を獲得することができた。 | |
| 4514-2 | 2) 平成20年度特別展「工芸のいま 伝統と創造」に関連した九州・沖縄の伝統工芸作家への調査を受けて、継続的かつ発展的に調査研究活動を行う。 | 【九州国立博物館】 1) X線CTスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法解析 泉屋博古館の所蔵品を中心にX線CT、3Dデジタイザ、三次元プリンタ等の科学調査機器を用いて、中国古代青銅器の内部構造データを系統的に集積したデジタルアーカイブを構築した。この研究成果を中国国内の研究者に公開するために、中国科学院自然科学院研究所と協力して編集を進めた。 | A 順調 |
| 4514-3 | 3) 日本中世の工芸、特に茶道具に関して研究し、展示に反映する。 | 2) 平成20年度特別展「工芸のいま 伝統と創造」に関連した九州・沖縄の伝統工芸作家への継続的かつ発展的な調査研究 平成25年度西部工芸展・日本伝統工芸展・西部染織作家展など、本年度開催の工芸展において作品調査を行った。また、伝統工芸の技術や素材をわかりやすく紹介するための体験プログラムの開発のため、博多人形や久留米絣等の工芸作家の工房を訪れ、制作方法や使用素材について調査を行った。 | A ほぼ順調 |
| 4514-4 | 4) 中世大般若経の史料学構築に向けての基礎的研究を行う。 | 3) 日本の中世の工芸、特に茶道具に関する調査研究 九州各地に残る煎茶具をクローズアップすることで、これまであまり注目されてこなかった資料の掘り起しができた。特に、竹田市立歴史資料館所蔵資料は、九州出身の文人として知られる田能村直入（たのむらちょうにくゅう）の煎茶趣味を、目に見えるかたちで紹介することができた。また、奈良大学博物館所蔵の板木については、これまで紹介されることが少なかった資料であるが、本展の展示においてひろく観覧をしてもらう契機となつた。 | A 順調 |
| 4514-5 | 5) 九州南島の先史時代の資料に関する研究を行い、展示に反映する。 | 4) 中世大般若経の史料学構築に向けての基礎的研究（学術研究助成基金助成金） 大般若経の漢訳を行った玄奘三蔵の関連遺跡を調査した。特に訳經事業が行われた大慈恩寺の調査では、事業の行われた故地を調査することができた。カリフォルニア大学バークレー校東アジア図書館所蔵の「崇永版」大般若経は、600巻がほぼ完存しているもので、中世版本大般若経研究にとって極めて貴重である。これらの全巻調査を実施できた意義は大きい。また、前年度に引き続き、史料集から基礎史料を収集した。 | A 順調 |
| 4514-6 | 6) 和泉市久保惣記念美術館の収蔵品の調査研究を行う。 | 5) 九州南島の先史時代の資料に関する調査研究 近年になって、徳之島と喜界島で個人が縄文時代の土器や石器を多数採集されていることがわかった。そこで、両町の教育委員会の協力を得て、実物資料を実見した。また、当館で詳細な調査を行うため、資料を搬入した。調査の成果を紹介し、採集された資料の歴史的意義を紹介するために文化交流展示室において展示を実施した。 | A 順調 |
| | | 6) 和泉市久保惣記念美術館の収蔵品の調査研究 X線CT、3Dデジタイザ、三次元プリンタ等の科学調査機器を用いて、中国古代青銅器の内部構造データを集積したデジタルアーカイブを構築した。本年度は帶鉤・殷周青銅器を中心に、肉眼観察と計測画像を対照させながら、青銅器の内部構造につ | A 順調 |

| | | | |
|--------|---|---|------|
| | | | |
| 4514-7 | | いて分析を行い、錆に覆われて見えなかつた象嵌文様などを発見することができた。また、以前より実施している住友コレクション（京都・泉屋博古館）の成果と比較対照を行つて、青銅技術の広がりを確認した。 | |
| 4514-8 | | 7) 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 館蔵近世絵画の調査研究を行い、その成果を公開するものとして、トピック展示「館蔵近世絵画名品展」を開催した。また、展覧会開催に際し、展覧会図録と所蔵品（近世絵画）目録を兼ねるものとして『館蔵近世絵画名品展』（96頁）を作成した。当館では毎年絵画作品を購入するなど収蔵品を増やしているが、その全容を公開する機会はなく、ごく一部を特別展図録やデジタルアーカイブで紹介するのみにとどまつてゐる。その課題に対し、本図録では出陳しない作品も含めて所蔵する近世絵画の画像、作品情報を掲載し、広く一般に公開した。 | A 順調 |
| 4521-1 | ② アジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究 (東京国立博物館) 1) 館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究を行う。 | 8) 西光寺梵鐘の総合調査 西光寺梵鐘を、25年7月23日から12月8日まで展示了。その間、所蔵者の許可を得て露出展示とし、更に蛍光X線分析や3次元実測を行つて、科学的な観点からの調査を初めて実施することができた。この調査結果をもとに、成分組成を明らかにし、更には3次元立体プリンタを用いた詳細なレプリカを作成した。（鐘全体1、陽鑄鉢部分1）また、作成したレプリカは、ご所蔵者に寄贈し、次年度継続の借用許可を得ることができた。 | A 順調 |
| 4521-2 | 2) 東洋民族資料に関する調査研究を行う。 | ② アジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究 【東京国立博物館】 1) 館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究 (1) 漢籍は、江戸幕府旧蔵資料である医学関係を中心とする調査が一段落したため、昨年より全体の調査に着手し、計30,000冊のうち、昨年度は10,694冊、本年度は300冊の書誌学的調査を終了し、写真撮影を実施した。 (2) 洋書については、シーボルト献納本308冊について、修理のための調査を行い、あわせて洋書の主なものについて写真撮影を実施した。 2) 東洋民族資料に関する調査研究 東洋民族の収蔵品の展示を、昨年までの調査で得られた知見にもとづき、東洋館13室で2回実施した。内容は次の通りである。 ・「台湾の海の民—タオ族の伝統文化ー」(25年10月1日～26年1月13日) ・「メラネシアの宗教彫刻」(26年1月15日～26年4月13日予定) また、台湾のパイワン族の生活及び宗教儀礼に關わる資料の詳細な調査を実施した。調査で得られた知見は、将来のパイワン族に關わる展示案の作成に資する予定である。 | A 順調 |

| | | | | |
|---------|-----------------------------------|--|---|------|
| 4521-3 | 3) 東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究を行う。 | 3) 東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究 (科学研究費補助金) 前年度に引き続き、装飾料紙を用いた古筆・典籍を中心に、書風と料紙分析ほか多角的な調査を、東京国立博物館や中国・香港大学・香港芸術館等で実施してきた。また、これまでの調査で撮影したデジタル写真や、調査結果のデータ入力と整理を進めた。本年度は研究期間の最終年度にあたるため、本研究成果の報告書を京都・思文閣出版より出版した。 | A | 順調 |
| 4521-4 | | 4) 東アジアにおける繡仏の基礎的研究 (科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金) 研究開始年度である本年度は、国内外の繡仏の所在情報を網羅的に収集するため、各種刊行物やウェブサイト上に公開されているデータを博搜し、また国内外の関連分野の研究者にも広く情報提供を呼びかけ、現時点での現存作例数を再確認することに努めた。さらに、国内外に所在する日本中世～近世期及び同時期の中国の作例の実見調査を実施することで、図像・材質技法・様式の詳細な分析を行った。これらの調査によって得られた繡仏の現存作例に関する、法量・図像・材質・技法・銘文・箱書・関連情報などを整理し、成果報告書の刊行や公開に向けて基礎データを作成、集積した。 | A | 順調 |
| 4521-5 | | 5) 極薄青銅器の製作技術解明－中国金属工芸史を再構築するための基礎研究 当館が所蔵する中国考古の極薄青銅器について、3次元計測を4回、蛍光X線分析を1回、分光計測を1回それぞれ実施するとともに、並行して新たな知見の整理を行った。また、泉屋美術館(25年11月7日)、和泉市久保惣記念美術館(25年11月8日)、寧樂美術館(25年12月1日)、出光美術館(26年2月7日)などで極薄青銅器の熟覧調査と写真撮影を実施した。加えて、東京藝術大学では合計6回の鋳造実験を行い、異なる条件設定で約100点の鋳造サンプルを作製した。鋳造サンプルに対しても蛍光X線分析と分光計測を1回ずつ実施することで、作品に対する分析データとの比較研究を進める足掛かりを得ることができた。 | A | 順調 |
| 4521-6 | | 6) 仁寿舍利塔の信仰と莊嚴に関する総合的調査研究 (科学研究費補助金) 中国各地において現地調査を行い、仁寿舍利塔起塔寺院に関する多くの地理的データ及び、文献的資料を多数収集することができた。 | A | 順調 |
| 4521-7 | | 7) 中国典籍日本古写本の研究 (科学研究費補助金) 東京国立博物館所蔵の中国典籍古写本の調査を行うとともに、館内において、研究会を開催し情報の共有に務めた。 | A | 順調 |
| 4521-8 | | 8) 5～9世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究 日本古代の金銅仏でヒ素や鉛を含むもののあることがわかった。銅製品では亜鉛との合金、いわゆる真鍮が古代に存在することが明らかになったのは大きな成果である。 | A | 順調 |
| 4521-9 | | 9) 東アジアにおける木彫像の樹種と用材観に関する調査研究 国内木彫像等の調査によって、多数の木片試料等を得ることができた。今後の樹種同定によって用材観の変化・形成に関する重要な知見が得られると予想される。 | A | 順調 |
| 4521-10 | | 10) 古代イスラエルの墓制と他界觀に関する総合的研究 今年度は当初予定していたイスラエル共和国下ガリラヤ所在のテル・レヘシュ遺跡 | A | ほぼ順調 |

| | | | |
|--|---|----|--|
| 4521-11 | の調査に参加することができなかつたため、2010年度までの調査に関する発掘調査報告書に関する作業を実施した。具体的には現地で実施した蛍光X線分析による元素同定データの整理を行った。また、西アジアに関する金属生産に関する文献の調査、及び発掘調査報告書掲載予定の下原稿の執筆を実施した。 | | |
| 11) 南宋絵画史における仏画の位相一都と地域、中国と周縁ー (科学研究費補助金) | A | 順調 | |
| (1) 作品調査：東京国立博物館所蔵品、閩西を中心とする美術館、及び中国での現地調査を含む作品調査を行った。 (2) 事業：アメリカでの学会参加、作品調査を行った。 (3) 成果：論文と研究発表、講演の形で公開することができた。 | | | |
| 12) -1 海外展「青山杉雨のコレクションと書」に関する調査研究 平成24年度に当館にて開催した特別展「青山杉雨の眼と書」の海外展であるため、作品の調査及び選定は前年度までに終了している。本年度は25年4月に新たに貸与する作品に関する補足調査を行い、また効果的な陳列、論考の執筆、講演会、安全な梱包、輸送、展示、撤収、返却を行った。 | A | 順調 | |
| 12) -2 特別展「和様の書」に関する調査研究 ・事前調査では、これまでの研究によって得られた新知見にもとづき、それぞれの作品において、料紙と書風の両方がどのように関連しているかという、和様の書としての位置づけを明らかにした。 ・三跡を中心とする名品をとおして、和様の書の成立とその後の展開などの全貌を明示し、日本人好みや感性を反映した書の美しさを、多くの人々に伝えることができた。 ・展示では、巻子、冊子など平面的な作品について、拡大画像やわかりやすい内容のパネルを後方壁面の随所に配置したことにより、書のさまざまな魅力をクローズアップして示すことができた。 | A | 順調 | |
| 12) -3 「上海博物館 中國絵画の至宝」に関する調査研究 一級文物18件をふくむ、北宋から明清にいたる絵画、40件を調査した。状態を確認し、安全な輸送についての計画を立てるとともに、普段は公開されていない題跋や印章、付属品などについても、調査を行った。 | A | 順調 | |
| 12) -4 特別展「京都一洛中洛外図と障壁画の美」に関する調査研究 ・京都二条城において建造物、並びに障壁画の作品調査を実施したことで、通常の展覧会では実施することが困難である室内構造を立体的に再現する展示に反映することができた。 ・超高精細映像4Kの映写実験を展示会場等、実際の展示に即した状況で実施したことで、展示映像を文化財展示と適切に融合させて提示することができた。 | A | 順調 | |
| 12) -5 「クリーブランド美術館展—名画でたどる日本の美」に関する調査研究 ・クリーブランド美術館（アメリカ）において、収蔵品の作品調査を行い、本展出品作品の選定を行った。本年度の作品調査は、24年度に行った現地調査に引き続いたものである。 | A | 順調 | |

| | | | | |
|------------|--|--|---|----|
| 4521-12-6 | | 12) - 6 海外展「伝統の再創造：日本の近代美術」に関する調査研究 ・クリーブランド美術館（アメリカ）において展覧会会場の調査を行った。本年度の調査は、クリーブランド美術館スタッフとともに24年度に行った当館における出品作品選定のための作品調査と、アメリカにおける施設の現地調査に引き続いたものである。 | A | 順調 |
| 4521-12-7 | | 12) - 7 特別展「人間国宝展—生み出された美、伝えゆくわざ—」に関する調査研究 伝統工芸に携わってきた重要無形文化財保持者（人間国宝）を工芸担当者が個別に調査・研究し、特別展にふさわしい物故の作家104名の代表作を1点ずつ選出した。伝統がどのように発展を遂げ、現代に伝えられたのかを、国宝・重要文化財といった古典の名品と比較研究し、展示することによって観覧者にも日本の伝統工芸をわかりやすくした。人間国宝作家の名作を一堂に会することによって、日本の伝統工芸の卓越したわざの美を改めて周知する機会となった。 | A | 順調 |
| 4521-12-8 | | 12) - 8 特別展「支倉常長像と南蛮美術—400年前の日欧交流—」に関する調査研究 「支倉常長像」に関しては、本展開催前に本作が展示されていた仙台市博物館において展示状況、作品状態を点検し、作品輸送等に関して関係者との協議を行った。あわせて、作品の細部描写等を詳細に観察し、リーフレット等配布物の原稿執筆のための基礎資料とした。「南蛮人渡来図屏風」「世界図屏風」に関しても同様に、デジタル撮影を含む調査研究を進めた。 | A | 順調 |
| 4521-12-9 | | 12) - 9 特別展「栄西と建仁寺」に関する調査研究 ・建仁寺派以外の寺院や美術館の調査により禅宗の立場以外の観点から栄西の著述を研究し、展覧会に反映させることができた。 ・京都・六道珍皇寺や長崎・春徳寺などを含んだ調査により、京都の禅院としてだけでは捕らえきれない建仁寺派の文化的な相を示すことができた。 ・「蘭溪道隆像」（西来院）、小野篁像（六道珍皇寺）の像内調査により、前者では古い「蘭溪道隆像」像の頭部があることが確認され、後者では銘札・墨書鉛が見出されたことで、作者・制作年を明らかにすることが出来た。 | A | 順調 |
| 4521-12-10 | | 12) - 10 特別展「キトラ古墳壁画」に関する調査 国宝高松塚古墳壁画仮設修理施設においてキトラ古墳壁画の修理進行状況や現状を確認し、展示可能な壁画を検討するとともに、飛鳥資料館にて出土遺物等の調査を実施した。合わせて共催者とも協議を行った。 | A | 順調 |
| 4521-12-11 | | 12) - 11 特別展「台北 国立故宫博物院—神品至宝—」に関する調査研究 ・出品交渉を重ねて作品を決定し、分野ごとに作品の調査を開始した。効果的な陳列、安全な輸送などについて検討した。出陳作品にかかる伝来などの関連資料を收集した。 | A | 順調 |
| 4521-12-12 | | 12) - 12 特別展「日本国宝展」に関する調査研究 出陳交渉に併せて作品の所在・保存状態を調査するとともに、安全な運搬・展示、効果的な展示方法などについて検討し、展覧会の内容充実に大きく寄与することができた。 | A | 順調 |

| | | | | |
|------------|--|--|---|----|
| 4521-12-13 | | 12) - 13 特別展「みちのくの仏像」に関する調査研究 東北6県のうち、岩手・宮城・福島・山形の出品予定作品の出品交渉を終え、一部は作品調査も実施した。うち2件については、作品所在場所の温湿度の調査を実施した。次年度も継続的調査を引き続き実施予定である。 | A | 順調 |
| 4523-1 | (奈良国立博物館) 1) 中国・韓国などアジア諸国の文化財に関する調査研究を実施する。 | 【奈良国立博物館】 1) 中国・韓国などアジア諸国の文化財に関する調査研究 学術交流協定を締結している中国・韓国の博物館との間で職員の派遣・受け入れを実施し、活発な研究交流・情報交換を実施した。 | A | 順調 |
| 4523-2 | 2) 日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究を進め、その成果を展示や公刊物等に反映させる。 | 2) 日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究 名品展の展示替えに備えて、各研究員が出席品に関する調査と研究を実施し、その成果を展示キャッシュに反映させた。また、今年度に開催した各種のシンポジウム等においては、各研究員の専門分野を生かしながら、当該項目の日亜文化交流の視点に立った研究成果を発表した。 | A | 順調 |
| 4524-1 | (九州国立博物館) 1) 朝鮮半島、三国時代の考古に関する調査研究を行い、将来的特別展に反映する。 | 【九州国立博物館】 1) 朝鮮半島、三国時代の考古・美術に関する調査研究 (1)韓国の2つの国立博物館との間で、研究交流を実施して、実物資料の活発な共同調査や情報交換を行った。 (2)九州内の朝鮮半島から伝来した資料等についての調査を実施した。 (3)百濟武寧王と縁の深い佐賀県加唐島での韓国研究者との共同での現地調査を行った。 (4)7世紀の国宝宮地嶽古墳出土金銅装大刀について、朝鮮半島の金工技術との関わりを明らかにすることができた。 | A | 順調 |
| 4524-2 | 2) 九州における対外交流文化財の保存と活用に向けた研究基盤を創設する。 | 2) 九州における対外交流文化財の保存と活用に向けた研究基盤の創設（科学研究費補助金） 本年度は南ルートの対沖縄・鹿児島、及び、西ルートの長崎・佐賀の対外交流文化財及びメキシコの関連文化財を中心にして現地調査を実施した。さらにこれらの文化財を移動して最新鋭のデジタル計測機器を活用した科学調査を実施した。この科学調査の結果をふまえて、学際的な研究チームによる実物調査を実施することにより、これまでにない高精度のデジタル情報を網羅したアーカイブを構築している。 | A | 順調 |
| 4524-3 | 3) 武雄市図書館・歴史資料館所蔵の鍋島家資料の調査研究を行い、展示に反映する。 | 3) 武雄市図書館・歴史資料館所蔵の鍋島家資料の調査研究 本年度は、武雄鍋島家資料のなかから約1,100点の蘭学関係資料の抽出・調査・目録化作業を達成し、2ヵ年計画での調査事業を完了することができた。また、前年度の調査事業の成果を反映させた展覧会を、当館及び武雄市図書館・歴史資料館との共同事業として開催し、展覧会の関連事業も積極的に実施することができた。 | A | 順調 |
| 4524-4 | 4) 神戸市立博物館所蔵の江戸時代の対外交渉に関する作品の調査研究を行い、展示に反映する。 | 4) 神戸市立博物館所蔵の江戸時代の対外交渉に関する作品の調査研究 (1)神戸市立博物館の近世美術コレクションの調査研究を行った。 (2)本調査研究の成果として、展覧会を神戸市立博物館と共同開催した。 (3)展覧会の開催により、長崎が中国や西洋との文化交流の窓口になって発展した江戸 | A | 順調 |

| | | | | |
|--------|--|--|---|----|
| | | 時代の美術について、観覧者に多くの情報を提供することができた。 | | |
| 4524-5 | 5) 中国山東省を中心とする漆工品の調査研究を行う。 | 5) 中国・山東省荷澤出土の螺鈿箱（高麗経箱）に関する調査研究（学術研究助成基金助成金） (1) 調査対象とする螺鈿箱の調査分析を、他作例と比較しながら多角的に進めることができた。 (2) 螺鈿器及び関連漆器の調査を広範囲に行うことにより、今まで知られていなかった比較作例を数多く集めることができた。 (3) 調査の過程で明らかになった新たな検討課題について、考察を深めるための資料を得ることができた。 | A | 順調 |
| 4524-6 | 6) タイにおける異文化の受容と変容－13世紀から18世紀の对外交易品を中心として－に関する研究を行う。 | 6) タイにおける異文化の受容と変容－13世紀から18世紀の对外交易品を中心として－（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金） 上記研究分担者及び研究協力者は、タイ王国文化省芸術局の協力を得て、タイでの現地調査を行った。特に、日本からタイに伝わった交易品に関しては、これまで調査が難しいとされていた王宮内博物館の調査をすることができた。調査地としては国立博物館資料に加え、プライベートコレクションの調査を通じ、新しい情報を得ることができた。調査の成果については、同プロジェクト報告会にて発表し、交易品に関する日本側の記録の一部を英訳して現地に還元した。 | A | 順調 |
| 4524-7 | 7) ベトナムと我が国との間の文化財を通じた交流について調査研究を行う。 | 7) ベトナムと我が国との間の文化財を通じた交流についての調査研究 ・ベトナム歴博所蔵の日本文化財を、同博物館の担当者と共に調査し、多くの新たな見を見を得た。 ・文化庁海外展「日本文化」展で69件の文化財を展示し、ベトナムと日本の交流についても紹介した。 ・ベトナム歴博編集の展覧会図録に、今回の展示に至る両国の取り組みについて寄稿した。 ・ベトナム歴博と意見交換を行いつつ調査を進め、交流を深めることができた。 | A | 順調 |
| 4524-8 | | 8) 中世～近世初期の対馬宗氏領国に関する基礎的研究（学術研究助成基金助成金） 本年度は中世～近世初期の対馬宗氏領国に関する史料の調査・収集・整理を重点的に行つた。具体的には、東京大学史料編纂所・国立公文書館・長崎県立対馬歴史民俗資料館で原本・写本・写真版を閲覧・調査し、写真撮影・複写・筆写等による収集を行つた。収集史料の翻刻・整理・データベース化を行うとともに、関連図書の収集を進め、刊本等からの関連史料の抽出・データベース化も行つた。 | A | 順調 |
| 4524-9 | | 9) 契丹壁画墓の集成と公開－唐滅亡後の東アジアにおける国家形成過程の視覚的理理解（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金） ・3年間にわたる研究期間中に行う共同研究の内容について、内蒙古博物院及び内蒙古文物考古研究所と協議し、協約書を締結した。 ・京都大学工学部井手重里教授の協力を得て、内蒙古博物院で修復作業中の壁画資料30点について、日本より持ち込んだ機材で高精細画像データを取得した。 | A | 順調 |

| | | | | |
|---------|--|---|---|------|
| | | ・現地で取得した高精細画像データを、パソコンを利用して閲覧、分析ができるようデータ整備を行つた。 ・現地の研究者と意見交換を行うとともに、既知の契丹壁画墓に関する発掘報告書などの情報を集積した。 | | |
| 4524-10 | | 10) 水中遺跡の保存活用に関する調査研究（文化庁受託事業） 海外の水中遺跡についての取組状況を取りまとめるために、現地を訪問し調査を行つた。当該国の機関の担当者と膝を交えた直接のやりとりは、表面だけでは把握できない、その国の海に対する考え方や歴史感あるいは地方自治のあり方、国民の感心度合いなどを理解することができた。水中遺跡の保存と活用の課題を整理することができた。また、水中遺跡をどのように魅力的に展示するのかという課題についても、これまでにない展示ケースを作成することができた。 | A | 順調 |
| 4524-11 | | 11) 特別公開「江上波夫の眼 ことばとかたち」に関する調査研究 オロンヌムにおけるネストリウス派キリスト教遺跡やカトリック教会遺跡に係わる遺物、平面図、キリスト教信者の墓石の拓本や遺物類（元代）、及びチベット仏教関連の拓本や遺物類など（明代）について実物資料を調査した。漢字による文字資料の拓本類多数から代表的な作品を選定した。楔形文字、シリアル文字、アラビア文字、パスピ文字、モンゴル文字、契丹文字、女真文字、満州文字、ハングルなどの資料を調査し、展示内容を確定した。 | A | 順調 |
| 4532-1 | ③ 京都文化を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究 (京都国立博物館) 1) 近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究を行う。 | ③ 京都文化を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究 【京都国立博物館】 1) 近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究（科学研究費補助金） 京田辺市酬恩庵（一休寺）の文化財調査によって未公表の一休禪師の遺品類が見つかつた。また金工作品の中でも東南アジアあるいは中国由来の鉄鐘が発見された。さらに原在明筆の庭園図（近世）についてはその絵画表現方法に極めて特異な作品が存在することが明らかとなつた。さらに木津川市教育委員会が所蔵する神雄寺出土品の調査で特殊な塑像の破片を確認した。その他様々な新知見を得ることができた。 | A | ほぼ順調 |
| 4532-2 | 2) 近世絵画に関する調査研究を行う。 | 2) 近世絵画に関する調査研究 特別展覧会「狩野山楽・山雪」図録内容に一部反映させた。 | A | ほぼ順調 |
| 4532-3 | | 3) 漆工芸に関する調査研究（科学研究費補助金） 昨年度までの成果の一部を当館研究紀要に発表することができた。オランダのライクスミュージアム、スペインのマドリード国立装飾美術館、イギリスのV&A美術館、フランスのルーヴル美術館、パリ装飾美術館、コンピエニユ・アントワーヌ・ヴィヴェル美術館などで漆器を調査し、特に19世紀パリの漆器コレクションの実例を詳しく観ることができた。日本の研究者が調査に赴くことで、所蔵館の担当者たちの日本漆器に対する関心が高まり、異なる所蔵館のあいだで共同の展覧会を模倣する動きも生じてきており、有意義な研究交流を行えた。 | A | 順調 |
| | ④ 佛教美術及び奈良を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究 | ④ 佛教美術及び奈良を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究 | | |

| | | | |
|----------|---|---|------|
| | | | |
| 4543-1 | 合的な調査・研究 (奈良国立博物館) 1) 平成26年度特別展「鎌倉の仏像展(仮称)」、27年度以降の特別展「大百済展(仮称)」「春日式年造替記念展(仮称)」「快慶展(仮称)」など、将来の特別展実施に向けた調査研究を行う。 | 【奈良国立博物館】 1) 特別展「武家のみやこ 鎌倉の仏像 一迫真とエキゾチズム」に関する調査研究 出品候補作品の調査と出品交渉、関連資料の調査研究を行った。 | A 順調 |
| 4543-2-1 | 2) 南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、毎年恒例の特別陳列「お水取り」「おん祭と春日信仰の美術」、25年度當麻曼荼羅完成1250年記念特別展「當麻寺一極樂浄土へのあこがれー」、25年度特別展「新しい仏像入門(仮称)」等に反映させる。 | 2) - 1 特別陳列「お水取り」に関する調査研究 例年恒例となっている、特別陳列「お水取り」開催に向け、出陳を前提とする文化財の調査を行った。 | A 順調 |
| 4543-2-2 | 2) - 2 特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」に関する調査研究 本年の特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」では、これまでに注目されたことのなかった「大和土：やまとさむらい」の実態を、新史料の公開も含めて取り上げ、広く紹介することができた。 | 2) - 3 當麻曼荼羅完成 1250 年記念特別展「當麻寺一極樂浄土へのあこがれー」に関する調査研究 特別展開催のために行われてきた調査研究に基づき特別展を開催するとともに、展覧会開催中にも写真撮影を含む調査研究を行い、展示品に関する基礎データの集積を行うことができた。 | A 順調 |
| 4543-2-3 | 2) - 4 特別展「みほとけのかたちー仏像に会うー」に関する調査研究 特別展開催にあたり、館蔵品・寄託品等の調査・撮影を行い、その成果を、展示会場内の解説や各種刊行物等に反映させた。 | 3) 特別展「正倉院展」に関する調査研究 正倉院宝物に関連する調査研究を積極的に進め、その成果は当館が編集・刊行した展覧会図録『第65回正倉院展』に掲載されたのに加え、「正倉院展」会場での解説パネル類、新聞連載記事、講座・シンポジウムにおける口頭発表等に反映された。 | A 順調 |
| 4543-2-4 | 4) 績織當麻曼荼羅(當麻寺藏)、信貴山緣起絵巻(朝護孫子寺藏)の調査など、東京文化財研究所と共同で仏教美術の光学的調査研究を実施し、作品の材料・技術等の解明に寄与する。 | 4) 績織當麻曼荼羅(當麻寺藏)、信貴山緣起絵巻(朝護孫子寺藏)の調査など、東京文化財研究所と共同で仏教美術の光学的調査研究を実施し、作品の材料・技術等の解明に寄与する。 (1)前年度に実施した国宝 績織當麻曼荼羅(當麻寺藏)の調査画像データの分析を進め、重要関連作品である裏板曼荼羅(當麻寺本堂厨子安置)及び貞享本當麻曼荼羅の高精細カラー画像・近赤外線画像の撮影を実施した。 (2)大徳寺五百羅漢図の総合調査報告書の刊行に備え、京都国立博物館寄託分の大徳寺本20幅について追加調査を実施し、さらにに画綱組織及び各幅の主題に関する検討会を開いた。 | A 順調 |
| 4543-3 | 3) 正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。 | | |
| 4543-4 | 4) 日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究を行う。 | ⑤ アジアを中心世界との交流という観点から捉えた、日本文化に関する調査・研究 (九州国立博物館) 1) 日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究 | A 順調 |
| 4554-1 | | | |

| | | | |
|----------|---|---|--|
| | | | |
| 4554-2-1 | | 韓国国立公州博物館との学術交流協定に基づき、当館研究員2名を派遣し、木浦・羅州・公州、ソウルの遺跡・博物館の調査を実施した。韓国から3名を日本に招聘し、共同調査を実施した。タイ王国文化省芸術局の協力を得て、仏教美術・歴史・工芸・民族分野の現地調査と調査報告会をタイで実施するとともに、我が国江戸時代の堺市に伝來した仏画などに関する国内調査成果をタイ側と共有した。 | |
| 4554-2-2 | 2) - 1 特別展「中国 王朝の至宝」に関する調査研究 25年7月9日から9月16日かけて、特別展「中国 王朝の至宝」を開催した。いわゆる「中国王朝」について、これまでの画一的な中原王朝史観の見直しを図るべく幅広い地域から資料を収集し、一堂に会する機会を設けたことで、「中国王朝」についてはより幅広い視野で議論すべきことがより明瞭となった。会期中は、講演会や新聞紙面連載を行い、個別の作品ならばに王朝の流れに関して発表した。また、会期が夏休み期間中であったこともあり、子ども向けのワークショップの開催やガイドブックの作成に力をいれ、幅広い層による王朝の至宝の理解促進につとめた。 | A 順調 | |
| 4554-2-3 | 2) - 2 特別展「尾張徳川家の至宝」に関する調査研究 尾張徳川家は、江戸時代に徳川将軍家に次ぐ格式を誇った最高の大名家である。従って尾張徳川家に伝来した道具類は、江戸時代における大名文化を伝える品々のなかでも、最高水準の作品が数多く伝えられた。このプロジェクトでは徳川美術館の協力を得て、所蔵する作品の大要を把握し、その水準の高さを認識することができたとともに、その成果をふまえて尾張徳川家に伝来した作品を一堂に紹介する機会につなげることができた。 | A 順調 | |
| 4554-2-4 | 2) - 3 特別展「国宝 大神社展」に関する調査研究 26年1月15日から3月9日かけて、特別展「国宝 大神社展」を開催した。奈良・手向山八幡宮の錦貼神輿など福岡会場のみの出陳作品については、事前に現地調査を実施して輸送方法や展示手法などの検討・研究に役立てた。 会期中、講演会や新聞紙面における作品紹介記事の連載を行った。また関連事業として、街で見かけた狛犬をWEB投稿してもらう「狛犬目撃情報」企画の実施、会場内の教育普及企画の展開を行い、幅広い層に対する本展の集客及び理解促進に努めた。 | A 順調 | |
| | 2) - 4 特別展「華麗なる宮廷文化 近衛家の国宝展」に関する調査研究 摂関政治の全盛期を築いた藤原道長自筆の日記である国宝「御堂閑白記」の道長自筆本14巻のうち、6巻をユネスコ世界記憶遺産登録後、初めて九州で公開することが実現した。近衛家は摂政・閑白として国政を主導してきた藤原氏の嫡流であり、このために「御堂閑白記」も近衛家に伝わった。この他、江戸時代の近衛家を代表する文化人である信尹と家熙の業績についても詳しく調査した。 | A 順調 | |

| | | | | |
|----------|--|---|---|------|
| 4554-2-5 | | 2) - 5 特別展「クリーブランド美術館展－名画でたどる日本の美」に関する調査研究 (1)特別展覧会「クリーブランド美術館展－名画でたどる日本の美」の作品を確定するとともに、展示・作品解説・各論執筆にむけた作品の調査研究(約60件)を実施できた。また、作品の撮影を実施した。 (2)特別展図録を制作した。 | A | 順調 |
| 4554-2-6 | | 2) - 6 特別展「台北 國立故宮博物院－神品至宝－」展に関する調査研究 國立故宮博物院を訪問して、25年11月28日・12月16日から19日まで、及び26年1月20日から24日まで、展覧会について協議した。また、特別展への出品資料を選定し、それらの実見調査、計測等を実施し、展覧会図録や会場解説執筆のための情報収集できた。 | A | ほぼ順調 |
| 4561-1 | ⑥ 有形文化財の保存環境・保存修復に関する調査・研究 (東京国立博物館) 1) 博物館の環境保存に関する研究を行う。 | ⑥ 有形文化財の保存環境・保存修復に関する調査・研究 【東京国立博物館】 1) 博物館の環境保存に関する研究 本年度は文化財の保存環境の内、特に特別展示室の温湿度環境の安定化について、下記概要に示す調査研究を行った。温湿度が不安定になる原因を追及するために、空調の運転状況、展示室扉の開閉管理状況、平成館で入り口の開閉状況などを詳細に検討した。その知見に基づいて運転方式、扉開閉運用などを細かく組み合わせることによって、安定した温湿度環境が実現できる見通しが立った。 | A | 順調 |
| 4562-1 | (京都国立博物館) 1) 修復文化財に関する資料収集及び調査研究を行う。 | 【京都国立博物館】 1) 修復文化財に関する資料収集及び調査研究 平成25年度に新規搬入された作品の「修理計画書(設計書)」に基づき、データを入力し、平成24年度に完成、搬出した作品については、各工房より提出された「修理解説書(報告書)」に基づき、データを追加、更新した。また、平成21・22年度に修理が完成した作品に関する報告を『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告書』第10・11号に掲載し、修理時に発見された銘文の平成21年度13件、平成22年度17件を「銘文集成」として報告した。 | A | 順調 |
| 4562-2 | 2) 文化財の保存・修復に関する調査研究を行う。 | 2) 文化財の保存・修復に関する調査研究 (1)「病草子」(紙本着色／平安時代後期／国宝)の修理に伴って、各種の光学調査と紙質分析を実施し、作品のオリジナルの状態、技法材料や、修理履歴などに関わるさまざまな情報を得ることができた。 (2)修理中にしかできない調査・分析によって得られた結果は、本修理品を含め、文化財の調査研究・保存修復の現場での幅広い活用できる貴重な情報である。 | A | 順調 |
| | (奈良国立博物館) | 【奈良国立博物館】 | | |
| 4563-1 | 1) 収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境の、文化財に与える影響などに関する調査研究を実施し、収蔵品の保存環境の向上を図る。 | 1) 収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境の、文化財に与える影響などに関する調査研究を実施し、収蔵品の保存環境の向上を図る。 (1)展示室、展示ケース内に設置した温湿度センサーのデータを分析し、展示・収蔵環境の保持に努めた。 (2)展示ケース内から回収した粉塵の種類・量を計測し、展示ケースの気密性向上に資するデータを蓄積した。 (3)展示室・収蔵庫等への昆虫トラップの設置回収により文化財害虫の生息状況を調査し、害虫被害回避につなげた。 (4)防災工事に伴う収蔵庫内のVOC(揮発性有機化合物)残留濃度調査を実施し、収蔵環境の保全に努めた。 (5)「環境整備委員会保存環境に関するワーキンググループ」会議を定期的に開催し、保存環境の改善に努めた。 | A | 順調 |
| 4563-2 | 2) 館蔵品・寄託品等の調査研究を文化財修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する。 | 2) 館蔵品・寄託品等の調査研究を文化財修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する。 (1)館蔵品、寄託品について保存状態を中心に入念な調査を実施し、その所見をもとに保存カルテを作成した。 (2)館蔵品、寄託品の修理に際し、保存カルテや新規に実施した保存状態調査の所見をもとに修理調書を作成し、修理方針を決定した。 (3)文化財保存修理所で修理中の木造文化財について樹種同定調査を実施し、その成果公開の準備を進めた。 (4)文化財保存修理所で修理中の文化財から発見された銘文の調査を実施し、その成果公開の準備を進めた。 | A | 順調 |
| 4563-3 | 3) 館蔵品・寄託品等の調査研究を保存科学の観点から実施し、貴重な文化財の後世への継承に資する。 | 3) 館蔵品・寄託品等の調査研究を保存科学の観点から実施し、貴重な文化財の後世への継承に資する。 (1)館蔵品、寄託品等の修理に際し、修理前・修理中・修理後で当該文化財に対して透過X線や蛍光X線等を用いた光学調査を実施し、その所見を修理方針に反映させる。 (2)館蔵品、寄託品の文化財の修理において、修理前に電子顕微鏡を用いた料紙・料綱の繊維組成調査を実施し、その成果をもとに補紙・補綱を調製する。 (3)文化財保存修理所で修理中の文化財について、研究員と各工房職員が共同で光学機器を用いた材質調査を実施する。 | A | 順調 |
| 4564-1 | (九州国立博物館) 1) 文化財の材質・構造等に関する共同研究を行う。 | 【九州国立博物館】 1) 文化財の材質・構造等に関する共同研究 透過X線撮影、X線CT調査、3Dデジタイザ調査等を実施した。トピック展「雪と火炎土器」で展示した「火炎土器」についてX線CT調査、精密三次元形状計測を実施し、三次元プリンタで原寸大のデジタル複製品を製作した。デジタル複製品手に触れるハンドオン作品として展示した。また、文化交流展元関連の鷹島海底遺跡出土品について、展示替えの機会を利用して文化財の構造や材質を調査した。 | A | 順調 |

| | | | | |
|--------|--|--|---|----|
| 4564-2 | 2) 博物館における文化財保存修復に関する研究を行う。 | 2) 博物館における文化財保存修復に関する研究 吉備国際大学 2名、九州産業大学 2名、別府大学 2名、広島市立大学 2名の計 4 大学 8 名が研修に参加した。修復技術者の協力を得て、少人数で実践的な研修を実施することができた。本研修により、修理技術者育成に寄与すると共に、学生の文化財保護への理解を深めることができた。 | A | 順調 |
| 4564-3 | 3) 博物館危機管理としての市民協同型 I PMシステム構築に向けての基礎研究を行う。 | 3) 博物館危機管理としての市民協同型 I PMシステム構築に向けての基礎研究 (1) 研修会等参加者は、全国の美術館・博物館の学芸員及びボランティアからなるが、参加申込受付開始日に定員に達するなど、参加人数が大幅に増え、学芸員・市民の関心の高さがうかがえた。よって前年度よりさらに様々な意見を集めることができとなり、ミュージアム I PM支援者研修プログラムの確立に充分活かすことができた。 (2) 公開シンポジウムでは専門家の講演と I PM実践館等による報告を行い、東京での情報発信ができた。 (3) 平成 25 年度地域と共に活動した美術館・歴史博物館創造活動支援事業「市民と共に ミュージアム I PM」を軸に市民協同型 I PMシステム構築に関する研究を開催し、その成果を 3 冊の報告書にまとめた。 | A | 順調 |
| 4564-4 | 4) 東アジアの文化財修復用手漉き和紙の調査研究 (UNESCOとの共同) を行う。 | 4) 東アジアの文化財修復用手漉き和紙の調査研究 (UNESCOとの共同) UNESCOとの共同事業として、平成 20 年度より五ヵ年において実施した日本・中国・韓国での手漉き紙の製作状況調査の集大成として、前年度当館において開催された「第 5 回東アジア紙文化財保存修理工シンポジウム」の報告書を作成した。 | A | 順調 |
| 4564-5 | 5) 赤外線撮影法による彩色材料調査の有効性に関する研究を行う。 | 5) 赤外線撮影法による彩色材料調査の有効性に関する研究 (学術研究助成基金助成金) 本年度は赤外線撮影で有用となる彩色材料を明らかにするため、基本となる彩色材料を検討し、カラーチャートを作成した。そしてカラーチャート及び実際の絵画の赤外線画像と彩色の科学分析の結果を照らし合わせ、赤外線画像の解析を試みた。 | A | 順調 |
| 4564-6 | 6) 三次元データに基づく文化財研究と新展示手法の開発-興福寺 国宝阿修羅像を中心とした研究を行う。 | 6) 三次元データに基づく文化財研究と新展示手法の開発-興福寺 国宝阿修羅像を中心とした (科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金) 本研究は興福寺の特別な許可を得て、X 線 CT 調査で得られた国宝 阿修羅像をはじめとする十大弟子像 4 軀、八部衆像 5 軀の高精細三次元データを、美術史・工芸史・修復技術・文化財科学・博物館学の専門家が一同に集まって解析する研究である。これまでに、X 線 CT によって得られた三次元画像を 450 枚以上蓄積した。また研究の成果を出版すべく編集作業を進めた。 | A | 順調 |
| 4564-7 | 7) 三次元デジタル計測技術を活用した中国古代青銅器の製作技法の研究を行う。 | 7) 三次元デジタル計測技術を活用した中国古代青銅器の製作技法の研究 (科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金) 当館では京都・泉屋博古館と共同して X 線 CT、3D デジタイザ、三次元プリンタ等の科学調査機器を用いて、中国古代青銅器の内部構造データを集積したデジタルデータベースを構築している。本年度は大阪・和泉市久保惣記念美術館が所蔵する中国古代青銅器を調査すると同時に、中国科学院と協議して成果の検討を進め、中国科学出 | A | 順調 |

| | | | | |
|--------|---|--|---|----|
| 4564-8 | | 版社とは出版に向けて打ち合わせを行った。 | | |
| | | 8) 石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究 (学術研究助成基金助成金) 内面が赤く塗られた棺の初現については、これまで北部九州の弥生時代中期後半の箱式石棺墓で、ベンガラが塗布されていたものと考えられていた。しかし、同時期の甕棺墓では水銀朱が塗布されていたものがあることが明らかとなった。古墳時代の石棺等での調査は、現在調査を実施中であるが、内面にベンガラを塗布した例が多いようである。ただし、内面に朱を塗布した事例も少なからず認められる。次年度以降、調査範囲を広げ、さらに検討を行う予定である。 | A | 順調 |
| 4571-1 | ⑦ 文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査・研究 (東京国立博物館) 1) 博物館環境デザインに関する調査研究を行う。 | ⑦ 文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査・研究 【東京国立博物館】 1) 博物館環境デザインに関する調査研究 ・平成 26 年 4 月の本館改修工事に先立ち、平成館と本館を結ぶジャンクションとなる本館 17 室の案内・誘導・注意サインについて、4 言語(日・英・中・韓)によりよりわかりやすくなるよう整備した。(25 年 10 月) ・本館から平成館へ移設・新設された東京国立博物館 寄贈者顕彰コーナーを、寄贈者の顕彰とともに憩いのギャラリーとしてリニューアルした。 ・平成 26 年度にオープン予定の「正門プラザ」は、ショップ・売札・もぎり・インフォメーションカウンターなど、東京国立博物館の来館者全体を招き入れる施設となる。この施設のサイン全てについてデザインを行った。 | A | 順調 |
| 4571-2 | 2) 博物館教育に関する調査研究を行う。 | 2) 博物館教育に関する調査研究 ・本館特別 4 室及び東洋館 2 室、6 室「みどりのライオン」における博物館ガイダンスやハンズオン体験コーナー、年間で 10 万人を超える利用者があり、当館の博物館教育プログラムとして定着している。この事業の一部は、当館のボランティアの主要な活動範囲となっており、博物館教育におけるボランティアの現状と課題について調査した。 ・トーハクなびは、アンドロイド版に加えて、iOS 版をリリースし、さらに体験型コンテンツを充実させた。このアプリケーションは、GPS を用いた位置の測定や観覧車の滞在時間の調査などが可能であり、観覧者の回遊状況についての調査を実施した。 | A | 順調 |
| 4571-3 | 3) 博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究を行う。 | 3) 博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究 東京国立博物館における収蔵品管理システムのプロトタイプについて、収蔵品検索機能、平常常管理機能、鑑査会議管理機能、貸与管理機能、修理予定・履歴管理の各機能を継続的に運用し、随時改善を重ねて機能を向上させた。さらに、作品の検索性能の向上や、データの一括アップロード機能の追加を行った。また、システム環境の漸進的な更新にむけた作業を開始した。 | A | 順調 |

| | | | | |
|--------|--|---|---|------|
| 4571-4 | 4) 凸版印刷と共同で、ミュージアムシアターでの公開に向けた研究を引き続き実施する。 | 4) 凸版印刷と共同でミュージアムシアターでの公開に向けた研究を引き続き実施する (1)前年度にデータ取得及びコンテンツ制作に着手した文化財について、ミュージアムシアターのコンテンツを公開した。 (2)重要文化財「日本沿海輿地図」8鉢について、凸版印刷との共同で超高精細画像データを取得し、それに基づいたシアター用コンテンツの制作に着手した。同コンテンツは平成26年6月から8月にかけてミュージアムシアターで公開する予定である。 (3)既に取得した作品のデータを元にした新コンテンツ2件を監修し、公開した | A | 順調 |
| 4571-5 | | 5) 聴力障がいを持つ児童・生徒のための鑑賞プログラムの構築に関する調査研究(学術研究助成基金助成金) 聴覚障がいをもつ児童・生徒への特別支援教育についての調査と、国内外の美術館・博物館で行われているバリアフリー化、ユニバーサル化事業の調査を行った。 | A | 順調 |
| 4571-6 | | 6) 藤ノ木古墳出土品からみた考古系博物館における展示・公開に関する総合的研究(科学研究費補助金) ・当館ならびに権原考古学研究所附属博物館が使用している非接触高精細三次元計測機の特性を把握するために、各々の機器の利点や弱点などについて把握することができた。 ・非接触三次元計測によって得られたデータについてレリーフ画像や断面形状を比較するだけでなく、データの解析処理を行うことによって、より細かなレベルでの物理的な検査が有効であることが判明した。 | A | ほぼ順調 |
| 4571-7 | | 7) 日本とドイツの美術解剖学教育の発展と展開(科学研究費補助金) 東京国立博物館所蔵の美術解剖学関係資料、特に森鶴外・久米桂一郎・黒田清輝に関する資料調査を、24年度より継続して行った。 | A | 順調 |
| 4571-8 | | 8) 文化財管理における美術品用語辞典の作成(科学研究費補助金) 文化財に関する情報を扱う施設から収集した用語データを整理、体系化した。特に分担者は、データの整理や公開方法について検討した。 | A | 順調 |
| 4572-1 | (京都国立博物館) 1) 文化財情報に関する調査研究を行う。 | 【京都国立博物館】 1) 文化財情報に関する調査研究 (1)写真資料のデジタル化を進め、ウェブサイトにおける収蔵品公開データベースの追加・更新を随時行った。 (2)収蔵品公開データベースの解説文について、研究の進展に伴う新たな見知を反映させ更新を随時行った。 (3)文化財情報システムの運用上の問題点を検討し、システムの改良を随時行った。 (4)管理棟移転を期に、研究系ネットワーク・画像処理環境の近代化を通じて作業環境を向上させた。 | A | 順調 |
| 4572-2 | 2) 新平常展示館の新装開館に向け、同館における新たな教育ツールの開発を行う。 | 2) 新平常展示館の新装開館に向けた、同館における新たな教育ツールの開発のための調査研究 | A | 順調 |

| | | | | |
|--------|--|--|---|----|
| 4572-3 | 3) 高精細デジタル複製を使用した文化財鑑賞教育について調査・研究を行う。 | (1)他館の教育ツールの調査 (2)試作品の作成と反応調査 (3)「ミュージアム・カート」に配備する教材の作成 3) 高精細デジタル複製を使用した文化財鑑賞教育についての調査研究 (1)文化財ソムリエ(大学生ボランティア)に対するスクーリングを行った(18回) (2)京都市内の小中学校への訪問授業を行った(7回) (3)『文化財に親しむ授業ガイドブック』を刊行した(1000部) | | |
| 4573-1 | (奈良国立博物館) 1) 歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究を行い、その成果を児童・生徒を対象として行う「世界遺産学習」等に反映させる。 | 【奈良国立博物館】 1) 歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究を行い、その成果を児童・生徒を対象として行う「世界遺産学習」等に反映させる。 奈良の歴史と伝統文化に関する情報を、まずは本年度開催した展覧会の中から抽出することとした。その情報を職員やボランティアが共有する機会を設け、児童・生徒が歴史への関心を高めるのに使える情報は何かを検討した。ボランティアへの指導と話合いを通して、世界遺産学習の実践の場での「語りかけ」の精度を高めることに努めた。 | A | 順調 |
| 4573-2 | 2) 文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究を行い、その成果をデジタル画像の作成・各種データベースの構築(収蔵品・画像・図書)・各種情報資源の公開推進に反映させる。 | 2) 文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究を行い、その成果をデジタル画像の作成・各種データベースの構築(収蔵品・画像・図書)・各種情報資源の公開推進に反映させる。(学術研究助成基金助成金) デジタル撮影の本格的な稼働をうけ、その安定的な継続を目指して、撮影機材、撮影環境、保存用ストレージ、体制等の整備を引き続き行い、多数の文化財を撮影した。館内の情報システムや公開用データベースのリプレイス、データ更新を適宜行い、情報資源の拡充と公開に積極的に取り組んだ。仏教美術資料研究センターにおいても、資料と施設の整備を継続的に行い、公開と見学受け入れにより、一般への普及に努めた。上記の実践と並行して、文化財アーカイブズに関する研究を進めた。 | A | 順調 |
| 4574-1 | (九州国立博物館) 1) NHKと協同で高精細画像を活用したシアター4000での映像公開に向けた研究を引き続き実施する。 | 【九州国立博物館】 1) NHKと協同で高精細画像を活用したシアター4000での映像公開に向けた研究 今回、プロジェクトシステムが機器更新を迎えることから、新しい機器の実験を通じて、最適なプロジェクトシステムの比較調査を実施した。スーパーハイビジョンシステムの将来を見据えたときに、機器の技術情報を関連企業にのみ独占させておくのではなく、当館自ら最新技術動向を把握し、調査研究を行うことで安定運用とコスト削減のバランスを図ることができた。また、新しいコンテンツを上映公開した。 | A | 順調 |
| 4574-2 | 2) 特別展のテーマに則した、解説パネル、冊子、ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムの調査研究を行う。 | 2) 特別展のテーマに則した、解説パネル、冊子、ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムの調査研究 展示室内での解説パネルの掲出、体験コーナーの設置、配布物・ジュニアガイドの作成、ワークショップ、講演会などを実施。アンケートでは、展示を楽しめた、わかりやすかった、親近感が持てた、などの感想を得た。 | A | 順調 |

| | | | | |
|--------|---|---|---|----|
| 4574-3 | 3) 学校教育との連携を図りながら、学校貸出キット「きゅうばっく」の研究・開発を引き続き実施する。 | 3) 学校教育との連携を図りながら、学校貸出キット「きゅうばっく」の研究・調査 「きゅうばっく」を貸し出した学校の実践事例を指導案の形式で収集することができた。また、福岡県教育センターのキャリアアップ講座を通して、博物館を活用した授業づくりに関する指導案を収集するとともに、「きゅうばっく」について普及を図ることができた。 | A | 順調 |
| 4574-4 | 4) 平成27年度に迎える開館10周年における一定程度のリニューアルを見据え、現在の展示施設、展示環境や展示方法の課題や展望について検討する。 | 4) 平成27年度に迎える開館10周年における一定程度のリニューアルを見据えた、現在の展示施設、展示環境や展示方法の課題や展望についての検討 (1)研究員全員参加による検討会を行い、各課題の解決や必要な展示についての共通理解を得ることができた。 (2)外部委員会「次の10年を考える懇話会」を開催し、議者や市民代表による率直な意見をうかがうことができた。 (3)上記検討の成果を関連展示1室の改修工事に反映した。 | A | 順調 |
| 4574-5 | | 5) 高等学校所蔵考古資料の調査研究 福岡県、大分県、長崎県、広島県、奈良県の高等学校所蔵資料の調査を実施して、収蔵状況における実態をつぶさに把握することができた。また兵庫県において博物館連携を進めている学校教員にヒアリングを行い、今後の指針とした。さらに福岡で開催された高校教育に関する研究会に出席し、現今の学校教育がとりまく諸問題について知見を深めた。 | A | 順調 |

5 文化財保護に関する国際協力の推進

【中期目標】文化財の保護に関する国際協力の拠点としての位置づけを明確化するとともに、その機能の充実を図り、我が国の国際貢献に寄与すること。

(1) 保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤の整備

【中期目標】研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークの構築、アジア諸国等における文化財の保護協力、技術移転・専門家養成等の支援等、有機的・総合的な事業展開を行い、人類共通の財産である文化財の保護に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与すること。

【中期計画】

- (1) 文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用する。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化を図るとともに、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア地域を中心とする諸外国の文化財の保護事業を推進する。

【主な計画上の評価指標】

- 情報の収集・分析及びその提供を行うこと。
- 国際協力のネットワークを構築すること。
- アジア地域を主とする諸外国において、文化財保護事業を進めるここと。

【24年度評価における主な指摘事項】

- 調査修復に関わる技術転移、国際的な文化財保存修復等の分野における日本の国際協力の成果をもっと広く発信することが望まれる。

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 | |
|------|--|---|------|----|
| | | | 年度 | 中期 |
| | 文化財保護に関する国際協力に関して、以下の事業を有機的・総合的に展開することにより、人類共通の財産である文化財保護に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与する。 (1) 文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤整備を行う。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化を図るとともに、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア地域を中心とする諸外国において文化財の保護事業を推進する。 | (1) | | |
| 5111 | ① 海外、特に国際協力活動の対象となる地域の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策等に関する調査を実施する。ユネスコ等が行う主要な国際会合へ出席して情報の収集を行うとともに、文化遺産の保護をめぐる今日の課題等に関する調査研究を行う。また、収集した情報の整理・公開及び比較研究等を通じて、今後の我が国の文化財保護施策の検討の用に供する。 | ① 文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信 世界遺産委員会(プロンペン)、無形文化遺産政府間委員会(バクー)等の国際会議に出席し、国際情報収集を行った。また日本の文化財の所蔵館や、他の所内業務において関連のある美術館・博物館を中心にアメリカ及びイギリスにおける動産文化財の所蔵・管理状況についての調査を行った。また、文化財保護関連の法令の収集・分析及び翻訳作業を実施し、対訳法令集シリーズを新たに1冊刊行した。さらに研究機関間の連携強化とネットワーク構築のため、国際的な研究交流を推進した。 | A | 順調 |

(2) 諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進

| 【中期目標】----- | | 【中期計画】 | 【主な計画上の評価指標】 | 【24年度評価における主な指摘事項】 | |
|-------------|---|--|--------------|--------------------|--|
| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | | 自己評価 年度 中期 | |
| 5211-1 | (2) 国際共同研究等を通じて諸外国の保存・修復の考え方や技術に関する研究を進め、国際協力を推進するための基盤を形成するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化財保護事業を推進する。 ① 文化財の保存修復事業及び国際共同研究事業を以下のように実施し、成果を広く公表する。 ア 敦煌莫高窟壁画を始めとする中国の文化遺産の保存修復のための共同研究を実施する。 | (2) ①-ア 中国の文化遺産の保存修復のための共同研究 敦煌研究院、陝西省考古研究院、中国文化遺産研究院との共同関係を維持し、外部資金も活用しつつ、壁画・石造文化財等の保護に関する共同研究、人材育成について実績を上げた。 | A | 順調 | |
| 5212-1 | イ 韓国及び日本の石造文化財を対象に保存修復のための共同研究を実施する。 | ①-イ 韓国及び日本の石造文化財を対象に保存修復のための共同研究 韓国国立文化財研究所（韓文研）とワークショップを実施し、北海道の手宮洞窟及びゴンベ洞窟で共同調査を行った。 | A | 順調 | |
| 5213 | ウ カンボジア・アンコール遺跡群（特に西トップ遺跡及びタ・ネイ遺跡）を始めとする東南アジア地域等の文化財保護に関する調査研究及び保存修復協力事業を実施する。 | ①-ウ 東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 カンボジア、タイの両国において協力事業を実施した他、ミャンマーにおける文化遺産保存に関する情報収集及び共有、その他各国の関係機関との調整等を行った。 | A | 順調 | |
| 5214 | | ①-ウ・エ カンボジア・アンコールワット遺跡群の西トップ遺跡、ベトナム・タンロン皇城遺跡の建築史的、考古学的、保存科学的調査 西トップ遺跡に関しては、遺跡の安定化を図るための修復工事に本格的にとりかかり、まず南祠堂の解体修理に着手した。本年度中に上部構造及び基壇の解体を完了し、コンクリートベース上の仮組み作業を終えた。タンロン皇城遺 | A | 順調 | |

| | | | | |
|------|---|---|---|----|
| 5215 | エ アフガニスタン（主としてバーミヤーン）及びイラクの文化財保存修復協力事業を実施する。また、併せて周辺地域（西アジア諸国等）において、文化財調査研究及び保存修復協力事業を実施する。 | 跡に関しては、ユネスコ日本信託基金による事業に協力し、総括としてのシンポジウムに参加した。 ①-エ 西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業 (1)アフガニスタン：バーミヤーン遺跡保存事業に関する調査研究、報告書の作成・刊行を実施した。 (2)イラク：保存修復専門家の人材育成・技術移転を実施した。 (3)西アジア周辺諸国の文化遺産の調査研究・保護への協力等：タジキスタン、インド、中央アジア諸国、ヨーカサス諸国、エジプトにおいて実施した。 | A | 順調 |
| 5216 | オ 上記各事業と連携しつつ、中央アジア諸国等ユーラシア地域における文化財の保存及び修復に係る調査研究を推進する。また、文化財の保存修復手法に関するワークショップの開催等を通じて国内外の専門家との情報の共有化を図る。 | ①-オ ユーラシア壁画の調査研究と保存修復 (1)タジキスタン：タジキスタン国立古代博物館所蔵フルブック遺跡出土の壁画断片の調査及び保存修復を行った。 (2)ロシア：エルミタージュ美術館と今後の協力体制の構築に向けた協議を行った。 | A | 順調 |

(3) 研修、専門家の派遣を通じた諸外国における人材育成、技術移転

| 【中期目標】----- | | 【中期計画】 | 【主な計画上の評価指標】 | 【24年度評価における主な指摘事項】 | |
|-------------|--|--|--------------|--------------------|--|
| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | | 自己評価 年度 中期 | |
| 5311 | (3) 文化財保護の担当者や学芸員及び保存修復専門家を対象とした研修や専門家の派遣を通じて諸外国における文化財の保存・修復に関する人材育成と技術移転を積極的に進める。 ① 国内外の諸機関等と連携して人材育成や技術移転等の国際支援を実施する。また海外の文化財保存担当者を対象に、国内外において和紙及び紙・絹文化財、漆及び漆文化財についての材料学・保存修復等の講義と、修復、装丁等の実技を行い、基礎的な知識を教授する。在外の日本古美術品を対象に事前調査を行い、その結果を元に修復を行う。 | (3) ①-1 國際研修「紙の保存と修復」 和紙を使用した紙本文化財の保存修復に関する研修を行った。 (1)日本国内研修：材料、美術史、装こうに関する講義、巻子修復、和絵じ冊子修復及び掛軸・屏風の取り扱い実習、和紙製造現場の視察。 (2)メキシコ研修：材料、装こう技術、装こう道具に関する講義。デンブン糊調製、和紙を用いた裏打ち、和紙を用いた強化、欠失部の補てんに関する実習。 | A | 順調 | |
| 5312 | | ①-2 在外日本古美術品保存修復協力事業 ・掛軸1作品、屏風1作品の修復を完了し、所蔵館に返還した。 ・作品修復のため、漆工芸品1作品を輸入した。 | A | 順調 | |

| | | | | |
|--|--|--|---|----|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・今後の修復候補作品選定のため、漆工芸品及び絵画の調査を行った。 ・ベルリンにおいて紙本絹文化財の保存修復に関するワークショップを開催した。 ・ケルンにおいて漆文化財の保存修復に関するワークショップを開催した <p>② ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力をを行う。</p> <p>② ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力</p> <p>集団研修ではアジア太平洋諸国 16 カ国、16 名の研修生に対して、木造建造物の保存と修復についての研修を行った。また個人研修ではキリバス人専門家 2 名に対して、遺跡の整備・活用に関する研修を行い、またバングラデシュ人専門家 3 名に対して、遺跡・遺物の調査と保存に関する研修を行なった。さらにスリランカで実施された「文化遺産ワークショップ」に協力し、講師 1 名を派遣した。こうした研修により、各国の人材育成に貢献するとともに、日本側の各国理解の一助ともなった。また国内における国際協力関係の諸機関との連携を強化することができた。</p> | A | 順調 |
|--|--|--|---|----|

(4) アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究

【中期目標】平成 23 年度にアジア太平洋無形文化遺産研究センターを開設し、同地域における無形文化遺産保護に寄与すること。

【中期計画】

- (2) 23 年度にアジア太平洋無形文化遺産研究センターを設置し、ユネスコ無形文化遺産保護条約を中心とした国際的動向の情報収集を図り、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究を行うとともに、我が国の知見を通じて、無形文化遺産保護の国際的充実に資する。

【主な計画上の評価指標】

- アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究を行うこと。

【24 年度評価における主な指摘事項】

- アジア太平洋無形文化遺産センターは、その役割がますます期待されるため、予算・人事面における拡充が望まれる。

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 | |
|------|---|--|------|----|
| | | | 年度 | 中期 |
| 5411 | (4) アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、ユネスコ無形文化遺産保護条約を中心とした国際的動向の情報収集を図り、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究推進を行うとともに、我が国の知見を通じて、無形文化遺産保護の国際的充実に資する。 | (4) アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究の推進 文化庁受託事業「平成 25 年度無形文化遺産保護パートナーシッププログラム」及び文部科学省補助金「平成 25 年度政府開発援助ユネスコ活動費補助金」事業を通じ、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護の調査研究に関する国際専門家会合、保護の現状に関する現地での実態調査、及び無形文化遺産保護に関する研修を実施した。なお、これらの事業は当センター中長期計画及び第 2 回運営理事会での承認に基づき実施されたものである。 | A | 順調 |

6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

【中期目標】国際化の推進を図るためにインターネット等による情報発信を強化し、調査・研究の成果について、迅速な報告書の発行、利用価値の高いデータベースの構築等により、適時適切な公表を推進するとともに、施設の有効活用を図ることにより、研究者をはじめ広く社会に還元すること。

(1) 情報基盤の整備充実

【中期目標】-----

【中期計画】

- (1) 文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を行う。
また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査・研究に基づく成果としてのデータベースの充実を行う。

【主な計画上の評価指標】

- ネットワークセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備充実を図ること。
○文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの充実を図ること。

【24 年度評価における主な指摘事項】

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 | |
|------|---|---|------|----|
| | | | 年度 | 中期 |
| | | | | |
| 6111 | 以下のとおり、調査・研究に基づく資料の作成及び文化財に関する資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査・研究成果を積極的に公表・公開し、国内外の研究者や広く一般の人が調査・研究成果を容易に入手できるようにする。 (1) 文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を行う。また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査・研究に基づく成果としてのデータベースの充実を行う。 ① 文化財に関するデータベースの充実とアーカイブ機能の更新と拡張を図る。 | (1) ①-1 文化財情報基盤の整備 保守期限切れを迎えるネットワーク機器の更新を実施した。また、インターネット接続について、従来の専用線から公衆回線での接続に変更した。さらに、所外からのグループウェア閲覧の利便性を図るため、VPN 接続についてタブレット端末からの閲覧を可能にするソフトウェアを導入した。 | A | 順調 |
| 6112 | | ①-2 無形文化財に関する音声・画像・映像資料のデジタル化 本年度より、旧芸能部の時代に作成された映像資料の媒体変換に着手した。画像資料に関しては、既に所蔵を公開している写真資料のデジタル化を行った。アナログ音声資料の内、オープンリールとカセットテープに関しては、収録内容の確認を含めた整理を行った。 | A | 順調 |

| | | | | |
|------|--|--|---|----|
| 6113 | | ①-3 文化財に関するデータベースの充実 文化財情報電子化の研究を通じて、GIS を活用した文化遺産情報の取得・分析に関する最新の手法を開発するとともに、研究成果を学会で発表している。開発・改良を継続している各種データベースについて、業務用とともに公開用についても、記載方法の標準化を進めながらデータの充実を図ると共に、新規データベースとして考古関連雑誌論文情報補完データベースを構築し、公開の準備を行った。 | A | 順調 |
| 6121 | ② 被災文化財関連情報に関するデータベースの充実とアーカイブ機能の更新と拡張を図る。 | ② 被災文化財関連情報に関するデータの蓄積・分析及び情報発信 平成 23 年度・24 年度に文化庁の委託により東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会事務局を運営し、また活動そのものにも携わった文化財レスキュー事業に関する情報を、同委員会の付託により収集・整理し、ウェブで公開した。 | A | 順調 |
| 6131 | ③ 文化財関係資料や図書の収集・整理・公開・提供について充実するよう努める。 | ③-1 専門的アーカイブの充実（資料閲覧室運営） 資料閲覧室の運営、ならびに資料の登録と情報のデータベース化、またそれを利用した外部公開用 SQL データの更新・運用を行った。 ③-2 図書の収集・整理・公開・提供 遺跡の発掘調査報告書、歴史的建造物の修理報告書等歴史・考古学分野を中心に図書・逐次刊行物の購入および寄贈による収集を行い、整理された資料をデータベースに蓄積してインターネットに公開した。また、移転に伴い、図書の配列を見直すことによって所在をより明らかにした。 | A | 順調 |
| 6132 | | | A | 順調 |

(2) 研究所の研究成果の発信

【中期目標】 -----

| 【中期計画】 | | 【主な計画上の評価指標】 | 【24 年度評価における主な指摘事項】 | |
|--------|--|--------------|---------------------|----|
| 【中期計画】 | | 【主な計画上の評価指標】 | 【24 年度評価における主な指摘事項】 | |
| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 | |
| | | | 年度 | 中期 |
| | (2) 文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトの充実を図るとともに、ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。 | (2) | | |

| | | | | |
|------|--|--|---|----|
| 6211 | ① 定期刊行物の刊行 ○『東京文化財研究所年報』 ○『東京文化財研究所概要』 ○『東文研ニュース』 | ①-1 定期刊行物の刊行（年報、概要、ニュース） 年報 2012 年度版、概要 2013 年度版を編集、発行した。また、『東文研ニュース』を年 2 回、『東文研ニュースダイジェスト』（英語）を年 1 回発行した。 | A | 順調 |
| 6212 | ○『美術研究』（年3冊） ○『日本美術年鑑』 | ①-2 定期刊行物の刊行（『平成 24 年度版日本美術年鑑』、『美術研究』） 本年度は、『平成 24 年度版日本美術年鑑』及び『美術研究』410～412 号を刊行した。 | A | 順調 |
| 6213 | ○『無形文化遺産研究報告』 ○『無形民俗文化財研究協議会報告書』 | ①-3 定期刊行物の刊行（『無形文化遺産研究報告』、『無形民俗文化財研究協議会報告書』） (1) 主として無形文化遺産部研究員の業績に基づく論考・報告・資料紹介等を内容とする『無形文化遺産研究報告』第 8 号を刊行した。 (2) 平成 25 年 11 月 15 日に開催した無形民俗文化財研究協議会での事例報告・総合討議を内容とする『第 8 回無形民俗文化財研究協議会報告書』を刊行した。 | A | 順調 |
| 6214 | ○『保存科学』 | ①-4 定期刊行物の刊行（『保存科学』53 号） 20 件の投稿を受け、外部査読者 2 名を含む編集委員会を中心に査読を行い、報文 4 本、報告 15 本、合計 19 本の掲載を決定した。総ページ数は 244 ページとなつた。本誌の体裁は昨年度までのものから変更をせず、650 部印刷し、関係諸機関に配布した。 | A | 順調 |
| 6215 | | ①-5 第 36 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会プロシーディングスの出版 24 年 12 月に開催した第 36 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会「文化財の微生物劣化とその対策—屋外・屋内環境、及び被災文化財の微生物劣化とその調査・対策に関する最近のトピック—」Microbial Biodeterioration of Cultural Property:Recent Topics on the Investigation of and Countermeasures for Biodeterioration of Outdoor / Indoor Properties and Disaster-affected Cultural Objects の口頭発表 15 件の内容をまとめた論文と、ポスター発表 23 件の要旨を収録したプロシーディングスを編集、出版した（26 年 1 月出版）。 | A | 順調 |
| 6216 | ○『奈良文化財研究所紀要』 ○『奈良文化財研究所概要』 ○『奈文研ニュース』 ○『埋蔵文化財ニュース』 | ①-6 定期刊行物の刊行 紀要等 2 点、ニュース 2 種 8 点、合計 10 点を刊行した。 | A | 順調 |
| 6221 | ② 公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等 ○国際シンポジウムの開催（年1回） | ②-1 第 37 回文化財の保存と修復に関する国際研究集会 26 年 1 月 10 日（金）～12 日（日）、東京文化財研究所の地下セミナー室において、第 37 回文化財の保存と修復に関する国際研究集会を開催した。最初の 2 日間は基調講演、研究発表（セッション 1～3）、3 日目は前 2 日間の研究発表に基づいたラウンドテーブルを行った。 | A | 順調 |

| | | | | |
|------|----------------------------------|---|---|----|
| 6222 | ○公開講座（オープンレクチャー）（年1回） | ②-2 平成25年度オープンレクチャー 第47回企画情報部オープンレクチャー「モノ／イメージとの対話」と題して4講演を2日間にわたり開催した（参加者数：207人、アンケートによる満足度：85%（回収率：89%）。 | A | 順調 |
| 6223 | ○公開講演会 ○現地説明会 | ②-3 公開講演会・現地説明会等の開催 (1)公開講演会は、例年実施している定例公開講演会（奈良）を2回、特別講演会（東京）を1回、飛鳥資料館特別展記念講演会を2回開催した。いずれも多くの参加者があり、日頃の奈文研研究成果を一般に発信ができた。 (2)発掘調査に伴う現地説明会等を平城地区、飛鳥藤原地区あわせて計5回実施した。このことにより調査研究成果を適時適切に国民に公開公表することができ、事業としては順調に実施できた。 | A | 順調 |
| 6231 | ③アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。 | ③-1 ウェブサイトの運用 ウェブサイトのレイアウトを更新し、毎月の活動報告（和英）の掲載、また適宜イベント情報の公開を行うとともに、それら更新情報についてメールマガジンによる情報発信を行った。 | A | 順調 |
| 6232 | | ③-2 ウェブサイトの充実 (1)ウェブサイトを多言語化対応した。 (2)リポジトリをリニューアルし、利便性が向上した。 (3)コラムを継続発信し、企画展ブログを試行した。 (4)アクセス解析を開始した。 | A | 順調 |

（3）研究所所管の展示公開施設の充実

| 【中期目標】 ----- | | | | |
|--------------|---|--------------|--------------------|----|
| 【中期計画】 | | 【主な計画上の評価指標】 | 【24年度評価における主な指摘事項】 | |
| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 | |
| | | | 年度 | 中期 |
| | (3) 平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示を充実させ、調査・研究成果の内容を広く一般に理解を深めてもらうことに資する。来館者数については、前期中期目標期間の年度平均（特別展示等による来館者数の著しい変動実績を除く。）以上確保すること。 | (3) | | |

| | | | | |
|------|--|--|---|----|
| 6311 | ① 平城宮跡資料館における展示・公開常設展（月曜日、年末年始休館）特別展（年1回）企画展（年1回）年間目標来館者数 85,300人 | ① 平城宮跡資料館における展示公開 (1)常設展の円滑な実施のため、その維持・管理に努めた。 (2)春期企画展「発掘情報展平城2012」を25年3月16日～6月2日に開催した。 (3)夏期企画展「平城京どうぶつえん」を25年7月13日～9月23日に開催した。 (4)秋期特別展「地下の正倉院展－木簡学ことはじめ／平城宮・京の発掘調査の50年」を25年10月19日～12月1日に開催した。 | A | 順調 |
| 6321 | ② 飛鳥資料館における常設展示の充実と特別展示の開催常設展（月曜日、年末年始休館 有料公開）特別展（年2回）企画展（年1回以上）年間目標来館者数 48,800人 | ② 飞鳥資料館における展示公開 (1)第1展示室の展示内容を部分的に改装し、特別陳列室の内装を全面的に改装。重量石像物の床補強を実施した。 (2)第3回写真コンテスト「神々の山一大和三山のある風景」（作品展示25年3月9日～4月14日）を開催した。 (3)春期特別展「飛鳥寺2013」を25年4月26日～6月2日に開催し、記念講演会を25年5月18日に開催した。 (4)春のミニ展示「坂田武嗣「風景の記憶」」を25年5月1日～6月30日に開催した。 (5)夏期企画展「飛鳥・藤原を考古科学する」を25年8月1日～9月1日に開催し、ギャラリートークを25年8月4日、8月18日に実施した。 (6)第4回写真コンテスト「飛鳥川の導」（作品展示25年9月7日～10月6日）を開催した。 (7)明日香村活性化事業「飛鳥光の回廊」に参加した。（25年9月14日開催、15日は台風のため中止） (8)ミニ企画展「日光男体山のかがやき－山岳信仰奉賽鏡の世界－」を25年9月10日～9月16日に開催した。 (9)秋期特別展「飛鳥・藤原京への道」を25年10月18日～12月1日に開催し、記念講演会を25年11月16日に開催した。 (10)「発見30周年記念キトラ古墳壁画特別公開」を26年1月17日～1月26日を開催した。 (11)冬期企画展「飛鳥の考古学2013」を26年2月14日～3月16日に開催した。 | A | 順調 |
| 6331 | ③ 藤原宮跡資料室における展示・公開常設展（年末年始休館 無料公開）年間目標来館者数 4,509人 | ③ 藤原宮跡資料室における展示公開 常設展示及び発掘調査成果の速報展示などを通年で実施し、展示公開の充実を図った。庁舎エントランスの速報展示コーナーでは、最新の調査研究成果の公開を実施した。その他、適宜展示解説や各地の博物館への文化財貸与を行った。 | A | 順調 |

| 定量評価 | 25年度 | 24年度 | 目標値 | 評定 |
|---------|---------|---------|--------|----|
| 来館者数 | | | | |
| 平城宮跡資料館 | 108,896 | 124,515 | 85,300 | A |
| 飛鳥資料館 | 41,736 | 38,854 | 48,800 | B |
| 藤原宮跡資料室 | 7,869 | 9,510 | 4,509 | S |

(4) 文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力

【中期目標】 -----

【中期計画】

- (4) 文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力し、支援を実施する。また、宮跡等への来訪者に文化財及び文化財研究所の研究成果等に関する理解を深めてもらうため、解説ボランティアを育成するとともに、NPO法人等が自主的に行う各種ボランティア事業に対して活動機会・場所の提供等の支援を行う。

【主な計画上の評価指標】

- 文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力すること。また、ボランティアへの活動支援を行うこと。

【24年度評価における主な指摘事項】

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 | |
|------|--|---|------|----|
| | | | 年度 | 中期 |
| 6411 | (4) 文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力し、支援を実施する。また、宮跡等への来訪者に文化財及び奈良文化財研究所の研究成果等に関する理解を深めてもらうため、解説ボランティアを育成するとともに、NPO法人等が自主的に行う各種ボランティア事業に対して活動機会・場所の提供等の支援を行う。 ① 文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 ○ 文化庁が行う平城宮跡、藤原宮跡の管理への協力 ○ 国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院復原への協力 ○ 国土交通省が行う平城宮跡展示館（仮称）の建設への協力 ○ 国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地内の体験学習館の建設への協力 | (4) ①-1 文化庁平城宮跡管理事務所の運営への協力 文化庁平城宮跡管理事務所が行う文化庁施設の公開・活用等における連携協力、文化庁の各種行事、発掘調査等の連絡調整及び文化庁施設の維持管理及び修繕等に対して提案、助言、連絡調整等協力し、文化庁の平城宮跡等整備事業に協力した。 | A | 順調 |
| 6412 | | ①-2 文化庁・国土交通省が行う平城宮跡の復原・整備への協力 (1) 第一次大極殿院の建物復原にあたり、所内検討会及び有識者を招聘した検討会を開催し、記録集を作成した。 (2) 平城宮跡の整備設計・工事等に対して、設計条件の整理、提出資料に対する助言、立会調査等を実施した。 (3) 文化庁や国土交通省が開催する会議等に対して、専門的・技術的な援助・助言を行った。 | A | 順調 |
| 6413 | | ①-3 国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地内の体験学習館の建設への協力 (1)国営飛鳥歴史公園事務所の依頼に基づき、キトラ古墳体験学習館の展示に資する奈文研所蔵資料一覧を作成、提示した。 (2)断続的に担当者間で調整・協議を行った。 | A | 順調 |

| | | | | |
|------|---------------------------------|--|---|----|
| 6414 | | ①-4 国土交通省が行う平城宮跡展示館（仮称）の建設への協力 (1)平城宮跡展示館における公園案内ゾーン、ガイダンスゾーンの展示内容に関する指導ならびに必要な情報提供を行った。 (2)平城宮跡展示館における詳覧ゾーンの基本設計の見直しを、設計業者の委託を受け、行つた。 (3)平城宮跡展示館と平城宮跡内の他施設との役割分担を検討した。 | A | 順調 |
| 6421 | ② 平城宮跡解説ボランティア事業の実施 | ② 平城宮跡解説ボランティア事業の実施 高い知識に基づく解説をより多くの来訪者に効率よく行い、文化財への理解を大いに広げることができた。 | A | 順調 |
| 6431 | ③ 平城宮跡防災・防犯パトロール「平城宮跡みまもり隊」への参加 | ③ 平城宮跡防災・防犯パトロール「平城宮跡みまもり隊」への参加 平城宮跡来訪者に平城宮跡内でのマナーの向上や防災・防犯活動を行っていることを理解してもらうことができた。 | A | 順調 |
| 6441 | ④ NPO法人等への支援 | ④ NPO法人等への支援 ボランティア団体への支援は、その育成につながった。平成25年度文化庁長官表彰において、特定非営利活動法人平城宮跡サポートネットワークが選ばれた。 | A | 順調 |

7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

【中期目標】我が国の文化財に関する調査・研究の中核として、これまでの調査・研究の成果を活かし、地方公共団体や大学、研究機関とのネットワークや連携協力体制を構築し、機構が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を図り、我が国全体の文化財の収集・展示、調査・研究の質的向上に寄与すること。また、地方公共団体等の指導者層を主たる対象とする高度な研修事業や、若手研究者の育成に寄与するため実践的な連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成すること。

【中期計画】

我が国の文化財に関する調査・研究の中核として、これまでの調査・研究の成果を活かし、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行うことにより、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与する。また、専門指導者層を対象とした研修等を行い、文化財保護に必要な人材を養成する。

- (1) 地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本法人が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。
- (2) 文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等で中核となる文化財担当者に対し埋蔵文化財等に関する研修を実施するとともに、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を実施する。

【主な計画上の評価指標】

○文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行うこと。
○地方公共団体等で中核となる文化財担当者に対し埋蔵文化財等に関する研修を実施すること。また、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を実施すること。

【24年度評価における主な指摘事項】

○助言を受け付ける専門部署の設置や助言の申し込みに関する広報などを考慮してほしい。

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 | |
|------|---|--|------|----|
| | | | 年度 | 中期 |
| 7111 | 我が国の文化財に関する調査・研究の中核として、これまでの調査・研究の成果を活かし、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行うことにより、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与する。また、専門指導者層を対象とした研修等を行い、文化財保護に必要な人材を養成する。 (1) 地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本法人が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。 | ①-1 文化財の収集、保管に関する指導助言 各研究員の専門的知識を活かして、地方公共団体等の行う文化財の収集、保存、展示に対して指導、助言を行った。 | A | 順調 |
| | | | | |
| 7112 | | ①-2 無形文化遺産に関する助言 平成25年度は、無形文化遺産の保存・伝承・活用等に関して、文化庁文化財部伝統文化課に対する助言を始め、9件の助言を実施した。 | A | 順調 |

| | | | | |
|------|---|--|---|----|
| 7113 | | ①-3 文化財の修復及び整備に関する調査・助言 本年度は、件数として44件を数え、指導助言先やその内容も多岐にわたり、複数回の指導助言に及んだものもある。 | A | 順調 |
| 7114 | | ①-4 文化財の虫菌害に関する調査・助言 本年度は、対応件数が33件であり、指導助言先も多岐にわたり、複数回の指導助言に及んだ場合もあった。今後も継続して指導助言を実施し、適正に文化財の虫菌害対策が実施されるよう努めるとともに、新たな知見を得ながら的確な指導助言が行えるように努力する。 | A | 順調 |
| 7115 | | ①-5 文化財の材質・構造に関する調査・助言 平成25年度は、蛍光X線分析やX線回折分析による材質調査、X線透過撮影による構造調査などの調査・助言を実施した。 | A | 順調 |
| 7116 | | ①-6 美術館・博物館等の環境に関する調査・助言 国指定品の収蔵、展示を予定する35館を対象とした環境調査を行い、報告書を作成した。また、全国の多くの文化財施設などからの保存環境に関する相談に対して、必要な対応を行った。 | A | 順調 |
| 7117 | | ①-7 地方公共団体等の要請による発掘調査等への協力・援助 対応した計7件の発掘調査は、主として個人住宅等の建設に伴う事前調査で、緊急性を要する調査に効率よく対応し、平城宮跡及びその隣接地、あるいは平城京の寺院跡などについての基礎資料を継続的に蓄積することができた。また、対応した立会調査は、当該地区における小規模開発に伴って、計7件に的確に対応し、当初の目的を達することができた。 | A | 順調 |
| 7118 | | ①-8 地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言 藤原宮跡において地方公共団体が行う発掘調査への援助・助言の事業は10件あり、主に工事に伴う事前調査や立会である。緊急性を要する事前調査に効率よく対応し、藤原宮ならびに飛鳥・藤原地域についての基礎資料を継続的に蓄積している。 | A | 順調 |
| 7119 | | ①-9 地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言 地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等の事業について、専門委員会委員への就任等を通して、建造物修理、史跡整備、出土文字資料調査、発掘調査等に関する専門的・技術的な助言を行った。 | A | 順調 |
| 7121 | ② これまで蓄積した調査・研究の成果を活かし、他機関等との共同研究及び受託研究を実施する。 | ② 他機関等との共同研究及び受託研究を実施 地方公共団体等が行う文化財の調査・整備・修復・保存・活用等について、これまで蓄積した調査・研究の成果を活かし、受託研究等を行った。 | A | 順調 |
| 7131 | ③ 東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査について、地方公共団体等に対する支援・協力を実施する。 | ③ 東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対する地方公共団体等への支援・協力 東日本大震災被災地の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対し、今までの調査・研究の成果を踏まえ、一般的な発掘調査への支援はもとより、奈文研の特性を踏まえた技術について、地方公共団体等の要請を受け支援・協力を実施した。 | S | 順調 |

| | | | | | | |
|------|--|---|------|------|-----|----|
| 7140 | (年度計画外に実施) | <p>福島県内被災文化財等救援事業（福島文化財レスキュー事業）</p> <p>○福島県の支援要請を受けた文化庁の要請に拠り、文化庁、福島県被災文化財等救援本部及び関係団体と連携協力して福島県内被災文化財等救援事業を実施する体制として、機構本部に「福島県内被災文化財等救援事務局」を設置した（25年7月19日）。</p> <p>○旧警戒区域内の下記2施設において、被災文化財の救援事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 富岡町歴史民俗資料館 (2) 双葉町歴史民俗資料館 <p>○福島県被災文化財等救援本部と共同で「福島県内被災文化財レスキュー会議・福島県被災文化財等救援本部会議」を2回開催した。（9月3日、26年3月3日）</p> <p>○「福島県被災文化財等救援本部幹事会（第4回）」に出席した。（9月25日、機構出席者2人）</p> <p>○旧警戒区域内の被災文化財等救出対象リストの作成について、福島県被災文化財等救援本部へ指導・助言を行った。</p> | S | 順調 | | |
| 7211 | (2) 文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体などで中核となる文化財担当者に対し埋蔵文化財等に関する研修を実施するとともに、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を実施する。 ① 埋蔵文化財及びその他文化財の担当者研修の実施 専門研修9課程、研修人数延べ117人 | (2) | A | 順調 | | |
| 7221 | ② 博物館・美術館等の保存担当学芸員研修の実施 期間2週間、受講生25名程度 | <p>① 文化財担当者研修 遺跡の発掘調査や保存・整備等に関し、必要な知識と技術の研鑽を図るため、地方公共団体等の埋蔵文化財担当者を対象として、専門研修9課程の研修を実施し、延べ138名が受講した。研修受講者全員に対するアンケート調査では、全員から「有意義だった」「役に立った」との回答を得ており、充実した研修が実施できた。</p> <p>② 博物館・美術館等保存担当学芸員研修 第30回保存担当学芸員研修、第18回及び第19回資料保存地域研修を、それぞれの趣旨に沿ったプログラムのもとで実施し、非常に高い満足度を得た。</p> | A | 順調 | | |
| 7231 | ③ 東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育等の推進 ○ 東京藝術大学：システム保存学(保存環境学、修復材料学) ○ 京都大学：共生文明学（文化・地域環境論） ○ 奈良女子大学：比較文化学（文化史論） | <p>③-1 東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進 保存環境計画論、修復計画論、修復材料学特論、保存環境学特論をシラバスに則り開講した。また文化財保存学演習（文化財保存学専攻修士課程1年対象）を1コマ担当した。平成25年度修士課程1年に、1名の学生を受け入れ、修士論文指導を行った。</p> <p>③-2 京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進 京都大学大学院人間・環境学研究科において6名、奈良女子大学大学院人間文化研究科において2名の研究職員が、客員教授・准教授として各専門分野に関する講義、演習、実習を通して、大学院生の研究指導を行った。</p> <p>なお、平成25年度の受入生数は京都大学38名、奈良女子大学5名であった。その他、奈良大学と協定を締結し、4名の研究職員が非常勤講師として、学部生の教育を行った。</p> | A | 順調 | | |
| 7232 | | 定量評価 | 25年度 | 24年度 | 目標値 | 評定 |

| | | | | | | | |
|--|--|-------------|---------|-----|-----|---|---|
| | | 埋蔵文化財担当者研修 | 課程数（課程） | 9 | 12 | 9 | A |
| | | 研修受講者数（延べ人） | 138 | 156 | 117 | A | |
| | | 保存担当学芸員研修 | 期間（週間） | 2 | 2 | 2 | A |
| | | 受講生（名） | 30 | 30 | 25 | A | |

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためのべき措置

1 一般管理費等の削減

【中期目標】業務運営に関しては、「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」(平成22年12月7日閣議決定)等を踏まえ、国立文化財機構の活性化が損なわれないよう十分配慮しつつ、一層の業務の効率化を推進することにより、文化財購入等の効率化になじまない特殊要因経費を除き、中期目標の期間中、一般管理費については15%以上、業務経費についても5%以上の効率化を図ること。ただし、人件費については次項に基づいた効率化を図る。

なお、19年度の法人統合に伴い、機構の業務運営に際しては、平成23年度までの統合後5年間で、19年度一般管理費（物件費）の10%相当の経費削減を図ること。

【中期計画】

1 中期目標の期間中、一般管理費については15%以上、業務経費については5%以上の効率化を行う。ただし、文化財購入費、文化財修復費等の特殊要因経費はその対象としない。また、人件費については次項に基づき取組むこととし、本項の対象としない。
なお19年度の法人統合に伴い、機構の業務運営に際しては、平成23年度までの統合後5年間で、19年度一般管理費（物件費）の10%相当の経費を削減する。
このため、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、事務、事業、組織等の見直しや、公用車の運転業務など外部委託できる業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。

具体的には下記の措置を講じる。

- (1) 共通的な事務の一元化による業務の効率化
- (2) 計画的なアウトソーシング
- (3) 使用資源の減少
 - ・省エネルギー (エネルギー使用量は、5年計画期間中に5%削減)
 - ・廃棄物減量化
 - ・リサイクルの推進

【主な計画上の評価指標】

- 中期目標の期間中、一般管理費15%以上、業務経費5%以上の業務の効率化を図ること。
- 共通的な事務の一元化を図ること。
- 計画的なアウトソーシングを図ること。
- エネルギー使用量は、5年計画期間中に5%の削減を図ること。
- 廃棄物の減量化を図ること。
- リサイクルの推進を図ること。
- 競争性のある契約への移行を推進すること。
- 民間競争入札等の推進を図ること。

【24年度評価における主な指摘事項】

- 効率化自体が博物館事業・研究所事業の健全な運営を圧迫しつつある現状が少なからず認められるので、総予算の削減については、もはや限界に達したと考えられる。

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 | |
|------|--|--|------|----|
| | | | 年度 | 中期 |
| 9110 | 1 一般管理費の削減 <ol style="list-style-type: none"> (1) 共通的な事務の一元化による業務の効率化 <ol style="list-style-type: none"> 1) 財務、人事、企画事務の共通的な事務の一元化を推進し、事務の効率化を引き続き図る。 2) 国立博物館各館における翌年度以降の展覧会企画等について「研究・学芸系職員連絡協議会」において連絡・調整を行い、企画機能強化を図る。 | 1 一般管理費の削減 <ol style="list-style-type: none"> (1) 共通的な事務の一元化による業務の効率化 <ol style="list-style-type: none"> 1) 共通的な事務の一元化と事務の効率化のため、機構共通の業務システムである、グループウェア、財務会計システム、人事給与統合システム、web給与明細システムの運用を継続した。 2) 国立博物館各館及び各研究成果公開施設における25~29年度の展覧会予定表を毎月更新し、研究調整役を中心企画調整を継続するとともに、「研究・学芸系職員連絡協議会」を開催し、連絡・調整を行った。 | A | 順調 |

| | 3) 機構共通のネットワーク及びシステムにより、業務の効率的な運用及び情報の共有化を引き続き推進する。 | 3) 機構共通の業務システムである、グループウェア「サイボウズ」、財務会計システム「GrowOne」、人事給与統合システム「U-PDS」、web給与明細システム「U-PHS HR」の各システムの基盤となるネットワーク「機構VPN(Virtual Private Network)」の運用を継続した。 ・グループウェア「サイボウズ」の本運用サーバーについて、障害発生時に業務への影響が少ないサーバー構成について検討した結果、専用のストレージサーバーを構築することとし、20年3月に調達を行った。26年4月以降、セットアップを行う予定である。 ・人事給与統合システム「U-PDS」及びweb給与明細システム「U-PHS HR」のバージョンアップを行った。(25年12月) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|---|--|---------------|--------|------|------|----|-----|-----|---------|---------|--------|--------|-----|--------|--------|-------|-------|-----|---------|---------|--------|--------|---|---------|---------|---------|--------|---|----|
| 9120 | (2) 計画的なアウトソーシング <p>以下の業務の外部委託を継続して実施する。</p> <p>(東京国立博物館)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料館業務の一部 ・施設内店舗業務 (京都国立博物館) ・看視案内業務及び設備保全業務の一部 ・受付・案内・警備業務、売札業務及び清掃業務 (奈良国立博物館) ・建物設備の運転・管理業務 ・警備及び看視案内の一部並びに売札及び清掃業務 (九州国立博物館) ・建物設備の運転・管理業務等 ・警備業務、看視案内業務及び清掃業務 (東京文化財研究所・奈良文化財研究所) ・警備業務、清掃業務及び建物設備の運転・管理業務等 | (2) 計画的なアウトソーシング <ul style="list-style-type: none"> ・全ての施設において、電気設備保守業務、機械設備保守業務、昇降機設備保守点検業務、売札業務、各種事務補助作業、清掃業務、構内樹木等維持管理業務等について、民間委託を実施している。 ・博物館は警備・展示室監視等業務の大部分を民間委託している。また、研究所は警備業務の全てを民間委託している。 ・博物館の来館者サービスに関しては、インフォメーション業務、図書・写真資料を閲覧等の利用に供するサービス及び図書整理業務等について民間委託を実施している。 ・東京国立博物館及び東京文化財研究所における施設管理・運営業務（展示等の企画運営を除く）及び東京国立博物館展示場における来館者等対応業務について民間競争入札を実施している。 | A | 順調 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9130 | (3) 使用資源の減少 <ul style="list-style-type: none"> ・省エネルギー 1) 光熱水量の使用状況を把握し、管理部門を中心に引き続き節減に努める。 (エネルギー使用量は、5年計画期間中に5%削減) ・廃棄物減量化 1) 使用資源の節減に努め、廃棄物の減量化に引き続き努める。 ・リサイクルの推進 1) 廃棄物の分別収集を徹底し、リサイクルを引き続き推進する。 | (3) 使用資源の減少 <ul style="list-style-type: none"> ・日常の節電節水の周知徹底、クールビズ・ウォームビズの推進、冷暖房の省エネ運転等を行った。 ・廃棄物削減では、両面印刷の励行、館内LAN・電子メール等の活用を引き続き行い、会議でのiPad活用による文書のペーパーレス化を実施した。 ・リサイクルの実施（廃棄物の分別収集、リサイクル業者への古紙売り払い、再生紙の発注等） <p>使用資源の推移等</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>光熱水料金 （千円）</th> <th>項目</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>差額</th> <th>増減率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電気料</td> <td>414,971</td> <td>496,266</td> <td>81,295</td> <td>19.59%</td> </tr> <tr> <td>水道料</td> <td>83,236</td> <td>87,249</td> <td>4,013</td> <td>4.82%</td> </tr> <tr> <td>ガス料</td> <td>129,406</td> <td>180,761</td> <td>51,355</td> <td>39.69%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>627,613</td> <td>764,276</td> <td>136,663</td> <td>21.78%</td> </tr> </tbody> </table> | 光熱水料金 （千円） | 項目 | 24年度 | 25年度 | 差額 | 増減率 | 電気料 | 414,971 | 496,266 | 81,295 | 19.59% | 水道料 | 83,236 | 87,249 | 4,013 | 4.82% | ガス料 | 129,406 | 180,761 | 51,355 | 39.69% | 計 | 627,613 | 764,276 | 136,663 | 21.78% | A | 順調 |
| 光熱水料金 （千円） | 項目 | 24年度 | 25年度 | 差額 | 増減率 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 電気料 | 414,971 | 496,266 | 81,295 | 19.59% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 水道料 | 83,236 | 87,249 | 4,013 | 4.82% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ガス料 | 129,406 | 180,761 | 51,355 | 39.69% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | 627,613 | 764,276 | 136,663 | 21.78% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | <p>※電気料は、下記の特殊要因により使用量・料金ともに増額となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気料特殊要因①：原料高騰、再生可能エネルギー発電促進賦課金の賦課による契約単価と燃料調整費の上昇により増額となった。 ・電気料特殊要因②：東京国立博物館における東洋館の通年開館及び黒田記念館の一部開館により使用量が増加した。 ・電気料特殊要因③：京都国立博物館における平成知新館（平常展示館）の開館準備により使用量が増加した。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>事項</th><th>24年度単価 (円/kwh)</th><th>25年度単価 (円/kwh)</th><th>差 (円/kwh)</th><th>単価影響額 (千円)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電気料特殊要因①</td><td>17.1</td><td>19.3</td><td>2.2</td><td>50,132</td></tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事項</th><th>増加量 (kwh)</th><th>25年度単価 (円/kwh)</th><th>単価影響額 (千円)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電気料特殊要因②</td><td>532,642</td><td>21.6</td><td>11,505</td></tr> <tr> <td>電気料特殊要因③</td><td>1,124,635</td><td>23.0</td><td>25,867</td></tr> </tbody> </table> <p>※水道料は、東京国立博物館における東洋館及び黒田記念館の開館、奈良文化財研究所における発掘現場から大量に出土した遺物洗浄のための水道利用増により、増額となった。</p> <p>※ガス料は、下記の特殊要因により使用量・料金ともに増額となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガス料特殊要因①：原料高騰により契約単価が上昇した。 ・ガス料特殊要因②：東京国立博物館における東洋館の通年開館により使用量が増加した。 ・ガス料特殊要因③：京都国立博物館における平成知新館（平常展示館）の開館準備により使用量が増加した。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>事項</th><th>24年度単価 (円/m³)</th><th>25年度単価 (円/m³)</th><th>差 (円/m³)</th><th>単価影響額 (千円)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ガス料特殊要因①</td><td>81.7</td><td>96.4</td><td>14.7</td><td>24,157</td></tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事項</th><th>増加量 (m³)</th><th>25年度単価 (円/m³)</th><th>単価影響額 (千円)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ガス料特殊要因②</td><td>72,624</td><td>87.3</td><td>6,340</td></tr> <tr> <td>ガス料特殊要因③</td><td>232,460</td><td>139.1</td><td>32,335</td></tr> </tbody> </table> | 事項 | 24年度単価 (円/kwh) | 25年度単価 (円/kwh) | 差 (円/kwh) | 単価影響額 (千円) | 電気料特殊要因① | 17.1 | 19.3 | 2.2 | 50,132 | 事項 | 増加量 (kwh) | 25年度単価 (円/kwh) | 単価影響額 (千円) | 電気料特殊要因② | 532,642 | 21.6 | 11,505 | 電気料特殊要因③ | 1,124,635 | 23.0 | 25,867 | 事項 | 24年度単価 (円/m³) | 25年度単価 (円/m³) | 差 (円/m³) | 単価影響額 (千円) | ガス料特殊要因① | 81.7 | 96.4 | 14.7 | 24,157 | 事項 | 増加量 (m³) | 25年度単価 (円/m³) | 単価影響額 (千円) | ガス料特殊要因② | 72,624 | 87.3 | 6,340 | ガス料特殊要因③ | 232,460 | 139.1 | 32,335 | |
|----------|-------------------|---|---------------|-------------------|-------------------|-----------|---------------|----------|------|------|-----|--------|----|-----------|-------------------|---------------|----------|---------|------|--------|----------|-----------|------|--------|----|------------------|------------------|----------|---------------|----------|------|------|------|--------|----|----------|------------------|---------------|----------|--------|------|-------|----------|---------|-------|--------|--|
| 事項 | 24年度単価 (円/kwh) | 25年度単価 (円/kwh) | 差 (円/kwh) | 単価影響額 (千円) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 電気料特殊要因① | 17.1 | 19.3 | 2.2 | 50,132 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事項 | 増加量 (kwh) | 25年度単価 (円/kwh) | 単価影響額 (千円) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 電気料特殊要因② | 532,642 | 21.6 | 11,505 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 電気料特殊要因③ | 1,124,635 | 23.0 | 25,867 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事項 | 24年度単価 (円/m³) | 25年度単価 (円/m³) | 差 (円/m³) | 単価影響額 (千円) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ガス料特殊要因① | 81.7 | 96.4 | 14.7 | 24,157 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事項 | 増加量 (m³) | 25年度単価 (円/m³) | 単価影響額 (千円) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ガス料特殊要因② | 72,624 | 87.3 | 6,340 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ガス料特殊要因③ | 232,460 | 139.1 | 32,335 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | <p>特殊要因を考慮した光热水料金 (千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事項</th><th>24年度</th><th>25年度</th><th>差額</th><th>増減率</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電気料 (※)</td><td>414,971</td><td>408,762</td><td>△6,209</td><td>△1.50%</td></tr> <tr> <td>水道料</td><td>83,236</td><td>87,249</td><td>4,013</td><td>4.82%</td></tr> <tr> <td>ガス料 (※)</td><td>129,406</td><td>117,929</td><td>△11,477</td><td>△8.87%</td></tr> <tr> <td>計</td><td>627,613</td><td>613,940</td><td>△13,673</td><td>△2.18%</td></tr> </tbody> </table> <p>※電気料・ガス料については特殊要因を勘案して算定。</p> <p>廃棄物排出量 (kg)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事項</th><th>24年度</th><th>25年度</th><th>差額</th><th>増減率 (%)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般廃棄物</td><td>245,438</td><td>238,041</td><td>△7,397</td><td>△3.01%</td></tr> </tbody> </table> | 事項 | 24年度 | 25年度 | 差額 | 増減率 | 電気料 (※) | 414,971 | 408,762 | △6,209 | △1.50% | 水道料 | 83,236 | 87,249 | 4,013 | 4.82% | ガス料 (※) | 129,406 | 117,929 | △11,477 | △8.87% | 計 | 627,613 | 613,940 | △13,673 | △2.18% | 事項 | 24年度 | 25年度 | 差額 | 増減率 (%) | 一般廃棄物 | 245,438 | 238,041 | △7,397 | △3.01% | | |
|-------------------|---|--|---------|---------|--------|--------|---------|-------------------|---------|---------|---------|---------|------------------|---------|---------|---------|---------|------------------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|--------|-------|----------|-------|-------|---------|-----------|---------|---------|--------|--------|---|----|
| 事項 | 24年度 | 25年度 | 差額 | 増減率 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 電気料 (※) | 414,971 | 408,762 | △6,209 | △1.50% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 水道料 | 83,236 | 87,249 | 4,013 | 4.82% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ガス料 (※) | 129,406 | 117,929 | △11,477 | △8.87% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | 627,613 | 613,940 | △13,673 | △2.18% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事項 | 24年度 | 25年度 | 差額 | 増減率 (%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 一般廃棄物 | 245,438 | 238,041 | △7,397 | △3.01% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9140 | <p>(4) 自己収入の増大</p> <p>独立行政法人整理合理化計画（19年12月24日閣議決定）の方針に基づき設定した外部資金の活用及び自己収入の増大に向けた定量的目標の達成を、引き続き目指す。</p> <p>1) 機構全体において、入场料収入（共催展を除く）及びその他収入について、1.16%の増加を目指す。</p> <p>2) 機構全体において、寄附金226件及び科学研究費補助金76件の確保を目指す。</p> | <p>(4) 自己収入の増大</p> <p>1) 定量的目標を設定した自己収入については、下表のとおり 5.91%となり、目標を上回った。 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自己収入基準額</td> <td>894,510</td> <td>904,886</td> <td>915,383</td> </tr> <tr> <td>自己収入目標額</td> <td>904,886</td> <td>915,383</td> <td>926,001</td> </tr> <tr> <td>自己収入実績額</td> <td>821,470</td> <td>880,271</td> <td>968,819</td> </tr> <tr> <td>増加率</td> <td>△8.17%</td> <td>△2.72%</td> <td>5.91%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※受託研究・受託事業を除く。</p> <p>※自己収入目標額は、前年度の目標額から 1.16%増加した場合の額。</p> <p>※増加率は、自己収入基準額（前年度の目標額）に対する増加率。</p> <p>2) 下表のとおり、寄附金及び科学研究費補助金ともに目標件数を上回ることができた。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標値</th> <th>平成25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>寄附金</td> <td>226 件</td> <td>486 件</td> </tr> <tr> <td>科学研究費補助金</td> <td>76 件</td> <td>95 件</td> </tr> </tbody> </table> | | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 自己収入基準額 | 894,510 | 904,886 | 915,383 | 自己収入目標額 | 904,886 | 915,383 | 926,001 | 自己収入実績額 | 821,470 | 880,271 | 968,819 | 増加率 | △8.17% | △2.72% | 5.91% | | 目標値 | 平成25年度 | 寄附金 | 226 件 | 486 件 | 科学研究費補助金 | 76 件 | 95 件 | A | 順調 | | | | | | |
| | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 自己収入基準額 | 894,510 | 904,886 | 915,383 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 自己収入目標額 | 904,886 | 915,383 | 926,001 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 自己収入実績額 | 821,470 | 880,271 | 968,819 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 増加率 | △8.17% | △2.72% | 5.91% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 目標値 | 平成25年度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 寄附金 | 226 件 | 486 件 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科学研究費補助金 | 76 件 | 95 件 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | <table border="1"> <thead> <tr> <th>定量評価</th> <th>25年度</th> <th>24年度</th> <th>目標値</th> <th>評定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般管理費の効率化(対前年度比%)</td> <td>10.88%減</td> <td>6.44%減</td> <td>3.20%</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>業務経費の効率化(対前年度比%)</td> <td>2.61%減</td> <td>0.89%減</td> <td>1.03%</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>光热水料費の削減(対前年度比%)</td> <td>2.18%減</td> <td>3.90%減</td> <td>1.03%</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>自己収入増加率</td> <td>5.91%</td> <td>2.72%減</td> <td>1.16%</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>寄附金件数</td> <td>486 件</td> <td>438 件</td> <td>226 件</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>科学研究費採択件数</td> <td>95 件</td> <td>76 件</td> <td>76 件</td> <td>A</td> </tr> </tbody> </table> | 定量評価 | 25年度 | 24年度 | 目標値 | 評定 | 一般管理費の効率化(対前年度比%) | 10.88%減 | 6.44%減 | 3.20% | S | 業務経費の効率化(対前年度比%) | 2.61%減 | 0.89%減 | 1.03% | S | 光热水料費の削減(対前年度比%) | 2.18%減 | 3.90%減 | 1.03% | S | 自己収入増加率 | 5.91% | 2.72%減 | 1.16% | S | 寄附金件数 | 486 件 | 438 件 | 226 件 | S | 科学研究費採択件数 | 95 件 | 76 件 | 76 件 | A | A | 順調 |
| 定量評価 | 25年度 | 24年度 | 目標値 | 評定 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 一般管理費の効率化(対前年度比%) | 10.88%減 | 6.44%減 | 3.20% | S | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 業務経費の効率化(対前年度比%) | 2.61%減 | 0.89%減 | 1.03% | S | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 光热水料費の削減(対前年度比%) | 2.18%減 | 3.90%減 | 1.03% | S | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 自己収入増加率 | 5.91% | 2.72%減 | 1.16% | S | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 寄附金件数 | 486 件 | 438 件 | 226 件 | S | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科学研究費採択件数 | 95 件 | 76 件 | 76 件 | A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

2 給与水準の適正化等

【中期目標】給与水準については、「公務員の給与改定に関する取扱いについて」（平成 22 年 11 月 1 日閣議決定）を踏まえ、国家公務員の給与水準等を十分考慮して、検証したうえで、業務の特殊性を踏まえた適切な目標水準・目標期限を設定し、その適正化に取組むとともに、検証結果や取組状況を公表すること。
総人件費についても、平成 23 年度はこれまでの人事費改革の取組を引き続き着実に実施するとともに、平成 24 年度以降は、今後進められる独立行政法人制度の抜本的な見直しを踏まえ、厳しく見直すこと。

【中期計画】

2 国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については現状を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。また、これまでの人事費改革の取り組みを平成 23 年度まで継続するとともに、平成 24 年度以降は、今後進められる独立行政法人制度の抜本的な見直しを踏まえ、取り組むこととする。ただし、人事院勧告を踏まえた給与改定分及び競争的資金により雇用される任期付職員に係る人件費については本人件費改革の削減対象から除く。

なお、削減対象の「人件費」の範囲は、各年度中に支給した報酬（給与）、賞与、その他の手当の合計額とし、退職手当、福利厚生費は含まない。

【主な計画上の評価指標】

○自己点検評価、監事監査、内部監査等を行うこと。

【24 年度評価における主な指摘事項】

○人件費の削減は順調に実施されており、努力をしていると評価できる。今後は、優秀な人材を確保・育成することにより、組織の活性化を図られたい。

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 | |
|------|--|--|------|----|
| | | | 年度 | 中期 |
| 9210 | 2 給与水準の適正化等 国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数は国家公務員の水準を超えないよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。また、人事費改革の取り組みについて、今後の独立行政法人制度の見直し等を踏まえて検討する。 | 2 給与水準の適正化等 <ul style="list-style-type: none">・人事給与統合システムが平成 20 年 4 月から稼働し、機構全体として統一的な処理ができるようになった。さらに人件費の削減に向けたシミュレーション等により人件費に関する計画を円滑に企画・立案することができた。・地域手当について、平成 25 年度においても平成 21 年度の率を据え置くことが決定された。・役職員の報酬額については、毎年度、総務省の実施している「独立行政法人的役員の報酬等及び職員の給与の水準の公表方法等について（ガイドライン）」、平成 15 年 9 月 9 日策定において、個別の額を公表しており、また、法人ウェブサイト上においても掲載している。今後も引き続き公表することとしている。 | A | 順調 |

3 契約の適正化の推進

【中期目標】契約については、「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」（平成 21 年 11 月 17 日閣議決定）に基づく取組を着実に実施し、一層の競争性と透明性の確保に努め、契約の適正化を推進するとともに外部委託の活用等により、定型的な管理・運営業務の効率化を図ること。

【中期計画】

3 「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」（平成 21 年 11 月 17 日閣議決定）に基づき引き続き取組みを着実に実施し、文化財の購入等随意契約が真にやむを得ないものを除き、競争性のある契約への移行を推進することにより、経費の効率化を行う。また「独法の事務・事業の見直しの基本方針」（平成 22 年 12 月 7 日閣議決定）に基づき、施設内店舗の賃借について、企画競争を導入するなど競争性と透明性を確保した契約方式とする。なお民間競争入札については、現在実施している民間競争入札の検証結果等を踏まえ、一層推進する。

【主な計画上の評価指標】

○情報セキュリティに配慮した情報化・電子化に取り組むこと。
○情報セキュリティ対策の向上・改善のための定期監査等を実施すること。

【24 年度評価における主な指摘事項】

○文化財を取り扱う特殊な分野であることからみると、随意契約が最も選択となり得る場合があることにも留意すべきである。
○一者応札・応募の原因は把握されているが、改善方策が公告期間の延長のみであるため、さらなる検討が必要である。

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 | |
|------|---|---|------|----|
| | | | 年度 | 中期 |
| 9310 | 3 契約の適正化の推進 1) 契約監視委員会を実施する。 2) 施設内店舗の貸付・業務委託について引き続き企画競争を実施する。 3) 民間競争入札を推進する。 (東京国立博物館・東京文化財研究所) ・施設管理・運営業務を継続して民間競争入札による外部委託を行う。 (東京国立博物館) ・展示場における来館者応対等業務を継続して民間競争入札による外部委託を行う。 | 3 契約の適正化の推進 <ul style="list-style-type: none">1) 「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて（平成 21 年 11 月 17 日閣議決定）」に基づき、外部委員で構成された契約監視委員会を設置し、機構が平成 25 年度に締結した契約の点検・見直しを行った。 第 1 回契約監視委員会（25 年 11 月 29 日開催） 第 2 回契約監視委員会（26 年 6 月 13 日開催予定）2) 東京国立博物館正門前無料施設（ミュージアムショップ等）運営業務について、企画競争を実施した。 東京国立博物館（ミュージアムショップ・レストラン・黒田記念館カフェ）、京都国立博物館（レストラン）、奈良国立博物館（ミュージアムショップ・レストラン）、奈良文化財研究所（ミュージアムショップ）については、既に企画競争を実施済み。 今後も、賃貸借期間終了時に順次企画競争を実施予定である。3) ・総務省からの要請に基づき、「独立行政法人整理合理化計画（平成 19 年 12 月 24 日閣議決定）」の一環として、随意契約の見直しを行い、随意契約によることがやむを得ないものを除き、引き続き競争契約に移行している。 ・より多くの競争参加業者を募るために、公告期間をこれまでの「10 日間以上」から自主的措置として 20 日間以上確保するように引き続き努めている。 ・列品等修理契約について、修理契約委員会を設置し、修理可能な業者が複数存在すると判断された契約は企画競争を実施している。 | A | 順調 |

| | | 一般競争入札件数 | | | | | |
|--|--|----------|------|------|-----|--|--|
| | | 年度 | 24年度 | 25年度 | 増減 | | |
| | | 件数 | 136件 | 171件 | 35件 | | |

4 保有資産の有効利用の推進

【中期目標】保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、本来業務に支障のない範囲で有効利用の推進を図ること。

【中期計画】

4 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、有効利用の推進を図るため、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施する。

【主な計画上の評価指標】

○対国家公務員指指数について、現状を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表すること。

【24年度評価における主な指摘事項】

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------|--|--|------|--------|-----------|------------------|------------|------------------|-------|-------------------|---------|-----------------|-------------------|------------------|----|---------------------|---|----|
| | | | 年度 | 中期 | | | | | | | | | | | | | | |
| 9411 | 4 保有資産の有効利用の推進 (博物館4施設) 1) 講座・講演会等を開催する。 2) 講堂等の利用案内を関係団体、学校等に対し積極的に行う。 3) 国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。 | 4 保有資産の有効利用の推進 【東京国立博物館】 1)月例講演会等の他、当館主催や外部利用による講演会を実施した。 2)撮影件数増加のためインターネットロケーション検索サイト(ロケなび!)への登録を継続した。 3)定期的にコンサート、寄席などの文化イベントを開催した。 •「国際博物館の日」を記念して上野地区の機関と連携し、ガイドツアーなどを実施した。 •「留学生の日」イベントを行い、ガイドツアーや茶道体験など日本文化の紹介を行った。 | A | 順調 | | | | | | | | | | | | | | |
| 9412 | | 【京都国立博物館】 1)平常展示館建替工事期間中のため、展覧会等に関する講演会、土曜講座等は館外の施設を利用して開催した。 2)平常展示館建替工事期間中で講堂を使用できないため、庭園を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進を行った。また、外部団体等の講演会・研修会等への施設の貸出を積極的に行つた。 3)来館者の拡大を目的としたコンサートや映画野外上映会を実施し、施設の有効利用を図った。 | A | 順調 | | | | | | | | | | | | | | |
| 9413 | | 【奈良国立博物館】 1)公開講座、サンデートーク、正倉院展ボランティア解説、特別鑑賞会、文化財保存修理所特別公開等を開催した。 2)奈良市教育委員会と連携し、市内の小学校5年生を対象とした世界遺産学習を実施した。 3)地元自治体等と連携し、敷地内でコンサート等のイベントを実施した。 | A | 順調 | | | | | | | | | | | | | | |
| 9414 | | 【九州国立博物館】 1)文化交流展示や特別展に関連する講座・講演会等を開催した。 2)ミュージアムホール、エントランスホール、研修室、茶室等において、館主催事業及び各種団体主催のイベントを開催するとともに、希望団体にはミュージアムホール、研修室、茶室の貸出を行つた。 3)国際シンポジウム、アジア諸国に関するイベント、留学生の日のイベント等を開催した。また、ガムランワーカーショップや茶道体験、コンサートの開催等を継続的に実施し、施設の有効活用を促進した。 | A | 順調 | | | | | | | | | | | | | | |
| 9415 | (文化財研究所2施設) セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を引き続き図る。 | 【東京文化財研究所】 •セミナー室、会議室等を利用することにより、施設の有効利用の推進を図った。 •研究成果を広く一般にも公表するためのオープンレクチャーを今年度も開催した。この事業は台東区との連携事業として毎年開催されている「上野の山文化ゾーンフェスティバル」に東京文化財研究所のオープンレクチャーを同事業の講演会シリーズとして実施している。 | A | 順調 | | | | | | | | | | | | | | |
| 9416 | | 【奈良文化財研究所】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>平成25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平城宮跡資料館講堂</td> <td>115件 (内 有償貸与 6件)</td> </tr> <tr> <td>平城宮跡資料館小講堂</td> <td>156件 (内 有償貸与 4件)</td> </tr> <tr> <td>寄宿舎施設</td> <td>805件 (内 有償貸与 13件)</td> </tr> <tr> <td>飛鳥資料館講堂</td> <td>45件 (内 有償貸与 0件)</td> </tr> <tr> <td>その他(本庁舎・管理棟・収蔵庫等)</td> <td>21件 (内 有償貸与 14件)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,142件 (内 有償貸与 37件)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 一般利用申し出への行政サービスの向上を図る方針のもとに、ウェブサイトでの施設利用紹介等による積極的有効利用(貸付等)の促進を図った。 奈良文化財研究所が企画実施する研修等に際して、宿泊施設の有効活用を図った。ただし、本庁舎改築整備に伴って研修課程数を減らざるを得なかったため(研修課程数9課程。24年度:12課程)、利用件数も減少となつた。 上記のほか、平城宮跡資料館、飛鳥資料館の各ミュージアムショップ(売店)の運営を外部委託し、図録等の販売を通して来館者の利便に供した。 | 施設名 | 平成25年度 | 平城宮跡資料館講堂 | 115件 (内 有償貸与 6件) | 平城宮跡資料館小講堂 | 156件 (内 有償貸与 4件) | 寄宿舎施設 | 805件 (内 有償貸与 13件) | 飛鳥資料館講堂 | 45件 (内 有償貸与 0件) | その他(本庁舎・管理棟・収蔵庫等) | 21件 (内 有償貸与 14件) | 合計 | 1,142件 (内 有償貸与 37件) | A | 順調 |
| 施設名 | 平成25年度 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 平城宮跡資料館講堂 | 115件 (内 有償貸与 6件) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 平城宮跡資料館小講堂 | 156件 (内 有償貸与 4件) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 寄宿舎施設 | 805件 (内 有償貸与 13件) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 飛鳥資料館講堂 | 45件 (内 有償貸与 0件) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| その他(本庁舎・管理棟・収蔵庫等) | 21件 (内 有償貸与 14件) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 1,142件 (内 有償貸与 37件) | | | | | | | | | | | | | | | | | |

5 内部統制の充実・強化

(1)理事長のマネジメント強化

| 【中期目標】法令等を遵守するとともに、業務の特性や実施体制に応じた効果的な統制機能の在り方を検討し、内部統制の充実・強化を図ること。 | | | |
|--|--|---|---------------|
| 【中期計画】 | | 【主な計画上の評価指標】 | |
| 5 (1) 理事長のマネジメント強化のため業務の特性や実施体制に応じた効果的な統制機能の在り方を検討し、自己点検評価を始め監事監査、内部監査などモニタリングを行う。 | | 【24年度評価における主な指摘事項】 | |
| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 年度 中期 |
| 9510 | <p>5 (1) 理事長のマネジメント強化</p> <p>1) モニタリングの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己点検評価を行う。 ・監事監査を行う。 ・内部監査を行う。 <p>2) リスクマネジメントの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスク管理の必要に応じて、関連する諸規程の整備・見直しを行う。 ・危機管理マニュアルの見直し等を隨時行う。 | <p>5 (1) 理事長のマネジメント強化</p> <p>1) モニタリングの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己点検評価を行い、『平成24年度 独立行政法人国立文化財機構自己点検評価報告書』を作成(25年6月)し、評価結果をウェブサイトで公開した。外部評価委員からの意見等を踏まえ、評価のしやすさに配慮して自己点検評価報告書を作成。 ・監事による定期監査(25年6月21日)を行った他、臨時監査を京都国立博物館(26年1月10日)、九州国立博物館(26年1月17日)、アジア太平洋無形文化遺産研究センター(26年2月14日)を対象に行なった。 ・内部監査を、25年10月31日～11月29日の日程で、本部事務局及び各施設を対象に順次行った。 <p>2) リスクマネジメントの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理事長からの指示に基づき、関連する諸規程の見直しを行い、東京国立博物館防災管理規則に規定する自衛消防隊組織の改編をした。 ・理事長からの指示に基づき、危機管理マニュアルの見直しを随時行い、東京国立博物館では緊急対応ポケットメモの改訂を行い本部職員と東京国立博物館の職員へ配布した。 | A 順調 |

(2)外部有識者による事業評価

| 【中期目標】外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ事業評価を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させること。 | | | |
|--|---|---|---------------|
| 【中期計画】 | | 【主な計画上の評価指標】 | |
| 5 (2) 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回以上事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を行う。 | | 【24年度評価における主な指摘事項】 | |
| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 年度 中期 |
| 9520 | <p>5 (2) 外部有識者による事業評価</p> <p>1) 運営委員会、外部評価委員会を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させる。</p> <p>2) 職員の資質向上を図るため各種研修を実施する。</p> | <p>5 (2) 外部有識者による事業評価</p> <p>1) 運営委員会(25年7月30日)、外部評価委員会(研究所・センター調査研究等部会：25年4月17日、博物館調査研究等部会：4月23日、総会：5月22日)を実施し、その結果を機構の事業等の改善に反映させた。</p> <p>2) (各種研修について詳細は処理番号 0230 参照)</p> | A 順調 |

(3)情報セキュリティ対策の向上と改善

| 【中期目標】管理する情報の安全性向上のため、政府の方針を踏まえた適切な情報セキュリティ対策を推進し、必要な措置をとること。 | | | |
|--|--|---|---------------|
| 【中期計画】 | | 【主な計画上の評価指標】 | |
| 5 (3) 管理する情報の安全性向上のため、政府の方針を踏まえた情報セキュリティに配慮した業務運営の情報化・電子化に取り組み、情報セキュリティ対策の向上と改善を図るために定期監査等を実施する。 | | 【24年度評価における主な指摘事項】 | |
| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 年度 中期 |
| 9530 | <p>5 (3) 情報セキュリティ対策の向上と改善</p> <p>1) 情報セキュリティについて定期監査等を実施する。</p> <p>2) 機構全体での情報セキュリティ強化のため、ネットワーク環境の見直しを行う。</p> | <p>5 (3) 情報セキュリティ対策の向上と改善</p> <p>1) 保有個人情報管理監査を、京都国立博物館(26年1月10日)、九州国立博物館(26年1月17日)、アジア太平洋無形文化遺産研究センター(26年2月14日)を対象に実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報システム監査を、京都国立博物館を対象に実施した。(25年11月6日) ・情報システム自己点検・評価について、セキュリティ対策の実施状況に重点を置いて実施した。(25年4月) ・監査法人による監査の一環として、システム監査を実施した。(25年12月) <p>2) 当初の予定では、25～26年度にかけて、セキュリティ強化、安定性向上を目的とした機構内ネットワークの統合を行うこととしており、その準備・検討を進めていたが、要求していた26年度以降の予算措置の見込みがなくなったため、やむを得ず見送った(25年12月)。引き続き、機構 VPN の見直しについての検討を継続する。</p> | B ほぼ順調 |

III 予算(人件費の見積もりを含む)、収支計画及び資金計画

| | |
|--|--|
| <p>【中期目標】入場料収入、寄付金等による自己収入の確保、予算の効率的な執行等に努め、適切な財務内容の実現を図ること。</p> <p>1 自己収入の増加 入場料収入、寄付金等の外部資金、本来業務に支障のない範囲で施設の有効利用により自己収入を確保することで財源の多様化を図り、法人全体として積極的に自己収入の増加に向けた取り組みを進めること。 また、自己収入額の取り扱いにおいては、各事業年度に計画的な収支計画を作成し、当該収支計画による運営に努めること。</p> <p>2 固定的経費の節減 管理業務の節減を行うとともに、効率的な施設運営を行うこと等により、固定的経費の節減を図ること。</p> | |
| <p>【中期計画】管理業務の効率化を図る観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算による運営を行う。 また、収入面に関しては、実績を勘案しつつ、入場料収入、寄付や賛助会員等への加入者の増加、募金箱の設置などによる外部資金、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなど、施設の有効利用により自己収入を確保することで財源の多様化を図り、法人全体として積極的に自己収入の増加に向けた取り組みを進めることにより、計画的な収支計画による運営を行う。</p> | |

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 | |
|------|------|------|------|----|
| | | | 年度 | 中期 |

| 予算 | | (単位：百万円) | | | |
|-------------|--------|----------|--|--|--|
| 区分 | 金額 | | | | |
| 収入 | | | | | |
| 運営費交付金 | 8,392 | | | | |
| 施設整備費補助金 | 2,854 | | | | |
| 展示事業等収入 | 1,322 | | | | |
| 受託収入 | 26 | | | | |
| 計 | 12,594 | | | | |
| 支出 | | | | | |
| 管理経費 | 1,415 | | | | |
| うち人件費 | 614 | | | | |
| うち一般管理費 | 801 | | | | |
| 業務経費 | 8,299 | | | | |
| うち人件費 | 2,167 | | | | |
| うち調査研究事業費 | 1,955 | | | | |
| うち情報公開事業費 | 187 | | | | |
| うち研修事業費 | 20 | | | | |
| うち国際研究協力事業費 | 224 | | | | |
| うち展示出版事業費 | 185 | | | | |
| うち展覧事業費 | 3,485 | | | | |
| うち教育普及事業費 | 76 | | | | |
| 施設整備費 | 2,854 | | | | |
| 受託事業費 | 26 | | | | |
| 計 | 12,594 | | | | |

収支計画

(単位：百万円)

| 区 分 | 金 額 |
|--------------|-------|
| 費用の部 | 6,971 |
| 経常経費 | 6,971 |
| 管理経費 | 1,052 |
| うち人件費 | 614 |
| うち一般管理費 | 438 |
| 業務経費 | 5,516 |
| うち人件費 | 2,167 |
| うち調査研究事業費 | 1,068 |
| うち情報公開事業費 | 102 |
| うち研修事業費 | 11 |
| うち国際研究協力事業費 | 122 |
| うち展示出版事業費 | 101 |
| うち展覧事業費 | 1,903 |
| うち教育普及事業費 | 42 |
| 受託事業費 | 26 |
| 減価償却費 | 377 |
| 収益の部 | 6,971 |
| 運営費交付金収益 | 5,245 |
| 展示事業等の収入 | 1,322 |
| 受託収入 | 26 |
| 資産見返運営費交付金戻入 | 360 |
| 資産見返物品受贈額戻入 | 18 |

資金計画

| 区 分 | 金 額 |
|---------------|--------|
| 資金支出 | 12,594 |
| 業務活動による支出 | 6,594 |
| 投資活動による支出 | 6,000 |
| 資金収入 | 12,594 |
| 業務活動による収入 | 9,740 |
| 運営費交付金による収入 | 8,392 |
| 展示事業等による収入 | 1,322 |
| 受託収入 | 26 |
| 投資活動による収入 | 2,854 |
| 施設整備費補助金による収入 | 2,854 |

IV その他主務省令で定める業務運営に関する事項

| | | | |
|---|--|--|---|
| <p>【中期目標】</p> <p>1 施設・設備に関する計画 各施設の安全かつ良好な施設環境を維持するとともに、業務の目的・内容に適切に対応するため長期的視野に立った施設・設備の整備計画、研究機器の整備・更新計画を作成し、整備を図ること。</p> <p>2 人事に関する計画 人事管理、人事交流の適切な実施により、内部管理事務の改善を図り、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用すること。 また機構の将来を見据え、専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を図ること。</p> | | <p>【中期計画】</p> <p>1 施設・設備に関する計画 施設・設備の老朽化度合い等を勘案しつつ、別紙4のとおりの施設・設備に関する計画に沿った整備を推進する。</p> <p>2 人事計画に関する計画 (1)方針 ①国家公務員制度改革や類似独立行政法人等の人事・給与制度改革の動向を勘案しつつ、職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討し、導入する。 ②人事交流を促進するとともに、職員の資質向上を図るために研修機会の提供を行う。また、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用する。 ③機構の将来を見据え、専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を行う。</p> <p>(2)人員に係る指標 給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進する。 中期目標期間中の人件費総額見込額 13,087百万円 但し、上記の額は、役職員に対し支給する報酬（給与）、賞与、その他の手当の合計額であり、退職手当、福利厚生費を含まない。</p> <p>3 中期目標期間を超える債務負担 中期目標期間を超える債務負担については、機構の業務運営に係る契約の期間が中期目標期間を超える場合で、当該債務負担行為の必要性及び資金計画の影響を勘案し、合理的と判断されるものについて行う。</p> <p>4 積立金の使途 前中期目標期間の期間の最終年度において、独立行政法人通則法第44条の処理を行ってなお積立金があるときは、その額に相当する金額のうち文部科学大臣の承認を受けた金額について、次期へ繰り越した経過勘定損益影響額等による会計処理に充当する。</p> | <p>【主な計画上の評価指標】</p> <p>○職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度の検討・導入を図ること。 ○人事交流の促進、職員への研修機会の提供等を図ること。 ○専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を行うこと</p> <p>【24年度評価における主な指摘事項】</p> <p>○これ以上の人員削減や人件費の圧縮は法人本来の中核的な業務にも影響が生じることになるため、人事制度の見直しが望まれる。</p> |
|---|--|--|---|

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------------|---|----------|------|-----|------------------------|-----|----------|--------------------|-----|----------|---------------------------|-------|----------|-----|-------|--|---|---|----|
| | | | 年度 | 中期 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0110 | <p>1 施設・設備に関する計画 別紙のとおり施設・設備に関する計画に沿った整備を推進する。</p> <p>施設・設備に関する計画 (単位：百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設・整備の内容</th> <th>予定額</th> <th>財 源</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>京都国立博物館 緊急屋根等漏水補修工事</td> <td>200</td> <td>施設整備費補助金</td> </tr> <tr> <td>奈良国立博物館 収蔵庫免震工事</td> <td>123</td> <td>施設整備費補助金</td> </tr> <tr> <td>奈良文化財研究所 本庁舎地区再開発計画の推進</td> <td>2,531</td> <td>施設整備費補助金</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>2,854</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 施設・整備の内容 | 予定額 | 財 源 | 京都国立博物館 緊急屋根等漏水補修工事 | 200 | 施設整備費補助金 | 奈良国立博物館 収蔵庫免震工事 | 123 | 施設整備費補助金 | 奈良文化財研究所 本庁舎地区再開発計画の推進 | 2,531 | 施設整備費補助金 | 合 計 | 2,854 | | <p>1 施設・設備に関する計画 (国立文化財機構)</p> <ul style="list-style-type: none"> 機構の長期的ビジョンを実現していくため、施設整備に関する中長期プランとして、『独立行政法人国立文化財機構 施設整備マスタープラン』を26年3月31日に作成した。今後、概算要求等で活用していく。 (東京国立博物館) 正門東側にインフォメーション及びミュージアムショップの機能を備えた施設（正門プラザ）を建設した。 本館リニューアルに向けて、1階展示室、エレベーター、地下トイレ等の改修工事を実施した。 黒田記念館の障がい者用エレベーター、段差解消機及び多目的トイレ設置の改修工事を含めた耐震補強改修及び書庫棟傾き補修等の工事を24年度に引き続き実施し、25年7月に完了した。 表慶館に障がい者用エレベーター及び多目的トイレ設置の改修工事を24年度に引き続き実施し、25年6月に完了した。 (京都国立博物館) 緊急屋根等漏水補修工事は、平成25年度末に文化財保存修理所改修工事期間中の仮工房整備工事を完了し、本館中央室屋根修繕工事の瓦の平葺きまでの工程を終えた。 24年度に本体工事が完了した平成知新館（新平常展示館）において、今年度は外構工事、展示ケース製作工事を実施した。 (奈良国立博物館) 彫刻品を収める収蔵庫2室について、室内の床を免震化する改修工事を実施した。 防災設備等の改修として、収蔵庫ガス消火設備工事、防犯設備工事（センサー・監視カメラ）、発電機設備工事を24年度に引き続き実施し、25年度末に完了した。 (奈良文化財研究所) 本庁舎の建替に向けて、仮設庁舎建設工事及び移転を完了した。現庁舎取壊工事を進めており、26年度第二四半期末に完了を予定している。 新庁舎建設の設計を進めており、26年度第二四半期末に完了を予定している。 | A | 順調 |
| 施設・整備の内容 | 予定額 | 財 源 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 京都国立博物館 緊急屋根等漏水補修工事 | 200 | 施設整備費補助金 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 奈良国立博物館 収蔵庫免震工事 | 123 | 施設整備費補助金 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 奈良文化財研究所 本庁舎地区再開発計画の推進 | 2,531 | 施設整備費補助金 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合 計 | 2,854 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 | |
|------|--|--|------|----|
| | | | 年度 | 中期 |
| 0210 | <p>2 人事計画に関する計画 (1)職員の能力や業績を適切に反映</p> | <p>2 人事計画に関する計画 (1)平成20年度において、機構として統一的な運用及び規程を整備し、勤務評定制度を開始した。給与へは昇給及</p> | A | 順調 |

| 0220 | <p>できる人事・給与制度を検討する。 (2) 近隣大学等との交流を進め、優秀な人材を確保する。</p> <p>び勤勉手当に反映している。</p> <p>(2) 事務系職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本部事務局及び各施設において、東京大学、京都大学、大阪大学、九州大学及び(独)国立美術館等から受け入れており、人材の確保と適材適所の人員配置を行った。 ・機構内での人事交流を図るため、本部及び各施設間（計8人）における交流を行っている。 | A | 順調 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|--|-----------------------------|-------------------------------------|-------------------|-----------------------------------|----------------------------------|--------------------------------|--------------|--------------------------------|------------|----|-----------------------------------|--------------------------|-------------------------------------|-------------------|----------------------------|----------------------------------|---|-----------|----|---------------------------|-----------------------------|--------------------------|--------------|-------------------------|---------------------------|---|-----------|----|----------------------------|-----------------------------|--------------------------|--------------|------------------------|---------------------------|--------|------------|----|------------------------|--------------------------|-------------------------|--------------|----------------------------|-------------------------|--------|------------|----|----------------|--------------------------|----------------------------|-------|-----------------------------------|-------------------------|-------|-----------|--|--|
| | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center; padding: 2px;">年 度</th> <th style="text-align: center; padding: 2px;">本部・東京 国立博物館</th> <th style="text-align: center; padding: 2px;">京都 国立博物館</th> <th style="text-align: center; padding: 2px;">奈良 国立博物館</th> <th style="text-align: center; padding: 2px;">九州 国立博物館</th> <th style="text-align: center; padding: 2px;">東京文化財 研究所</th> <th style="text-align: center; padding: 2px;">奈良文化財 研究所</th> <th style="text-align: center; padding: 2px;">アジア太平 洋無形文化 遺産研究セ ンター</th> <th style="text-align: center; padding: 2px;">年度計 (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; padding: 2px;">21</td><td style="text-align: center; padding: 2px;">18(文化庁、 東大、東近 美、政研大、 京博)</td><td style="text-align: center; padding: 2px;">13(京大、民 博、奈良博、 東博)</td><td style="text-align: center; padding: 2px;">10(文化庁、 阪大、京大、 北九州高専、 京博口)</td><td style="text-align: center; padding: 2px;">11(九大、九 工大、本部)</td><td style="text-align: center; padding: 2px;">8(東大、医科 歯科大、東 博、奈文研)</td><td style="text-align: center; padding: 2px;">8(京大、阪 大、滋賀大、 総地研、奈女 大)</td><td style="text-align: center; padding: 2px;">—</td><td style="text-align: center; padding: 2px;">68 (8)</td></tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 2px;">22</td><td style="text-align: center; padding: 2px;">18(東大、東 近美、政研 大、京博)</td><td style="text-align: center; padding: 2px;">14(京大、阪 大、民博、奈 文研、東博)</td><td style="text-align: center; padding: 2px;">8(文化庁、阪 大、京大、京 博口)</td><td style="text-align: center; padding: 2px;">8(九大、本 部)</td><td style="text-align: center; padding: 2px;">5(医科歯科 大、東博、奈 文研)</td><td style="text-align: center; padding: 2px;">11(京大、阪 大、総地研、 奈女大)</td><td style="text-align: center; padding: 2px;">—</td><td style="text-align: center; padding: 2px;">64 (9)</td></tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 2px;">23</td><td style="text-align: center; padding: 2px;">17(東大、東 近美、政研 大、奈文研)</td><td style="text-align: center; padding: 2px;">14(京大、阪 大、民博、奈 文研、東博)</td><td style="text-align: center; padding: 2px;">12(阪大、京 大、京博、本 部口)</td><td style="text-align: center; padding: 2px;">8(九大、本 部)</td><td style="text-align: center; padding: 2px;">6(医科歯科 大、東博、本 部)</td><td style="text-align: center; padding: 2px;">12(文化庁、 京大、阪大、 奈女大)</td><td style="text-align: center; padding: 2px;">1(奈文研)</td><td style="text-align: center; padding: 2px;">70 (12)</td></tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 2px;">24</td><td style="text-align: center; padding: 2px;">17(東大、學 士院、奈文 研)</td><td style="text-align: center; padding: 2px;">14(京大、民 博、奈文研、 東博)</td><td style="text-align: center; padding: 2px;">9(阪大、京 大、京博、本 部口)</td><td style="text-align: center; padding: 2px;">9(九大、本 部)</td><td style="text-align: center; padding: 2px;">7(医科歯科 大、東近美、 東博、本部)</td><td style="text-align: center; padding: 2px;">8(京大、阪 大、奈女大、 京博)</td><td style="text-align: center; padding: 2px;">1(奈文研)</td><td style="text-align: center; padding: 2px;">65 (11)</td></tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 2px;">25</td><td style="text-align: center; padding: 2px;">15(東大、學 士院)</td><td style="text-align: center; padding: 2px;">11(京大、京 近美、民博、 本部)</td><td style="text-align: center; padding: 2px;">9(京大、阪 大、本部、奈 文研、京博)</td><td style="text-align: center; padding: 2px;">8(九大)</td><td style="text-align: center; padding: 2px;">5(東大、医科 歯科大、東 近美、本部、 東博)</td><td style="text-align: center; padding: 2px;">8(京大、阪 大、奈女大、 京博)</td><td style="text-align: center; padding: 2px;">1(京博)</td><td style="text-align: center; padding: 2px;">57 (8)</td></tr> </tbody> </table> | 年 度 | 本部・東京 国立博物館 | 京都 国立博物館 | 奈良 国立博物館 | 九州 国立博物館 | 東京文化財 研究所 | 奈良文化財 研究所 | アジア太平 洋無形文化 遺産研究セ ンター | 年度計 (人) | 21 | 18(文化庁、 東大、東近 美、政研大、 京博) | 13(京大、民 博、奈良博、 東博) | 10(文化庁、 阪大、京大、 北九州高専、 京博口) | 11(九大、九 工大、本部) | 8(東大、医科 歯科大、東 博、奈文研) | 8(京大、阪 大、滋賀大、 総地研、奈女 大) | — | 68 (8) | 22 | 18(東大、東 近美、政研 大、京博) | 14(京大、阪 大、民博、奈 文研、東博) | 8(文化庁、阪 大、京大、京 博口) | 8(九大、本 部) | 5(医科歯科 大、東博、奈 文研) | 11(京大、阪 大、総地研、 奈女大) | — | 64 (9) | 23 | 17(東大、東 近美、政研 大、奈文研) | 14(京大、阪 大、民博、奈 文研、東博) | 12(阪大、京 大、京博、本 部口) | 8(九大、本 部) | 6(医科歯科 大、東博、本 部) | 12(文化庁、 京大、阪大、 奈女大) | 1(奈文研) | 70 (12) | 24 | 17(東大、學 士院、奈文 研) | 14(京大、民 博、奈文研、 東博) | 9(阪大、京 大、京博、本 部口) | 9(九大、本 部) | 7(医科歯科 大、東近美、 東博、本部) | 8(京大、阪 大、奈女大、 京博) | 1(奈文研) | 65 (11) | 25 | 15(東大、學 士院) | 11(京大、京 近美、民博、 本部) | 9(京大、阪 大、本部、奈 文研、京博) | 8(九大) | 5(東大、医科 歯科大、東 近美、本部、 東博) | 8(京大、阪 大、奈女大、 京博) | 1(京博) | 57 (8) | | |
| 年 度 | 本部・東京 国立博物館 | 京都 国立博物館 | 奈良 国立博物館 | 九州 国立博物館 | 東京文化財 研究所 | 奈良文化財 研究所 | アジア太平 洋無形文化 遺産研究セ ンター | 年度計 (人) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 21 | 18(文化庁、 東大、東近 美、政研大、 京博) | 13(京大、民 博、奈良博、 東博) | 10(文化庁、 阪大、京大、 北九州高専、 京博口) | 11(九大、九 工大、本部) | 8(東大、医科 歯科大、東 博、奈文研) | 8(京大、阪 大、滋賀大、 総地研、奈女 大) | — | 68 (8) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 22 | 18(東大、東 近美、政研 大、京博) | 14(京大、阪 大、民博、奈 文研、東博) | 8(文化庁、阪 大、京大、京 博口) | 8(九大、本 部) | 5(医科歯科 大、東博、奈 文研) | 11(京大、阪 大、総地研、 奈女大) | — | 64 (9) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 23 | 17(東大、東 近美、政研 大、奈文研) | 14(京大、阪 大、民博、奈 文研、東博) | 12(阪大、京 大、京博、本 部口) | 8(九大、本 部) | 6(医科歯科 大、東博、本 部) | 12(文化庁、 京大、阪大、 奈女大) | 1(奈文研) | 70 (12) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 24 | 17(東大、學 士院、奈文 研) | 14(京大、民 博、奈文研、 東博) | 9(阪大、京 大、京博、本 部口) | 9(九大、本 部) | 7(医科歯科 大、東近美、 東博、本部) | 8(京大、阪 大、奈女大、 京博) | 1(奈文研) | 65 (11) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 25 | 15(東大、學 士院) | 11(京大、京 近美、民博、 本部) | 9(京大、阪 大、本部、奈 文研、京博) | 8(九大) | 5(東大、医科 歯科大、東 近美、本部、 東博) | 8(京大、阪 大、奈女大、 京博) | 1(京博) | 57 (8) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <p>※表中の人事交流者の人数は、各年度末現在でカウントした。（機構に受け入れている人数）</p> <p>※平成21年度から機構内での人事交流中の人数を含めた。合計欄の（ ）内の人数。</p> <p>（研究系職員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の適性・能力、年齢構成及び業務の効率化など総合的に勘案し、新規に研究職員を6人採用した。 ・また、文化庁から9人の受け入れ及び文化庁への出向を15人行っている。 ・機構内での人事交流を図るため、各施設間にて計8人の交流を行っている。 <p>(3) 機構職員としての資質向上を図るため、新任職員や職員を対象とした各種研修(3件)、施設系の職員を対象とした研修(1件)及びハラスメントに関する研修(1件)を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他、他機関で実施する研修に延べ12名の職員を参加させ、職員の能力開発に寄与した。 | A | 順調 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0240 | <p>(4) 非公務員化のメリットを活かした制度の活用方法について引き続き検討する。</p> | A | 順調 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0250 | <p>(5) 専門スタッフの配置などの計画的な人材の確保・育成に向け、検討を進める。</p> | A | 順調 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 研修名称 | 日程 | 受講対象者 | 受講者数 |
|--------------------|---------------------------|---|-------|
| 新任職員研修会 | 25年7月22日～24日 | 平成24年度以降の新任職員等 | 27人 |
| 接遇研修 | 25年7月23日 | 平成24年度以降の新任職員等 | 27人 |
| 個人情報保護についての研修・講演会 | 25年7月22日 | 平成24年度以降の新任職員等及び本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所全職員及び近隣独立行政法人職員 | 約70人 |
| ハラスメント防止に関する研修・講演会 | 25年7月22日 | 各施設の職員、ハラスメント防止等委員会委員及び相談員等 | 約70人 |
| 施設系職員研修会 | 25年7月25日～26日、26年2月27日～28日 | 機構内の施設系職員 | 延べ19人 |

(4) 平成19年度において、技術職員及び技能・労務職員について、機構独自で採用可能とする規程の整備を行い、平成20年度に施設の維持管理を行う職員を適用範囲とし、平成24年度において、事務職員を適用範囲とした。平成25年度において同採用制度を活用し、事務職員1名、技術職員1名の計2名を採用し、事務職員4名の採用内定を行った。

・平成20年度において、常勤の研究職員に準じた有期雇用職員の人事制度（アソシエイトフェロー）を新たに整備し、専門的事項の調査研究を行う研究職と高度な専門知識と経験等を有する専門職を対象として採用可能とした。平成25年度は東京国立博物館で5人、九州国立博物館で1名、東京文化財研究所で5人及び奈良文化財研究所で6人の計17人を採用した。

・平成25年度の機構独自の採用人数は上記のとおり、事務職員1名、技術職員1名、アソシエイトフェロー17名の計19名である。

(5) 高度の専門的知識経験又は優れた識見を一定の期間活用して行うことが必要と認める業務に雇用する者とした任期付専門員制度を活用し、平成23年度において1名採用した。平成25年度において、柔軟かつ多様な人材の確保のため、新たに任期付専門職員制度を整備し、平成25年8月に1名を採用した。

・高度に優れた専門的技術を兼ね備えた人材を確保すべく、新たな専門スタッフの制度創設に向け検討を始めた。